鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事

総・新穂・石川 設計共同企業体

分　類	図面番号	図　面　名　称	縮　尺		分　類	図面番号	図　面　名　称	縮　尺		分　類	図面番号	図　面　名　称	縮　尺	
			A-1	A-3				A-1	A-3				A-1	A-3
プール整備工事	ＰＡ－００１	図面リスト	NON		構　造	ＰＳ－００１	建築工事特記仕様書＜構造関係（１）＞	NON						
	ＰＡ－００２	特記仕様書Ⅰ	NON			ＰＳ－００２	建築工事特記仕様書＜構造関係（２）＞	NON						
	ＰＡ－００３	特記仕様書Ⅱ	NON			ＰＳ－００３	鉄筋コンクリート造配筋規準図（１）	NON						
	ＰＡ－００４	特記仕様書Ⅲ	NON			ＰＳ－００４	鉄筋コンクリート造配筋規準図（２）	NON						
	ＰＡ－００５	特記仕様書Ⅳ	NON			ＰＳ－００５	鉄筋コンクリート造配筋規準図（３）	NON						
	ＰＡ－００６	特記仕様書Ⅴ	NON			ＰＳ－００６	深層混合処理工法（ウルトラコラム工法）による地業特記仕様書	NON						
	ＰＡ－００７	配置図・案内図	1/500	1/1000		ＰＳ－００７	ボーリング柱状図　プール	NON						
	ＰＡ－００８	敷地面積表	1/400	1/800		ＰＳ－００８	コラム伏図	1/100	1/200					
	ＰＡ－００９	プール配置図・案内図	1/400	1/800		ＰＳ－００９	底板伏図	1/100	1/200					
	ＰＡ－０１０	プール内外仕上表	NON			ＰＳ－０１０	マットスラブ詳細図	1/30	1/60					
	ＰＡ－０１１	プール平面図	1/100	1/200		ＰＳ－０１１	１階床伏図・基礎梁伏図	1/100	1/200					
	ＰＡ－０１２	プール立面図	1/100	1/200		ＰＳ－０１２	基礎梁リスト１	1/30	1/60					
	ＰＡ－０１３	プール断面図	1/100	1/200		ＰＳ－０１３	基礎梁リスト２	1/30	1/60					
	ＰＡ－０１４	プール断面詳細図１	1/30	1/60		ＰＳ－０１４	基礎梁リスト３・小梁リスト１	1/30	1/60					
	ＰＡ－０１５	プール断面詳細図２	1/30	1/60		ＰＳ－０１５	部分詳細図	1/30	1/60					
	ＰＡ－０１６	プール断面詳細図３	1/30	1/60		ＰＳ－０１６	フェンス部詳細図	1/10	1/20					
	ＰＡ－０１７	プール平面詳細図１	1/50	1/100		ＰＳ－０１７	部分断面詳細図１（点検口）	1/20	1/40					
	ＰＡ－０１８	プール平面詳細図２	1/50	1/100		ＰＳ－０１８	部分断面詳細図２（点検口）	1/20	1/40					
	ＰＡ－０１９	プール展開図	1/50	1/100										
	ＰＡ－０２０	プール建具・家具リスト	1/100・1/30	1/200・1/60										
	ＰＡ－０２１	プール管理棟伏図	1/100	1/200										
	ＰＡ－０２２	プールピット図	1/100	1/200										
	ＰＡ－０２３	プール詳細図１	1/100	1/200										
	ＰＡ－０２４	プール詳細図２	1/100・1/20	1/200・1/40										
	ＰＡ－０２５	プール詳細図３	1/10・1/20・1/5	1/20・1/40・1/10										
	ＰＡ－０２６	プール管理棟　筋違計算書	1/100	1/200										
	ＰＡ－０２７	プール・グラウンド工事 仮設計画図	1/250	1/500										

付記	令和4年3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司	図面番号
	鶴岡市建設部建築課							図面名	図面リスト　縮尺	担当		1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司	PA-001
												1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司	

鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事　工事設計図　令和 4年 3月（全　枚）

特 記 仕 様 書

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所　鶴岡市切添町15番4号

2. 敷地面積　24,742.88 ㎡

3. 工事種目
プール整備工事　管理棟　木造・平屋建て
床面積　98.54　㎡

プール　ＦＲＰ製　25m×16m
プールサイド　ＲＣ造

4. 工事範囲
※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。

⊙「3. 工事種目」のうち　プール整備工事　の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし，その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

Ⅱ 建築工事仕様
1. 標準仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は，国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。

2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は，電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお，電気設備工事の特記仕様書は（　／　）図，機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図による。

3. 特記仕様書の表記
（1）項目は，番号に ◯印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は，◯ 印の付いたものを適用する。
◯印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。
⊙印と ◎印の付いた場合は，共に適用する。
（3）特記事項に記載の（　，　，　）内表示番号は，標準仕様書の当該項目，当該図又は当該表を示す。
（4）G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成31年2月閣議決定）に定める判断の基準を満たす物品を示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	①適用基準等	図面，本特記仕様書，標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ・建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・ 本設計図書における「標準詳細図」とは，次の基準を指す。 ・建築工事標準詳細図（平成28年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課 その他 ⊙建築工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成28年度版） ・
	②工事実績情報サービスへの登録	※適用する　(1.1.4)
	③適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速（Vo= 32 m/s） 地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ） ・積雪荷重 建設省告示第1455号における区域　別表（　） (1.2.4)
	④工事写真の撮影対象	※営繕工事写真撮影要領（平成31年版）による工事写真撮影ガイドブック　建築工事編及び解体工事編（平成31年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修による。
	⑤電気保安技術者	※適用する　(1.3.3)
	⑥施工条件	下記以外は現場説明書による。　(1.3.5) ・工事用車両の駐車場所　※図示　・ ・資機材置場　※図示　・ ・建設発生土仮置場　※図示　・ ・　※図示　・
	⑦発生材の処理等	※現場説明書による　・構外搬出適切処理　・　(1.3.11)
	⑧環境への配慮	(1.4.1) （1）建築物内部に使用する材料等は，設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に，次の①から④を満たすものとする。 ① 合板，木質系フローリング，構造用パネル，集成材，単板積層材，ＭＤＦ，パーティクルボード，その他の木質建材，ユリア樹脂板，壁紙，接着剤，保温材，緩衝材，断熱材，塗料，仕上塗材は，アセドアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で，設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は，トルエン，キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は，可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具，書架，実験台，その他の什器類は，ホルムアルデヒド，アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか，発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 （2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において，「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し，同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第20条の７第１項に定める第一種，第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第20条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第20条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	⑨材料の品質等	(1.4.2) （1）本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能の他，通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （2）備考欄に商品名が記載された材料は，当該商品又は同等品を使用するものとし，同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については，材料製造所の指定する工法とする。
	⑩技能士	(1.5.2)

適用工事種類	技能検定作業
仮設工事	⊙とび作業
鉄筋工事	⊙鉄筋組立て作業
コンクリート工事	⊙型枠工事作業　⊙コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	・構造物鉄工作業
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルシーパネル工事作業
防水工事	・アスファルト防水工事作業　・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業　⊙セメント系防水工事作業 ⊙シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	⊙タイル張り作業
木工事	⊙大工工事作業
屋根及びとい工事	⊙内外装板金作業　・スレート工事作業
金属工事	・鋼製下地工事作業　⊙内外装板金作業
左官工事	⊙左官作業
建具工事	⊙ビル用サッシ施工作業　⊙ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	⊙建築塗装作業
内装工事	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上げ作業 ⊙ボード仕上げ工事作業　・壁装作業
排水工事	⊙建築配管作業
舗装工事	・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	・造園工事作業

(1.5.9)
11 化学物質の濃度測定　（1）屋内空気中のホルムアルデヒド，トルエン，キシレン，エチルベンゼン，スチレンの濃度を測定し，測定結果を監督員に報告する。

⑫完成時の提出図書　※完成図書　提出部数　※（A1版・A3版　原図及び複写図(3部)）　・　部
ＣＡＤデータ　※提出する　・提出しない
※保全に関する資料　提出部数　※2部　・　部

⑬完成写真　工事完成時に次の写真を撮影し，監督職員に提出する。

分類・規格		撮影箇所数	提出部数	画素数・画質等
⊙カラー	※キャビネ版	外部（　）内部（　）	※2 ⊙ 4	※500万画素以上
		外観正面　（※1 ・　）	※5 ・	
	・			
・カラー四切木製パネル		外部（　）内部（　）	※2 ・	
・カラー半切木製パネル		外部（　）内部（　）	※2 ・	
⊙電子データ		外部（　）内部（　）	※2 ⊙ 1	※500万画素以上

電子データは，RGB(フルカラー)，JPEG形最高画像とし，CD-Rにて提出する。
・建築写真の撮影実績があるもので，監督職員が承諾する撮影業者
・

14 他工事又は他工種との取合い　工事区分表による。これにより難い場合は監督職員と協議する。

⑮設計ＧＬ　※図示　・（　）

② 仮設工事

①足場その他　(2.2.4)
⊙「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては，同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

2 監督職員事務所　※設ける　・設けない　(2.3.1)
規模及び仕上げの程度は現場説明書による。

③工事用水　構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

④工事用電力　構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

③ 土工事

①埋戻し及び盛土　(3.2.3)
埋戻し及び盛土の種別　(表3.2.1)
・Ａ種　適用場所（　）
⊙Ｂ種　適用場所（　）
・Ｃ種　適用場所（　）土質（　）受渡場所（　）
・Ｄ種　適用場所（　）

②建設発生土の処理　⊙構外搬出適切処理　(3.2.5)
・構内指定場所に堆積　・構内指定場所に敷均し

3 山留めの撤去　・鋼矢板等の抜き跡の処理　※直ちに砂で充填する　・　(3.3.3)
・山留め壁の存置　・行う（存置範囲　※図示　・　）

④ 地業工事（特記以外については構造特記仕様書による）

1 支持地盤
・杭基礎　(4.2.1)(4.3.4)(4.3.5)(4.5.5)(4.5.6)
支持地盤の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む）
・図示による（　）　・

・直接基礎　(4.2.1)
支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む）
・図示による（　）　・

試験掘り（根切り底の状態の確認等）　(3.2.1)
・行わない
・行う
位置等　・図示による（　）　・

・杭の載荷試験　(4.2.3)
試験の位置，方法等
・図示による（　）　・

・地盤の載荷試験　(4.2.4)
試験の位置，方法等
・図示による（　）　・

2 既製コンクリート杭地業
種類　(4.3.3)
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490
・

寸法，継手，性能等（種別：種類，性能及び曲げ強度区分）　(4.2.2)(4.3.3)

		種類	コンクリート強度(N/mm²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状　(4.3.3)
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・

・セメントミルク工法　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.4)
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　）　・

3 鋼杭地業
寸法，寸法，継手等　(4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)

		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

・特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.5)(4.4.4)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα，β，γが以下の値を採用できる工法
α=（　），β=（　），γ=（　）
工法
・中掘り拡大根固め工法
・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　）　・

4 場所打ちコンクリート杭地業
工法　(4.5.1)(4.5.5)
・アースドリル工法（安定液　※使用する　・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張り　・行う　・行わない）

併用する工法　(4.5.1)(4.5.6)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管の種類　・SKK400　・SKK490　・
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）
・

寸法等　(4.2.2)

	鋼管厚(mm)	鋼管径(mm)	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(mm)	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭								
本杭								

試験杭　(4.5.5)
試験杭の位置
・図示による（　）　・

⑤砂利地業
材料　(4.6.2)
⊙再生クラッシャラン G　・切込砂利及び切込砕石
砂利厚さ　(4.6.3)
※60mm　・
適用箇所
⊙基礎梁下，土間コンクリート下，土に接するスラブ下
・図示による（　）　・

⑥捨コンクリート地業
捨コンクリートの厚さ　(4.6.4)
※50mm　・

⑦床下防湿層
材料　(4.6.2)
⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・

⑤ 鉄筋工事（特記以外については構造特記仕様書による）

①鉄筋
鉄筋の種類　(5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備考
⊙ SD295A	※ D16以下	
⊙ SD345	※ D19以上	
・ SD390	D29以上	
・		

②溶接金網
鉄線の形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状，寸法，鉄線の径(mm)	使用部位
⊙溶接金網		100×100　6mm	大走り
・鉄筋格子			

③鉄筋の継手及び定着
鉄筋の継手の方法等　(5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)

部位	継手の方法		呼び径(mm)
柱及び梁主筋	・ガス圧接 ・溶接継手	・機械式継手 ・重ね継手	※ D19以上
耐力壁の鉄筋	・重ね継手	・	・
基礎，耐圧スラブ，土圧壁	・重ね継手	・ガス圧接	・
上記以外（　）	・重ね継手	・	・

④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）
最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う）　(5.3.5)
・標準仕様書 表5.3.6による
・

⑤各部配筋　各部配筋　(5.3.7)
※図示による

⑥圧接完了後の試験
外観試験　(5.4.10)(5.4.11)
※行う（全ての圧接部）

抜取試験　(5.4.10)(5.4.11)
※超音波探傷試験
試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。
試験の箇所数：１ロットに対して30か所とし，ロットから無作為に抜き取る。

⑥ コンクリート工事（特記以外については構造特記仕様書による）

①コンクリートの類別等
コンクリートの種別　(6.2.1)
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
⊙Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

※普通コンクリート　(6.2.1～4)

設計基準強度(N/mm²)	スランプ(cm)	適用箇所
⊙24	・15又は18　⊙18	基礎・躯体・スラブ
⊙18	⊙18	ピット土間
・	・	

構造体強度補正値
※標準仕様書表6.3.2による
・

②セメント
種類　(6.3.1)
※普通ポルトランドセメント，高炉セメントA種，シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種 G
・

③骨材
アルカリシリカ反応性による区分　(6.3.1)
※A　・B（コンクリート中のアルカリ総量が3.0 kg/m³以下）

④混和材料
・混和剤　(6.3.1)
混和剤の種類
※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による　・

⑤打継ぎの位置，ひび割れ誘発目地，打継目地
打継ぎの位置　(6.6.4)
梁及びスラブ
※スパンの中央又は端から1/4の付近
・図示による（　）　・
柱及び壁
※スラブ，壁梁又は基礎の上端
・図示による（　）　・

目地の寸法　(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
・標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
※ひび割れ誘発目地，打継目地の深さ寸法は，躯体外側の打増し部で処理する

⑥コンクリートの仕上り
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　(6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4)

種別	適用箇所
⊙A種	※図示による（　）
⊙B種	※図示による（　）
・C種	※図示による（　）

⑦打増し厚さ（打放し仕上げ部）
打増し厚さ
⊙打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）　(6.8.1)
・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・10mm　⊙20mm　・

⑧型枠
せき板の材料及び厚さ　(6.8.2)
⊙合板（※12mm　・　）G　・
・断熱材の兼用した型枠
使用箇所
スリーブの材種・規格等　(6.8.2)
⊙図示による（　）　・

9 軽量コンクリート
種類　(6.10.1)(表6.10.1)
・1種　・2種
適用箇所
・図示による（　）　・
スランプ
※21cm　・

付記

令和 4年 3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正
鶴岡市建設部建築課					

総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
図面名	建築工事特記仕様書Ⅰ　縮尺 NonScale	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	PA-002

⑥ コンクリート工事〈続き〉（特記以外については構造特記仕様書による）

10 寒中コンクリート

適用期間 (6.11.1)
・図示による（　　）　・
・積算温度を基に定める場合 (6.11.2)
・図示による（　　）　・

11 暑中コンクリート

構造体強度補正値(S) (6.12.2)
※6N/mm²　・

12 マスコンクリート

適用箇所 (6.13.1)
・図示による（　　）　・

セメントの種類 (6.13.2)
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種
・シリカセメント

混和材料
・混和剤 (6.13.2)
混和剤の種類
※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤
・

⑬ 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.2.1)(6.14.1)
※普通コンクリート

セメントの種類
※普通ポルトランドセメント，高炉セメントA種，シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 (6.3.1)

設計基準強度 (6.14.1)
※18(N/mm²)　・

スランプ (6.14.1)
※15cm又は18cm　・

適用箇所 (6.14.1)
・標準仕様書 6.14.1(4)(7)～(ｶ)による
・図示による（　　）　・

14 流動化コンクリート

適用箇所 (6.15.1)
・図示による（　　）

⑦ 鉄骨工事（特記以外については構造特記仕様書による）

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
・

2 施工管理技術者

・適用する (7.1.3)(7.1.4)
・適用しない

3 鋼材

材質等 (7.2.1)

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
		・JIS規格による　・
		・JIS規格による　・

4 高力ボルト

高力ボルトの種類 (7.2.2)
・トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・

5 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
※標準仕様書7.2.3による　・
座金 (7.2.3)
・標準仕様書7.2.3(4)による　・

7 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
・図示による（　　）
・

8 ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト　・
建築用ターンバックル胴
※割枠式　・

9 デッキプレート

材質，形状及び寸法 (7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備　考
・デッキプレート単独の構法			

鉄骨部材への溶接方法 (7.7.8)
・図示による（　　）　・

10 スタッド

種類等 (7.2.8)

呼び名	呼び長さ (mm)	適　用　箇　所
・16		
・19		
・22		

11 レール及びその付属品

形状及び寸法等 (7.2.8)
・図示による（　　）　・

12 柱底均しモルタル

モルタルの種類 (7.2.9)
・無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料，調合等
材料，調合等
※標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による　・
・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル

13 製作精度

鉄骨の製作精度は，JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］による (7.3.3)

14 鉄骨の仮組

仮組を行う範囲 (7.3.10)
・図示による（　　）　・

15 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
・図示による（　　）　・

16 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1ー2）
・

エンドタブを切断する箇所及び切断範囲 (7.6.7)
適用箇所
・図示による（　　）　・
エンドタブを切断する場合の仕上げは標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)による

スカラップの形状
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1ー4）
・

17 溶接部の試験

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②

JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし，完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は，超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は，すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い，再試験する。

完全溶込み部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
AOQL(%)　※4.0　・2.5

節	・全て			
検査水準	※第6水準			

・工事現場溶接の場合
※全数

18 錆止め塗装

塗料の種別 (7.8.4)(18.3.2)
・鉄鋼面の錆止め塗料の種別 (表18.3.1)
屋外
・A種　・
屋内
・A種　・B種
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料の種別 (表18.3.2)
・A種　・B種

19 耐火被覆

種類，材料，工法等 (7.9.2～8)

種　類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	―		
・耐火塗料			

20 アンカーボルトの設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による（　　）　・

構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による（　　）　・

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)(表7.10.2)
厚さ　・
種別　※A種　・

21 軽量形鋼構造

ボルト接合方法 (7.11.2)
・

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類 (8.2.2～5)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・				・無　・有		

モルタルの調合（容積比） (8.2.3)
目地巾が10mm程度　※表8.2.1による　・
上記以外　・

各部の配筋　※図示　・ (8.2.5)

2 コンクリートブロック帳壁及び塀 (8.3.2)～(8.3.4)

ブロックの種類

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・				・無　・有		

モルタルの調合（容積比） (8.2.3)
目地巾が10mm程度　※表8.2.1による　・
上記以外　・

各部の配筋　※図示　・ (8.2.5)

3 ALCパネル (8.4.2～5)(表8.4.2～4)

パネルの区分	単位荷重 (N/m²)	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁用パネル		・			有（1）時間	・平・意匠	・A種　・B種
・間仕切壁用パネル		・ ・			・有（1）時間 ・無	・平・意匠	・C種　・D種 ・E種
・屋根用パネル		・			有（0.5）時間	平	F種
・床用パネル		・			有（　）時間		

外壁パネルの構法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3 ）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない

4 押出成形セメント板（ECP） (8.5.2～5)(表8.5.1)(表8.5.2)

パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F（フラットパネル）	・50・60・	600	・A種 ・B種	
	・D（デザインパネル）	・50・60			
	・T（タイルベースパネル）	60			
・間仕切壁パネル	・F（フラットパネル）	・50・60・	600	・B種 ・C種	
	・D（デザインパネル）	・50・60			
	・T（タイルベースパネル）	60			

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水 (9.2.2～5)（表9.2.3～9）

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート	立上り部の保護

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3から表9.2.8による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5から表9.2.8による　・
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm 以上　・
床タイル張り　※水下　60mm 以上　・
立上り部の保護
・乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として，板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板　：金属板と樹脂を積層一体化したもの。
・保護れんが
※TIS R 1250（普通れんが及び化粧れんが）
・
屋上排水溝　※図示　・

2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2,3)（表9.3.1～3）

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	防湿層	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による　・
断熱材の種類　・
押え金物
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
・改質アルファルトシートの製造所の指定の種類及び設置数量
・種類（　　）　設置数量（　　個）

③ 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2～4)(表9.4.1～3)

防水層の種別

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用
・S-F1				・	・	・
・S-F2						・
・S-M1				・	・	・
・S-M2						・
・S-M3						
・SI-F1			（厚さ） ・25mm	・	・	・
・SI-F2						・
・SI-M1			（厚さ）	・	・	・
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート ・	・25mm ○30mm			・

屋内防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗り厚さ	工法	立上り部の保護 モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・	・床塗り ・下地モルタル塗り	※7mm以下 ・

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による　・
立上り面のシートの厚さ（S-M2及びSI-M2で接着工法の場合）
※1.5mm　・
固定金具の材質及び形状
材質　※防錆処理した鋼板，ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
・

4 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	高日射反射率防水の適用
・X-1		・	・		
・X-2		・	・		・
・Y-1	※地下外壁防水 ・				
・Y-2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水 X-1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量
・主材料の製造所の仕様による
・種類（　　）　設置数量（　　個）

ゴムアスファルト系塗膜防水 Y-1,Y-2
工程数及び各工程の使用量
・主材料の製造所の仕様による
・

5 ケイ酸質系塗布膜防水 (9.6.1,3)(表9.6.1,2)

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-UI	各水槽、配管ピット	・C-UP	

防水層の下地（壁及び天井）　○コンクリート打放（B種）　・
下地処理（コンクリートの打継処理）　・標準仕様書9.6.4(2)(ｱ)　・

⑥ シーリング (9.7.2)(表9.7.1)

下表以外は，標準仕様書表9.7.1による
ただし，外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に，カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
サッシ廻り	変性シリコーン系
打ち継ぎ目地	変性シリコーン系

シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9.7.3(1)による　・
接着性試験　※簡易接着性試験　・引張接着性試験

10 石工事

1 施工 (10.1.3)(10.1.5)

石材の割付け　※標準仕様書10.1.3(1)(ｱ),(ｴ)による　・図示
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ　・図示　・
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・行う（適用箇所　・全て　・　　）
・行わない

2 石材等 (10.2.1～3)(表10.2.1)(表10.2.2)

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考
上框	・1等品 ・2等品	花崗岩	・正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・300型 ・400型		

取り付用モルタル，既調合の目地モルタル，石裏面処理材，裏打ち処理材，金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品　・

⑪ タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)(表11.1.1)

位置　※標準仕様書表11.1.1による　・図示

2 セメントモルタルによるタイル張り (11.2.2)(11.2.3)(11.2.7)

タイルの形状，寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用G	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	釉ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐汚り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない
壁タイル張りの工法
内装タイル　・密着張り　・改良積上げ張り
・改良圧着張り　・ユニットタイル
外装タイル　・密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り

3 有機系接着剤によるタイル張り (11.3.2～4)(11.3.7)

タイルの形状，寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用G	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	釉ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐汚り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材　・
ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材　・
伸縮調整目地　※変成シリコーン系シーリング材　・
その他の目地　※変成シリコーン系シーリング材　・

⑫ 木工事

① 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	
⊙B種	枠材、額縁、見切り材
・C種	
・H-A種	
・H-B種	
・H-C種	

② 製材 G

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 (表12.2.1)(表12.2.2)

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※2級 ・		※A種　・B種　・	
			※2級 ・		※A種　・B種　・	

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
見え掛り面			※上小節 ・		※A種 ・B種	
見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A種 ・B種	

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※1等 ・		※10%以下 ・A種　・B種　・	
			※1等 ・		※10%以下 ・A種　・B種　・	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率
			（　　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・
			（　　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

※杉材は鶴岡産杉材とする。

③ 造作用集成材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質
一般枠材等	赤松材			※1等　・2等
				※1等　・2等

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

4 造作用単板積層材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用
		・有り （加工：　・天然木化粧加工　・塗装加工） ・無し　（等級：・1等　・2等　・3等）	・適用する ・適用しない

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

5 床張り用合板等

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

・「合板の日本農林規格」による普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹　・1等　※2等以上 針葉樹　※C-D以上　・	・適用する ・適用しない
	・			・	

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	強度等級
	※12 ・	・1級 ※2級以上		※1類 ・特類	・ ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・適用する （　） ・適用しない
	※12 ・	・1級 ※2級以上		※1類 ・特類	・適用する	・適用する	・適用する （　） ・適用しない

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用
			・1類　・特類	・適用する ・適用しない

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理の適用
			・1類　・2類	・適用する ・適用しない

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用
		・1類　・2類			・適用する ・適用しない

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

・パーティクルボード G

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※P又はM ・		※15 ・

・構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ(mm)
	・1級　・2級　・3級　・4級	
	・1級　・2級　・3級　・4級	

・MDF G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

間伐材等の適用　・する　・しない（施工箇所：　　）

⑥ 接着剤

(12.2.2)(12.2.3)

接着剤に含まれる可塑剤は，難揮発性のものとする。
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

⑦ 防腐・防蟻処理

(12.3.1)(12.3.2)

・防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材
　適用部位：（　　）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(4)(b)①～④による　・
	・

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
　適用部位：（　　）

8 間仕切軸組に用いる木材

・杉又は松　・　(12.4.1)

9 床組に用いる木材

（土間スラブの土台，転ばし大引き及び転ばし根太は除く）　(12.4.1)
・杉又は松　・

10 窓，出入口，その他に用いる木材

吊元枠，水掛りの下枠及び敷居：・ひのき　・　(12.5.1)
上記以外　：・松又は杉　・

11 絶甲板及び上がまちに用いる木材

・ひのき　・　(12.6.1)

12 壁及び天井に用いる木材

・杉又は松　・　(12.7.1)

⑬ 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺

(13.2.2)(13.2.3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性，めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
プール管理棟	※JIS G 3322 の屋根用ｺｲﾙ ・		0.4	⊙立平葺 ・ ・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
　⊙改質アスファルトルーフィング下葺材
　（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・ⓐ着層付タイプ）

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない
雪止め　・設置する　図示（　　）

2 折板葺

(13.2.2)(13.3.2)(13.3.3)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高，山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板
	・重ね形， ・はぜ締め形 ・かん合形			（　）種	※鋼板製 ・アルミニウム合金板製		・有り ・無し

材料　板及びコイルの種類（　　）
　塗膜の耐久性，めっき付着量等の種類及び記号（　　）
タイトフレームに JIS G 3302 以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理
（標準仕様書14.2.2による　・E種　・F種）
断熱材　・有り（種別：　　厚さ(mm)：　　防火性能：　時間）
　・無し

3 粘土瓦葺

(13.4.2.3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

凍害試験　・行う　・行わない
瓦桟木　材質　※杉　・
　寸法　※幅21×高さ15(mm)以上　・
棟補強用心材　材質　※杉　・
　寸法　※幅40×高さ30(mm)以上　・

④ とい

(13.5.2.3)

といの材種　・配管用鋼管　⊙硬質ポリ塩化ビニル管　・
とい受金物
　とい受金物の材種，形状，取付け間隔　※表13.5.2による　・
　足金物の材種，形状，取付け間隔　※表13.5.2による　・
　多雪地域の場合の軒どいの取付間隔　※0.5m以下　・
ロックウール保温筒のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

鋼管製といの防露巻き
・適用する（工法：※標準仕様書 表13.5.4による　・　　）
・適用しない

⑭ 金属工事

① ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種　類	施工箇所（手すり，タラップ，建具以外）
※HL程度	
・No.2B　程度	
・鏡面仕上　程度	

② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

※表面処理は標準仕様書表14.2.1 による　(14.2.2)(表14.2.1)

種　別	施工箇所（成型板，笠木，建具以外）
・AB-1種	
・AB-2種	
・AC-1種	
・AC-2種	
・BA-1種	
・BA-2種	
・BB-1種	
・BB-2種	
・BC-1種	
・BC-2種	
・C種	

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色
色合い等　・標準色
　・アンバー　・ブロンズ
　・ブラック系　・ステンカラー　・
　・特注色（　　）

③ 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所（手すり，タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	⊙A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

4 軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4)(表14.4.1)

野縁等の種類
　屋外　※25型　・19型
　屋内　※19型　・25型
・屋外の軒天井，ピロティ天井等
　工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない
　野縁受，吊りボルト，インサートの間隔及び周辺部からの距離　※図示　・
　周辺部の端からの間隔　・図示　・
　野縁の間隔　・図示　・

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
　補強方法　※図示　・

・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
　補強方法　※標準仕様書14.4.4(8)(ｱ)，(ｲ)による　・図示

・屋外の軒，ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
　補強箇所　※図示　・
　補強方法　※図示　・

5 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3)(表14.5.1)

スタッド，ランナーの種類
　※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
　・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合
　※図示　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
　※標準仕様書14.5.4(5)(ｱ)～(ｳ)による　・図示

⑥ 金属成形板張り

(14.6.3)(表14.2.1)

種別　※図示　・
表面処理　※図示　・
取付け用下地　・図示　・標準仕様書14.4 による
伸縮調整継手　・設ける（施工箇所　・図示　・　　）
　・設けない

⑦ アルミニウム製笠木

(14.7.2)(14.7.3)(表14.2.1)(表14.7.1)

種類　・250形　・300形　・350形
表面処理　種別（　　）種
　色合等　・標準色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
　・特注色
笠木の固定金具の工法等
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない

⑧ 手すり及びタラップ

(14.8.2)(14.8.3)

手すりの種別　⊙ステンレス製　SUS 304（表面処理　・HL程度　・　）
　・鋼製　（表面処理　・溶融亜鉛めっきC種　・　）

タラップの種別　・ステンレス製　SUS 304（表面処理　※研磨なし　・　）
　・鋼製　（表面処理　※溶融亜鉛めっきC種　・　）

⑮ 左官工事

1 ラス系下地

(15.2.4)

下地の種類
　・通気工法　（・二層下地　・単層下地）
　・直張り工法（・ラスモルタル下地　・ラスシートモルタル下地）
　・図示（外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する形式の通気工法を行う場合）
ラス下地板，下地用合板，面材等の仕様
　※「公共建築木造工事標準仕様書」の10章8節[外壁回り]による
　・図示（建築基準法に基づく耐力壁，防火構造，準耐火構造等の指定がある場合）
材料　ラス材及ぶ補強用平ラス
　通気工法二層下地　※2種波形ラス700　・
　通気工法二層下地　※2種防水紙リブラス800　・
　ラスシートの山高，山ピッチ，質量及び溶接ピッチによる区分
　※LS4（耐力壁の場合）　・
　ステープルの形状及び寸法
　リブラス　※L925TS　・
　波形ラス　※L1019JS　・

2 せっこうボード，その他のボード下地

(15.2.5)

材料　せっこうボード，せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ
　せっこうボード　種類（　　）　厚さ（　　）
　せっこうラスボード　種類（　　）　厚さ（　　）
　木質系セメント板　種類（　　）　厚さ（　　）

3 こまい下地

(15.2.6)

建築基準法に基づく耐力壁の指定　・なし　・あり

4 木ずり下地

(15.2.7)

材料　木ずり用小幅板の材種　※杉（心去り材）　・

⑤ モルタル塗り

(15.3.2)(15.3.5)

モルタル　・現場調合材料　・既調合材料（　　）
既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　　）
　・設けない
床の目地　・設ける
　（目地割　※2m 程度（最大目地間隔3m程度）　・　　）
　（種類　※押し目地　・　　）
　・設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
　・適用する　・適用しない

6 セルフレベリング材塗り

(15.5.2)(表15.5.1)

・せっこう系　・セメント系

7 仕上塗材仕上げ

(15.6.2)(表15.6.1)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・平たん状
	・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
	・外装薄塗材S	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
	・内装薄塗材C	・	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材L	・	・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材Si	・	
	・内装薄塗材E	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装薄塗材W	・	耐湿性　・適用する　・適用しない
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Si	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材E	・	
	・内装厚塗材C	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材L	・	上塗材　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材G	・	
	・内装厚塗材Si	・	
	・内装厚塗材E	・	
・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
	・可とう形複層塗材CE	・	
	・複層塗材Si	・	上塗材
	・複層塗材E	・	耐候性　※耐候形３種　・
	・複層塗材RE	・	溶　媒　※水系　・溶剤系
	・防水形複層塗材CE	・	樹　脂　※アクリル系　・
	・防水形複層塗材E	・	外　観　※つやあり　・つやなし　・ﾒﾀﾘｯｸ
	・防水形複層塗材RE	・	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・	
	・こて塗用軽量塗材	・	

8 ALCパネルの場合の下地処理

(15.6.4)

内壁目地部の形状　※V形目地付き　・

9 マスチック塗材塗り

(15.7.2)

種別　・A種　・B種

10 せっこうプラスター塗り

(15.8.2)

材料　下塗り及び中塗りに用いるせっこうプラスター
　・既調合プラスター　・現場調合プラスター
　上塗り　・既調合プラスター（上塗り用）　・しっくい塗り　(15.8.3)

11 しっくい塗り

(15.10.1)

下地　※木ずり，こまい土壁塗り，せっこうラスボード又はせっこうボード
　・
材料　・現場調合材料　・既調合材料（しっくいの塗材の種類等：　　）　(15.10.2)
調合及び塗厚　(15.10.3)
　木づり下地　※標準仕様書表15.10.1による　・
　こまい土壁下地　※標準仕様書表15.10.2による　・

12 ロックウール吹付け

(15.12.2)(15.12.3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
吹付け厚さ(mm)　・図示　・25　・

⑯ 建具工事

1 防火戸 (16.1.3)

※建具表による　・

2 見本の製作等 (16.1.4)

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）
　　・行わない
建具見本の程度　・工事に使用するものとして，あらかじめ製作する
　　・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
　　・行わない

3 防犯建物部品 (16.1.6)

・適用する（ ※適用箇所は建具表による　・　　）
・適用しない

④アルミニウム製建具 (16.2.2)(16.2.4)(16.2.5)

性能値等（建具符号，枠の見込み寸法は建具表による）
　耐風圧性等級，気密性等級，水密性等級
　　（ ※建具表による　・図示）
　外部に面する建具の種別　・A種　⊙B種　・C種　・　　(表16.2.1)(表16.2.2)
　・防音ドア，防音サッシとする場合　遮音性の等級（・　　）
　・断熱ドア，断熱サッシG上する場合　断熱性の等級（・建具ﾘｽﾄによる　）
　・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（・　　）
表面処理
　外部に面する建具
　　種別　・BB-1種　⊙BB-2種　(表14.2.1)
　　着色　⊙標準色　・特注色
　屋内の建具
　　種別　・BC-1種　・BC-2種　(表14.2.1)
　　着色　・標準色　・特注色
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板，ぜん板　※図示　・

5 網戸等 (16.2.3)

種　類	材　種	線　径	網　目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS 316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS 304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6 鋼製建具 (16.2.2)(16.4.2～4)(表16.4.2)

性能値等（建具符号は建具表による）
　簡易気密型ドアセット　・適用する（建具符号は建具表による）　・適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性　・S-4　・S-5　・S-6
　・防音ドア，防音サッシとする場合　遮音性の等級（・　　）
　・断熱ドア，断熱サッシG上する場合　断熱性の等級（・　　）
大型建具
　※適用しない（表16.4.2による）
　・適用する（建具符号，枠の見込み寸法は建具表による）

7 鋼製軽量建具 (16.2.2)(16.5.2～4)

性能値等（建具符号は建具表による）
　簡易気密型ドアセット　・適用する（建具符号は建具表による）　・適用しない
　・防音ドア，防音サッシとする場合　遮音性の等級（・　　）
　・断熱ドア，断熱サッシG上する場合　断熱性の等級（・　　）
材料　鋼板　・亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
鋼板の厚さ（mm）　※標準仕様書表16.5.1による
　　・図示
召合せ，縦小口包み板の材質　・建具表による　・

8 ステンレス製建具 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)

性能値等（建具符号，枠の見込み寸法は建具表による）
　簡易気密型ドアセット　・適用する（建具符号は建具表による）　・適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性　・S-4　・S-5　・S-6
　・防音ドア，防音サッシとする場合　遮音性の等級（・　　）
　・断熱ドア，断熱サッシG上する場合　断熱性の等級（・　　）
鋼板　※SUS304，SUS430J1L 又はSUS443J1　・
表面仕上げ　※ＨＬ　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

9 木製建具 (16.7.2～4)

建具材の加工，組立時の含水率　※B種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

・フラッシュ戸
　表面材の合板の種類

合板の種類	樹種・規格等	備　考
・普通合板G	表面の樹種 生地，透明塗料塗り （※ﾌｳ合板程度　・しな合板） 不透明塗料塗り （※しな合板程度・　　） 板面の品質（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木化粧合板G	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・特殊加工化粧合板G	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類）	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・

⑩ 建具用金物 (16.8.2.3)

金物の種類・見え掛り部の材質等
　※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番　※標準仕様書表16.8.2による　・
樹脂製建具に使用する丁番　※標準仕様書表16.8.3による　・
握り玉，レバーハンドル，押板類，クレセントの取付位置
　・建具表による　・
錠前類
　・建具表による　・
クローザ類
　・建具表による　・

⑪ 鍵 (16.8.4)

マスターキー　⊙製作する　・製作しない
その他の鍵　※各室３本１組　・
鍵箱　※有り　・無し

12 自動ドア開閉装置

自動ドアの開閉装置の性能値 (16.9.2～5)

自動ドアの種類	性能	引き戸用検出装置の種類	凍結防止	防錆
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※耐電圧，温度上昇，耐久性（サイクル）は標準仕様書表16.9.1による ・	・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ・行わない	・適用する ・適用しない

13 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)

性能　※標準仕様書表16.10.1による　・

14 重量シャッター (16.11.2)(16.11.3)

シャッターの種類　・管理用シャッター　耐風圧強度（　　）N/㎡
　　・外壁用防火シャッター　耐風圧強度（　　）N/㎡
　　・屋内用防火シャッター
　　・防煙シャッター
開閉方式の種類　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(表16.11.1)
保護装置の設置箇所　※建具表による
管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
　鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　　・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　めっきの付着量　※Z12又はF12　・

⑮ 軽量シャッター (16.12.2～4)(表16.12.1)

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度（　　）N/㎡
電動式の場合の保護装置の設置箇所　※建具表による
スラットの材質
　⊙JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　　めっき付着量　※Z06又はF06　・
　・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
　　めっき付着量　※AZ90　・
スラットの形状　⊙インターロッキング形　・オーバーラッピング形

16 オーバーヘッドドア (16.13.2)(16.13.3)

セクション材料による区分	耐風圧区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式の場合の保護装置の設置箇所　※建具表による

⑱ガラス

適用は以下によるほか，ガラスの種類，厚さの組合せは建具表及び図示による。
(9.7)(16.14.2～4)(表16.14.1)

・合わせガラス

品種	構成種類	特性による種別
※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス ・熱線吸収，フロート板合わせガラス	・Ⅰ類 ・Ⅱ－1類　・Ⅱ－2類
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き，フロート板合わせガラス ・網入磨き，熱線吸収板合わせガラス	・Ⅲ類

・強化ガラス

材料板ガラスの種類による名称	種類	特性による種別
※フロート強化ガラス	※フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類　・Ⅱ類
・型板強化ガラス	※型板強化ガラス	

・熱線吸収板ガラス

品種	性能による種別	色調
※熱線吸収フロート板ガラス	・1種　・2種	・
・熱線吸収網入磨き板ガラス		・

・複層ガラス

断熱性	日射取得性，日射遮蔽性	乾燥気体の種類
・T1　・T2　・T3	・G　・	・空気　・
・T4　・T5　・T6	・S　・	・アルゴン　・

・熱線反射ガラス

品種（色調）	日射熱遮へい性	耐久性	材料板ガラスの種類
※熱線反射ガラス （・　　）	・1種 ・2種	A種 ・A種　・B種	・フロート板ガラス ・網入磨き板ガラス
・高性能熱線反射ガラス （・　　）	・3種	B種	・線入磨き板ガラス

反射皮膜面　※内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス

種類	色調
※フロート倍強度ガラス	――――
・熱線吸収倍強度ガラス	

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・

17 カーテンウォール工事

1 取付方法，性能等 (17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)

取付方法　・層間方式　・柱，梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式　・
性能

耐震性能 水平方向(kH)	耐震性能 垂直方向(kV)	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・60 ・70 ・60

耐風圧性能
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
　　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3 ）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	・

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	・±(1/200)×h以上 ・	
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・±(1/300)×h以上 ・	

シーリング材
　下表以外は標準仕様書表9.7.1による

被着体の組合せ	シーリング材の種類 記号	シーリング材の種類 主成分による区分

ガラスの取付け
　構造ガスケット
　・適用する　（施工箇所　・図示　・　　）
　　材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
　　形状　・H型　・Y型　・C型
　　寸法(mm)　ガラス板厚（　），支持枠の厚さ（　），ウェブの寸法（　）
　・適用しない
断熱材G
　種類（　　）
　厚さ(mm)（　　）
　施工箇所　・図示　・

耐火材料

施工部位	種　別	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

性能の確認方法及び判定方法
　・行う　・行わない（資料による承諾）

2 メタルカーテンウォール

適用は以下によるほか，カーテンウォール図による　(17.2.2)(17.2.3)(17.2.5)
金属系材料の種類
　・アルミニウム材　・鋼材　・ステンレス鋼材
　（アルミニウム材の場合）
　　規格等　標準仕様書16.2.3による
　　種別　・　　(標準仕様書表14.2.1)
　　着色　・標準色　・特注色
　　映像調整　・行う　・行わない
形状及び仕上げ
　製品の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1による　・
　見え掛かり部の仕上げ　・
　ガラス溝の寸法，形状等　※カーテンウォールの製造所の仕様　・
取付け
　躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
　　鉛直方向　※±10mm　・
　　垂直方向　※±25mm　・
　カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
　　目地の幅　※±3mm　・　mm
　　目地の芯の通り　※＋2mm　・　mm
　　目地両側の段差　※＋2mm　・　mm
　　各階の基準墨から各部材までの距離　※±3mm　・　mm

3 PCカーテンウォール

適用は以下によるほか，カーテンウォール図による　(17.3.2～5)(表17.3.1)(表17.3.2)
材料
　コンクリート　種類（　　）
　　品質　設計基準強度（Fc）　※30N/mm²　・
　　スランプ　※12cm　・
　　気乾単位容積質量
　　・普通コンクリートの場合　2.1t/m を超え2.5t/m 以下
　　・
　　単位水量の最大値　※185kg/m
　鉄筋　種類記号　※SD295A　・
　補強鉄線　径（mm）　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
　　網目寸法　・
先付けの材料
　・表面仕上材
　　・セラミックタイル
　　・石材（　・花こう岩　・大理石　・　　）
　　・
　・建具枠
　・ゴンドラ用ガイドレール
形状及び仕上げ
　製品の見え掛り部の寸法許容差
　　※標準仕様書表17.3.3による
　　・上記以外
　　辺長　（　　mm）対角線長の差（　　mm）版厚（　　mm）
　　開口部内法寸法（　　mm）ねじれ，そり（　　mm）
　　曲がり　（　　mm）面の凹凸　（　　mm）
　先付け金物の位置（　　mm）
　カーテンウォールの仕上げ　・
　構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差（mm）　・
　取付け位置の寸法許容差
　　※標準仕様書表17.3.2による　・

18 塗装工事

①材料 (18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
・防火材料　※屋内の壁，天井仕上げは防火材料とする
　　・次の箇所を除き防火材料とする（箇所：　　）

②素地ごしらえ (18.2.2～7)(表18.2.1～7)

下地面等		種　別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面		※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びＡＬＣパネル面		※B種　・A種
コンクリート面（DP）及び押出成形セメント板面		・A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

③錆止め塗料塗り (18.3.2)(18.3.3)(表18.3.1～4)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	下記以外の場合 ※A種　・B種 EP-Gの場合 ・A種　・B種
	見え隠れ部分	※B種　・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種	※A種　・B種　・C種
	鋼製建具以外	※B種　・A種	下記以外の場合 ※B種　・A種　・C種 EP-Gの場合 ※C種　・A種　・B種

④塗装 (18.4.1～13.2)(表18.4.1～13.1)

塗　装		種　別	塗料の種類
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種
	亜鉛めっき鋼面	―	※1種　・2種
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	―
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	―
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り等級（ ）級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り等級（ ）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種　・C種	―
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等	※B種　・A種	―
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種	―
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	―
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・A種	―
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	―
・オイルステイン塗り(OS)		―	・
・木材保護塗料塗り(WP)	屋外	※B種　・A種	―

高日射反射率塗料　Gの適用　※適用する　・適用しない
　　適用箇所　※屋上，屋上面の金属面　・

付記

令和 4年 3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正
鶴岡市建設部建築課					

総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15
図面名	建築工事特記仕様書04　縮尺 NonScale	担当	

1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司
1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司
1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司

図面番号 PA-005

⑲ 内装工事

① 接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
接着剤に含まれる可塑剤は，難揮発性のものとする。
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合　・図示

② ビニル床シート G

(19.2.2)(19.2.3)

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※FS（複層ビニル床シート） ・ ・	⊙無地 ⊙マーブル柄 ・柄物	※2.0 ・	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ型

目地処理する場合の工法　・熱溶接工法　・

3 ビニル床タイル G

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
※KT（コンポジションビニル床タイル） ・TT（単層ビニル床タイル） ・FT（複層ビニル床タイル） ・FOA（置敷きビニル床タイル） ・FOB（薄型置敷きビニル床タイル）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

4 特殊機能床

(19.2.2)

シート種別	厚さ，寸法，形状（mm）	性能	種類
・帯電防止床シート			
・帯電防止床タイル			
・視覚障害者用床タイル			
・耐動荷重性床シート			
・防滑性床シート			
・防滑性床タイル			

⑤ ビニル幅木

(19.2.2)

材質　⊙軟質　・硬質
高さ（mm）　※60　・70　・100
厚さ（mm）　※1.5以上　・

6 ゴム床タイル

(19.2.2)

種類　（　　）
色柄　（　　）
厚さ（mm）　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法（mm）　（　　）

7 カーペット敷き G

(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.1)(表19.3.2)

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・カットパイル ・ループパイル ・レベルループパイル ・カット，ループ併用	・ ・ ・ ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する ・適用しない	

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm）　（　　）
帯電性　・適用する
　　・適用しない
備考　（　　）

・タイルカーペット

パイル形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カット，ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し　・
　　階段部分　※模様流し　・市松敷き　・

見切り，押え金物　・適用する（材質，形状等　※図示　・　　）
　　・適用しない

7 合成樹脂塗床

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1～8)

種　類	施工箇所	工　法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 （弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床材）			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 （エポキシ樹脂塗床材）		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床材 （JIS K 5970） （防塵塗料塗り）			工程 塗布量（kg/㎡） ・ 表面仕上げ ・平滑　・防滑 溶剤 ・水性色　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色　・

合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量　(19.4.2)
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

8 フローリング張り

(19.5.2～6)(表19.5.1～5)

単層フローリング G

種　類	工　法	樹種	厚さ及び大きさ	仕上塗装	間伐材等の適用
・フローリングボード1等	・釘留め工法（根太張り）	※なら ・	※標準仕様書19.5.1による ・	・塗装品 ・無塗装品	・
	・釘留め工法（直張り）	※なら ・	※標準仕様書19.5.1による ・		・
	・接着工法	※なら ・	※標準仕様書19.5.1による ・		・
・フローリングブロック1等	・接着工法	※なら ・	※標準仕様書19.5.1による ・	・塗装品 ・無塗装品	・

複合フローリング G

種　類	工　法	樹種	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
※天然木化粧	・釘留め工法（根太張り） ・釘留め工法（直張り） ・接着工法	※なら ・	・A種 ・B種 ・C種	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品	・

フローリングのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
接着工法の場合の緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・

9 せっこうボード，その他ボード及び合板張り

(19.7.2)(19.7.3)(表19.7.1)

種　類	JIS記号	厚さ（mm），規格等
・硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板 G	HW	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板 G	MW	・15　・20　・25　・
・普通木毛ｾﾒﾝﾄ板 G	NW	・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板 G	HF	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片セメント板 G	NF	・30　・
⊙けい酸ｶﾙｼｳﾑ板	0.8FK 1.0FK	ﾀｲﾌﾟ2（無石綿）　・6　・8
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板	DR	⊙ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ（・9（不燃）・12（不燃）・　） ・凹凸ﾀｲﾌﾟ（・12（不燃）・15（不燃）・　）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号	RW-B	・25　・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ32K	GW-B	・25（ｶﾞﾗｽﾛｽ包）　・
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-R	・12.5（不燃）・15（不燃）・
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾗﾐﾎﾞｰﾄﾞ	GB-S	12.5（不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-F	・12.5（不燃）・15（不燃）
・せっこうﾗﾑﾎﾞｰﾄﾞ	GB-L	9.5
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（木目）	GB-D	12.5（不燃）　幅440mm程度 模様（・柾目　・板目）専用下地材有り
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・普通合板 G		表面の材種 生地，透明塗料塗り（※ﾗｳﾝ程度　・　　） 不透明塗料塗り（※しな程度　・　　） 板面の品質（　　） 厚さ(mm)（　　） 接着の程度（　　） ・防虫処理
・天然木化粧合板 G		樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類 ） 厚さ(mm)（　　） ・防虫処理
・特殊加工化粧合板 G		化粧加工の方法（・オーバーレイ　・プリント　・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類 ） 厚さ(mm)（　　） ・防虫処理
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ（※1.2・　）
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂化粧板		
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ G	MDF	・3　・7　・9　・12　・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（素地）G	HB	・無研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・研磨板　（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（化粧）G		・内装用　・外装用 ・2.5　・3.5　・5　・7
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ G	1B	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18

せっこうボード等の下地　※図示　・
遮音シール材　・適用する（・シーリング材　・ジョイントコンパウンド ）
　　・適用しない
合板類，MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・
合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　・仕上げ表による

10 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　(19.5.2)(19.5.3)
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

施工箇所	壁紙の種類					防火種別	備考
	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他		
	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・		

モルタル及びプラスター面の素地ごしらえ　※B種　・A種　(表18.2.4)
コンクリート及びＡＬＣ面の素地ごしらえ　※B種　・A種　(表18.2.5)
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種　(表18.2.7)

11 断熱材 G

(19.9.2)(19.9.3)

ロックウール，グラスウール，フェノールフォーム，ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

・断熱材打込み工法

種　類	厚さ（mm）	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	・	・
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・
・フェノールフォーム断熱材	・	・

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※A種1又はA種1H　・
厚さ（mm）　・25　・30　・
施工箇所　・図示　・

⑳ ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材	備　考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・	・	・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)による　・
帯電防止性能　・U値（クラス1）　・U値（クラス2）
漏えい抵抗　・R≧1×10⁶Ω　・

表面仕上材の品質，性能は，標準仕様書19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製(仕上げ：　　)　・
スロープ及びポーダー　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント
　　・
配線取り出し開口　・パネル1枚につき，40mm×80mm　程度の開口1箇所以上
　　・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式，施工箇所：図示）

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	構成基材の種類		総厚さ(mm)	表面仕上材			遮音性能(dB/500Hz)	防火性能
	スタッド	パネル		材質	厚さ(mm)	パネル表面仕上げ		
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ ・	・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　　）　・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質，性能は標準仕様書19章による
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

3 移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ(mm)	表面仕上材		遮音性(dB/500Hz)
				材質	パネル表面仕上げ	
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質，性能　標準仕様書19章による
遮音性は，JIS A 6512に準拠し，中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
・標準仕様書20.2.4(3)(ｳ)による
・図示
ハンガーレール
・標準仕様書20.2.4(3)(ｵ)による
・図示
ランナー
・標準仕様書20.2.4(3)(ｶ)による
・

4 トイレブース

(20.2.5)

表面材の材質	脚　部	ドアエッジ
	形　状	材　質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材 ・製造所の仕様

パネル材料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

5 視覚障害者用床タイル

(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所		種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ビニル製	・300×300　・	・7.0　・
	床	・磁器質タイル（Ⅰ類） ・せっ器質タイル（Ⅱ類）	・300×300　・	・
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300　・	・
屋外	床・スロープ・階段	・磁器質タイル（Ⅰ類） ・せっ器質タイル（Ⅱ類）	・300×300　・	・
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300　・	・

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6 階段滑り止め

(20.2.6)

材　種	幅（mm）	取付け工法	端部フラットエンド	
・ステンレス製（SUS 304） ビニルタイヤ入り ・	・約35 ・	※接着工法 ・埋込み工法	・あり	・ビニル製 ・ステンレス製
			・なし	―

⑦ 手すり

材　種	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所	備　考
※集成材 ・ビニル製	・クリヤラッカー ・	・35 ・45 ・34	内部階段	
⊙ステンレスパイプ	⊙HL ・	・35 ⊙34	屋外階段	
・鋼製パイプ ・	・EP-G ・SOP ・			
・ビニル製ハンドレール				

⑧ 天井点検口

材　種	寸　法	形　式		外　枠	内　枠
⊙アルミニウム製 ・	⊙450×450 ・600×600 ・	⊙一般形 ・密閉形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁タイプ ・目地タイプ	⊙額縁タイプ ・目地タイプ

9 床点検口

材　種	寸　法	形　式		備　考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

10 耐震スリット

方　向	タイプ	耐火性能	防水性能	備　考
・垂直方法 ・水平方向	・完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目　地	内　壁	外　壁
目地材	・シーリング材（見え掛り部のみ） ・	・シーリング材（見え掛かり部のみ） ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・幅20×深さ10 ・幅30×深さ10	・幅20×深さ10 ・幅30×深さ10

目地材の材質は標準仕様書9.7.2による

⑪ 止水板

形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示　・

12 エキスパンションジョイント金物

材　種	クリアランス	耐火性能	備　考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50　・100 ・150　・	・有り（　　） ・無し	

外部は防水型とする

⑬ フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
　　・樹脂塗装メッシュフェンス
　　・鋼管フェンス
　　・アルミフェンス
高さ　・図示　・

14 プレキャストコンクリート

(20.3.3)(20.3.4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下，単位セメント量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※図示
・

⑮ 収納家具

(12.2.2)(19.7.2)

材質形状・寸法　※図示　・
合板，集成材，MDF，パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　・

16 屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し

17 敷地境界石標

種類　※コンクリートブロック製（市販品）
　　・花こう石類（文字記号等入り）

㉑ 排水工事

① 屋外雨水排水

(21.2.1)(表21.2.1)

排水管用材料

材　種	管の種類	形　状	呼び径	備　考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		・図示　・	
	・VU		・図示　・	
	・RS－VU G		・図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV		・図示　・	
	・VU継手		・図示　・	

基床の厚さ及び種類　・図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・
側塊の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂地業に用いる材料（6.4.2(2)）
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料（6.4.2(1)）
・再生クラッシャラン G　・切込砂利　・切込砕石

現場打ちの場合のコンクリート材料　設計基準強度　※18N/mm²　・
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295A　・

凍上抑制層の厚さ　・図示　・
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う　・行わない

案内図

申請建物面積表

(㎡)

	プール管理棟部分	外部倉庫部分	合　計
建築面積	98.54	107.65	206.19
1階床面積	98.54	107.65	206.19
延べ床面積	98.54	107.65	206.19

既存建物面積表

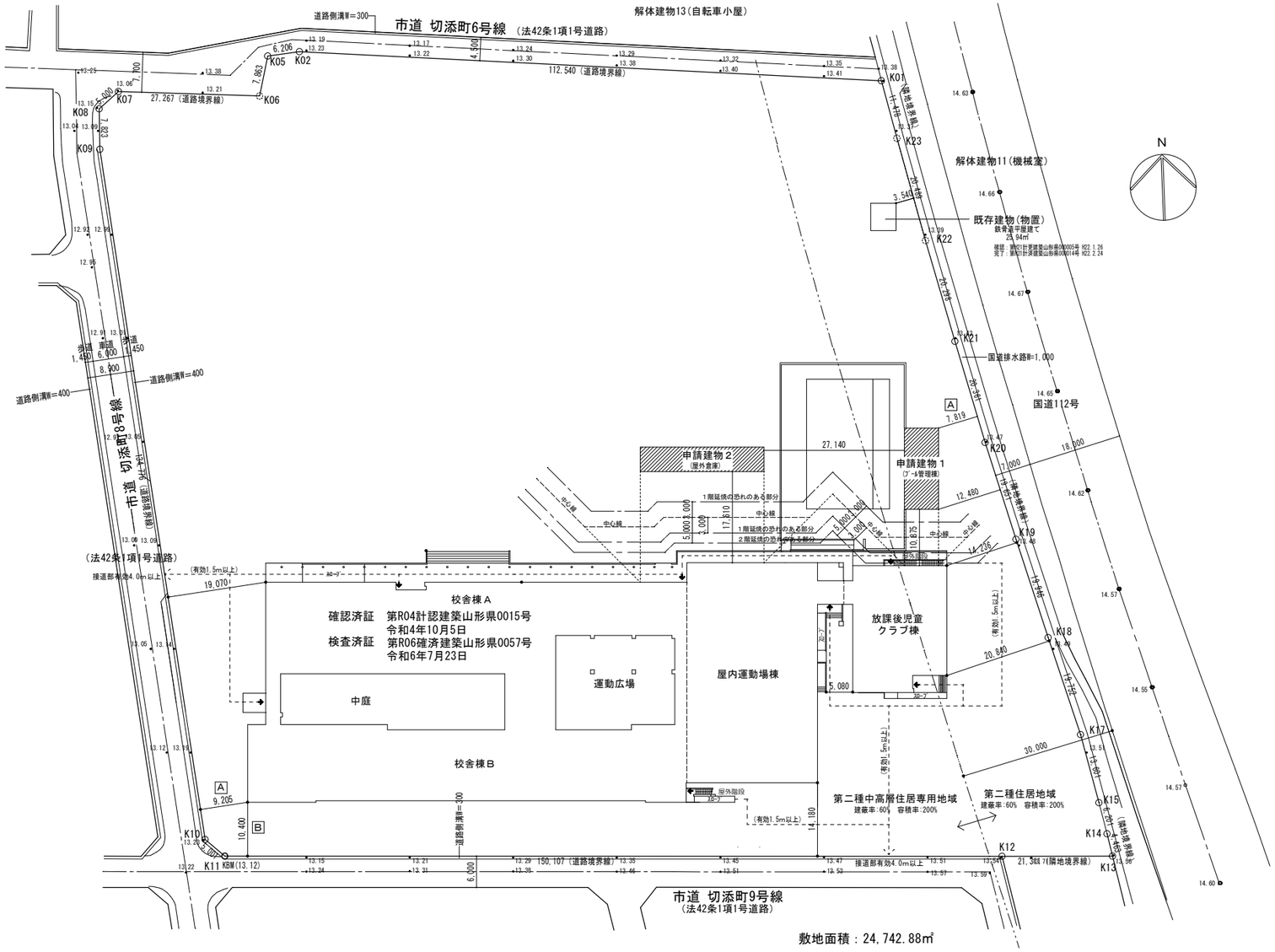
(㎡)

	小学校部分	放課後児童ｸﾗﾌﾞ部分	倉　庫	合　計
建築面積	4,141.37	433.54	**25.94**	4,600.85
1階床面積	3,824.56	422.34	**25.94**	4,272.84
2階床面積	2,537.79	430.88	-	2,968.67
3階床面積	1,280.82	-	-	1,280.82
延べ床面積	7,643.17	853.22	25.94	8,522.33

敷地全体面積表

	(㎡) 申請部分合計		(㎡) 既存部分合計		(㎡) 敷地内合計	
建築面積	206.19		4,600.85		4,807.04	■建蔽率19.43%
1階床面積	206.19	+	4,272.84	=	4,479.03	
2階床面積	―		2,968.67		2,968.67	
3階床面積	―		1,280.82		1,280.82	
延べ床面積	206.19		8,522.33		8,728.52	■容積率35.28%

敷地面積　24,742.88 ㎡



配置図

■接道長さ(敷地西側)：134.776+7.823＝142.599m

■申請建物１最高高さ（プール管理棟）＝設計GL+5.715m

■申請建物２最高高さ（外部倉庫棟）＝設計GL+4.060m

※設計GL＝KBM＋500(13.62)とする

■山形県建築条例2条：敷地内延べ面積1.000㎡超え　接道距離4.0m確保

■山形県建築条例11条：木造建築物等校舎から、隣地境界線までの距離2.0m以上確保

-·-·-·-·-…建令第128条及び128条の2 敷地内通路を示す。（通路を横切る障害物なし）

➔…建令第125条　屋外への出入口を示す。（屋内からの施錠可能）

■道路斜線制限

A 14.236（建物から境界）＋25.000（道路幅）＋14.236（道路反対境界からのセットバック）＝40.63m ※適用距離外

※北側道路、西側道路は、建物から境界までの距離が25.0m以上　※適用距離外

■隣地斜線制限

・隣地斜線制限は、計画建物が20m以下なので問題なし

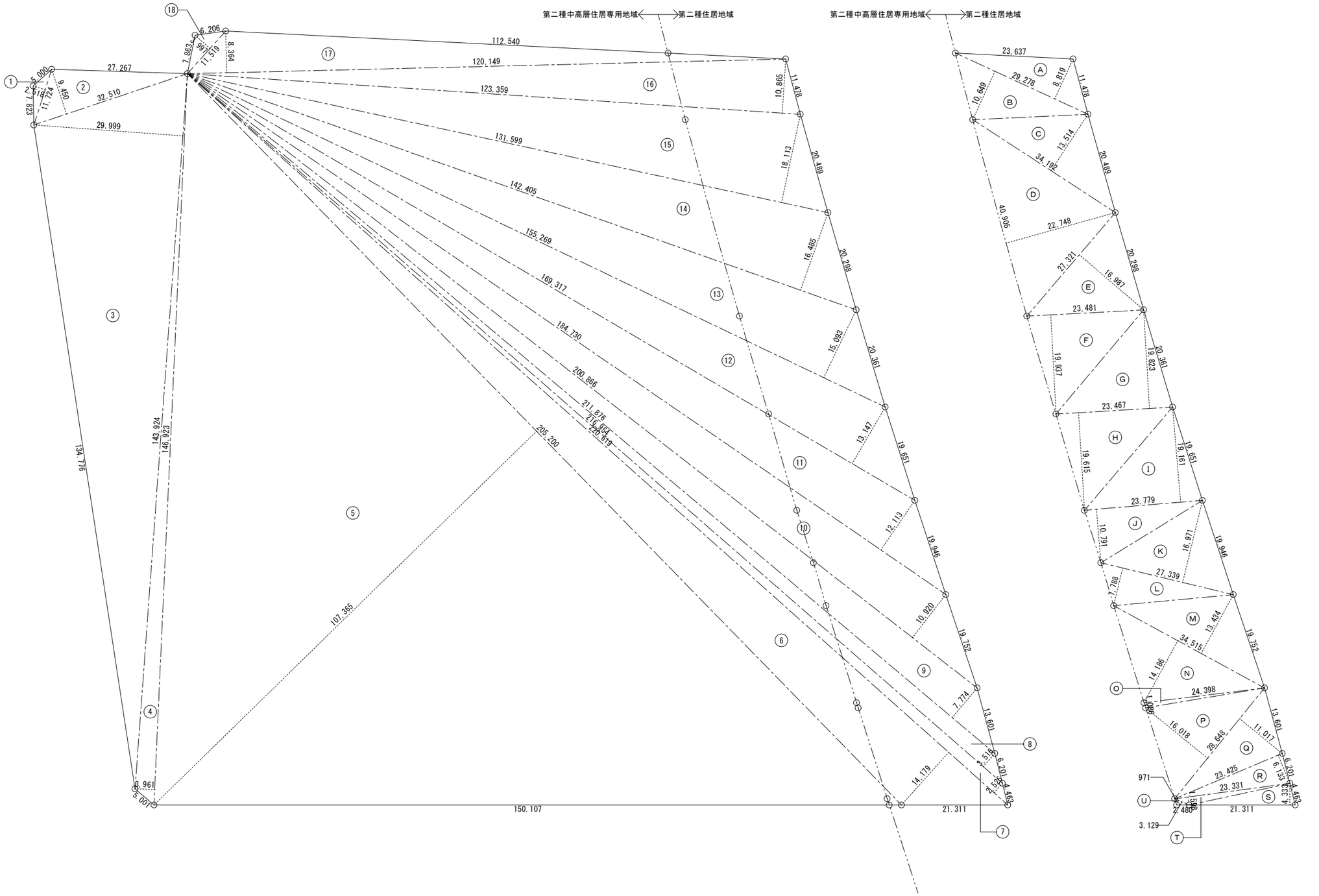
付記
・都市計画：市街化区域

鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール・グラウンド工事	日付	2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司
図面名	案内図　配置図　縮尺 1/500(A-1) 1/1000(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司
				1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司

図面番号 PA-007



敷地求積表（第二種住居地域）　　単位：m2

記号	計算式				
A	29.278	×	8.819	=	258.2026
B	29.278	×	10.649	=	311.7814
C	34.192	×	13.514	=	462.0706
D	40.905	×	22.748	=	930.5069
E	27.321	×	16.987	=	464.1018
F	23.481	×	19.937	=	468.1406
G	23.467	×	19.823	=	465.1863
H	23.467	×	19.615	=	460.3052
I	23.779	×	19.161	=	455.6294
J	23.779	×	10.791	=	256.5991
K	27.339	×	16.971	=	463.9701
L	27.339	×	7.788	=	212.9161
M	34.515	×	13.434	=	463.6745
N	34.515	×	14.186	=	489.6297
O	24.398	×	1.086	=	26.4962
P	28.648	×	16.018	=	458.8836
Q	28.648	×	11.017	=	315.6150
R	23.425	×	6.133	=	143.6655
S	21.311	×	4.333	=	92.3405
T	23.331	×	1.598	=	37.2829
U	3.129	×	0.971	=	3.0382
倍面積計					7,240.0362
敷地面積（倍面積×1/2）					3,620.01

全体敷地求積表　　単位：m2

記号	計算式				
1	11.724	×	2.518	=	29.5210
2	32.510	×	9.450	=	307.2195
3	143.924	×	29.999	=	4,317.5760
4	146.923	×	3.961	=	581.9620
5	205.200	×	107.365	=	22,031.2980
6	220.619	×	14.179	=	3,128.1568
7	220.619	×	2.525	=	557.0629
8	216.954	×	3.516	=	762.8102
9	211.876	×	7.774	=	1,647.1240
10	200.866	×	10.920	=	2,193.4567
11	184.730	×	12.113	=	2,237.6344
12	169.317	×	13.147	=	2,226.0105
13	155.269	×	15.093	=	2,343.4750
14	142.405	×	16.485	=	2,347.5464
15	131.599	×	18.113	=	2,383.6526
16	123.359	×	10.865	=	1,340.2955
17	120.149	×	8.364	=	1,004.9262
18	11.519	×	3.997	=	46.0414
倍面積計					49,485.7691
敷地面積（倍面積×1/2）					24,742.88

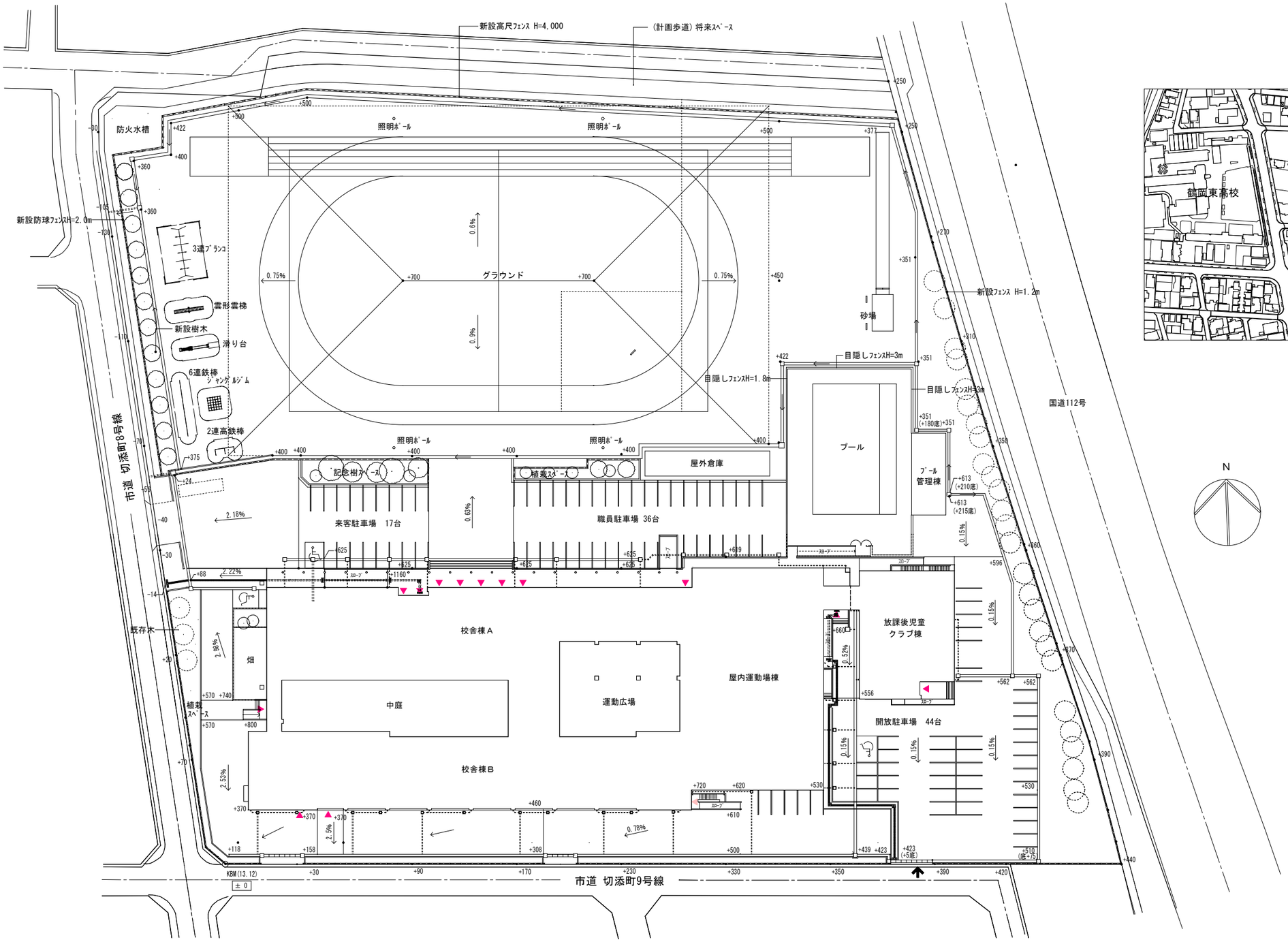
用途地域別　敷地求積表　　単位：m2

全体		第二種住居地域		第二種中高層住居専用地域
24,742.88	−	3,620.01	=	21,122.87

付記	令和 4年 4月 15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名　鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール・グラウンド工事
図面名　敷地面積表
縮尺　1：400（A1）　1：800（A3）
日付　2022.03.15
担当
1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司
1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司
1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司
図面番号　PA-008



配置図

案内図

付記	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司
			図面名 全体配置図	縮尺 1/400(A-1) 1/800(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司
					1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司

図面番号 PA-009

外部仕上表

屋根	立平葺き W=455 ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4 (防水ニュース&軒工法同等) 耐水合板 t=12 ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940下葺き 雪止：2列 L-50x50x4 溶融亜鉛ﾒｯｷ品
軒天井	ケイ酸カルシウム板 t=6及び有孔ケイ酸カルシウム板 t=6 (3%) ＡＥＰ２
外壁	アスファルトフェルト430下張り 胴縁18×40 ヨコ@455 金属サイディング張り (ﾌｧｲﾝ･ﾋﾞﾚｸﾄ同等)
基礎腰壁	コンクリート打放し (Ｂ種) 目地：□20×15@1,000 フッソ樹脂クリア塗装
庇	アルミ庇 アルフィンＡＤ－１ 後付型 同等品
破風・鼻隠し	木下地 ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4包み
パラペット	笠木：アルミ製 W=225 立上部：耐水合板 t=12下地 ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.4張り
ポーチ	コンクリート t=150 金ごて仕上
建具	サッシ：アルミ製 (ｼﾙﾊﾞｰ) シャッター：軽量バランス型 塩ビ鋼板スラット
塗装	―
軒樋	塩ビ製 角型 前高型 巾120 吊金物@600
縦樋	塩ビ製 φ60 握金物@1,000
その他	室名札：平付型 150×150 厚5 ｱｸﾘﾙ樹脂スコッチカル貼付×4か所 天井点検口：450×450 ｱﾙﾐ枠 8か所
プールサイド	床：ゴムチップ舗装 t=10 排水溝：防水モルタル塗り 一部プール用樹脂グレーチング W=200 ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾌﾟ 受枠共 目隠しフェンス：(北・東面) H=3000ﾀｲﾌﾟ 柱@1900 一部タオル掛け一体型 (朝日目隠しﾌｪﾝｽ AM型 同等品) (南・西面) H=1800ﾀｲﾌﾟ 柱@2000 一部タオル掛け一体型 (朝日目隠しﾌｪﾝｽ AM型 同等品) 目隠しフェンス扉：H=1800 W=2000 南京錠付 スロープ手摺：ステンレス製 ブラケット@750以内 スロープ床：コンクリート刷毛引き仕上 基礎腰壁：コンクリート打放し (Ｃ種) 目地：□20×15@1,000 フッソ樹脂クリア塗装 ピット点検口：SUS304 600角 (杉田ACE SUSﾏｰﾄ点検口 同等品)
プール	ＦＲＰ製プール 25.0×16.0m (25m×6ｺｰﾝ ＋ 渡渉プール一体型) 水深：1.0～1.2～1.0m 渡渉プール水深：0.7m コースロープ×7・段差部フェンス等付属品一式

内部仕上表

室名	床高	床	巾木	壁	天井	天井高	備考
	ＦＬ	仕上	仕上	仕上	仕上		
	スラブ	下地	下地 (特記なきは壁同等)	下地	下地		
監視室	±0～+20	コンクリート金ゴテ ゴムチップ舗装 t=10	コンクリート打放し	外壁に準ずる	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2 F見切	2,500	下足棚 (既製品)
	-10			W			
更衣室	+20	コンクリート金ゴテ 長尺塩ビシート t=2.0(ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ)	コンクリート打放し 一部ソフト巾木 H=60	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2 F見切	2,500	脱衣棚 (家具工事)
	-10			W			
用具庫・倉庫	+20	コンクリート金ゴテ 防塵塗装仕上	コンクリート打放し	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2 F見切	2,500	用具棚 (木工事) ｺｰﾝﾛｰﾌﾟ巻取器×2 ﾋﾞｰﾄ板整理棚 (160枚用)
	±0			W			
機械室	-1,290	コンクリート金ゴテ 防塵塗装仕上	コンクリート打放し	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし AEP2 F見切	2,790	機械基礎 (建築工事)
	±0			W			

特記事項

木材	木材は杉・米松一等材程度
	土台 (土台用加圧式) 防腐防蟻処理材
鉄筋	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ３４５
コンクリート強度	Ｆｃ＝24 スランプ18

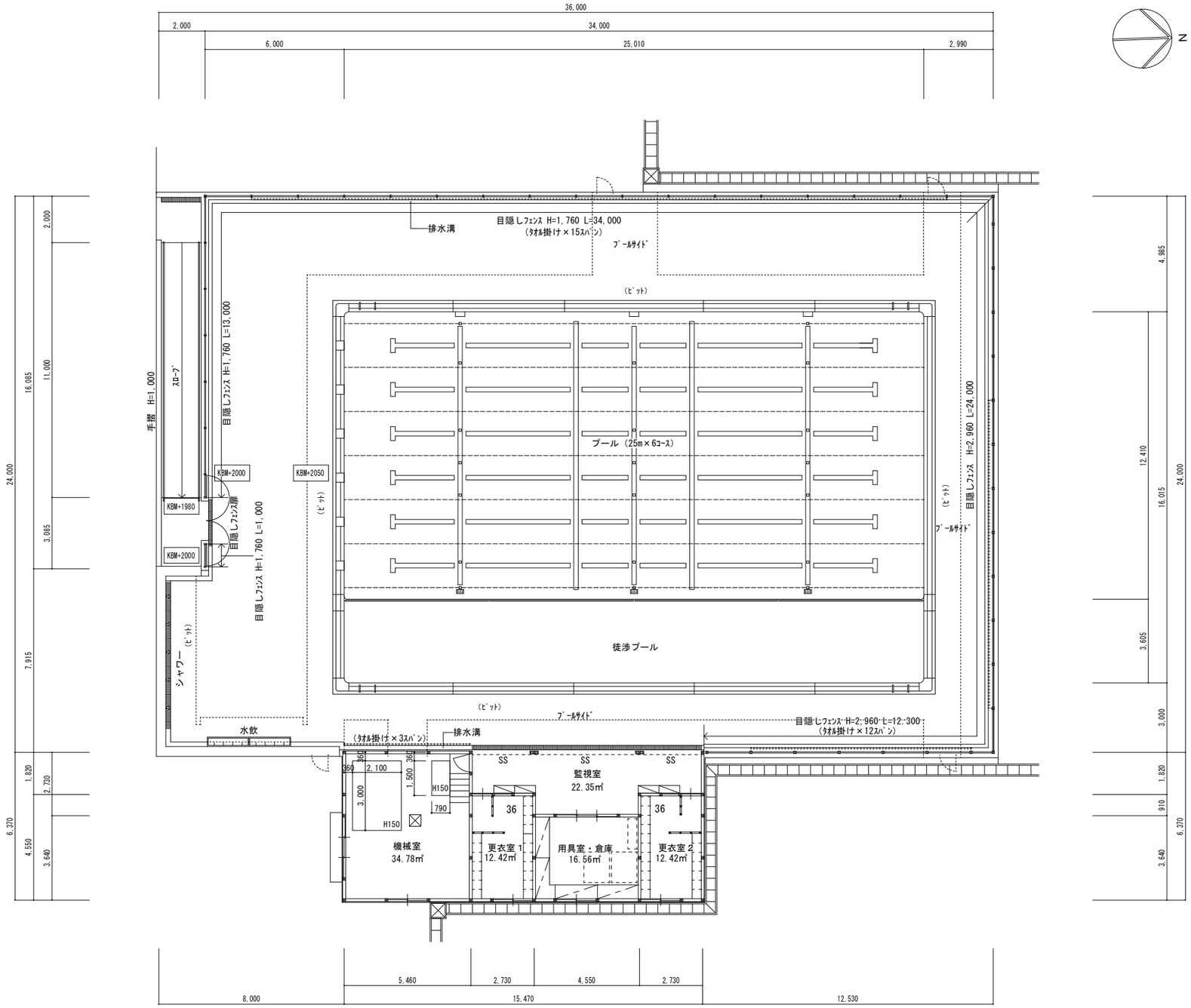
付記	令和 4年 3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正
	鶴岡市建設部建築課					

総・新穂・石川 設計共同企業体

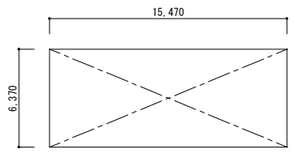
工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.1.31
図面名	プール内外仕上表	縮尺	－ (A-1) － (A-3)
担当			

1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司
1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司
1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司

図面番号 PA-010



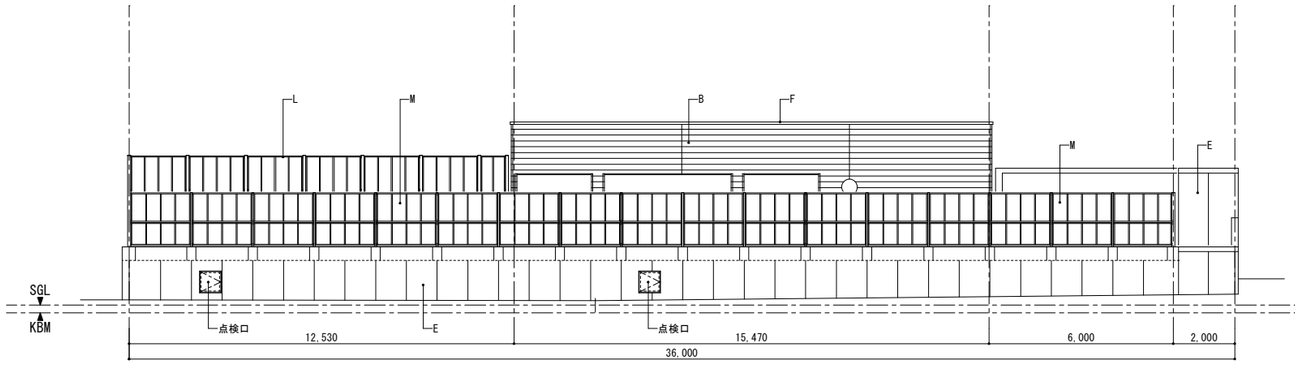
求 積 図



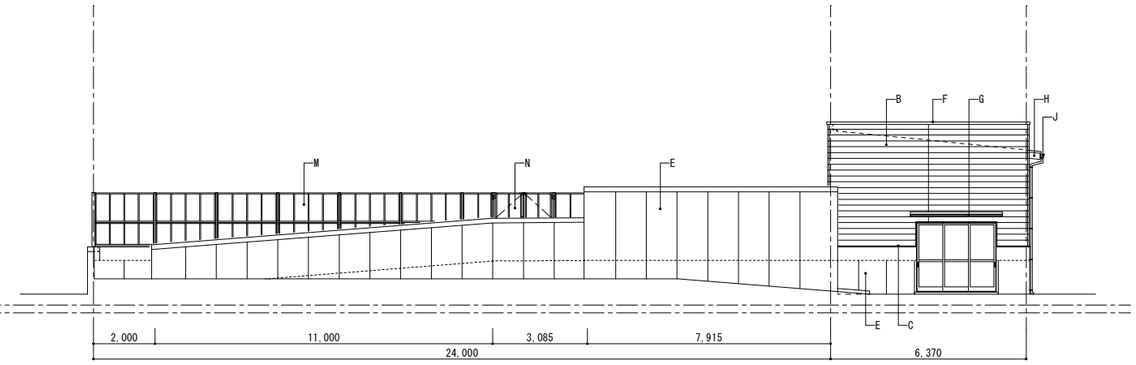
15,470 × 6,370 ＝ 98.5439

建築床面積： 98.54 ㎡

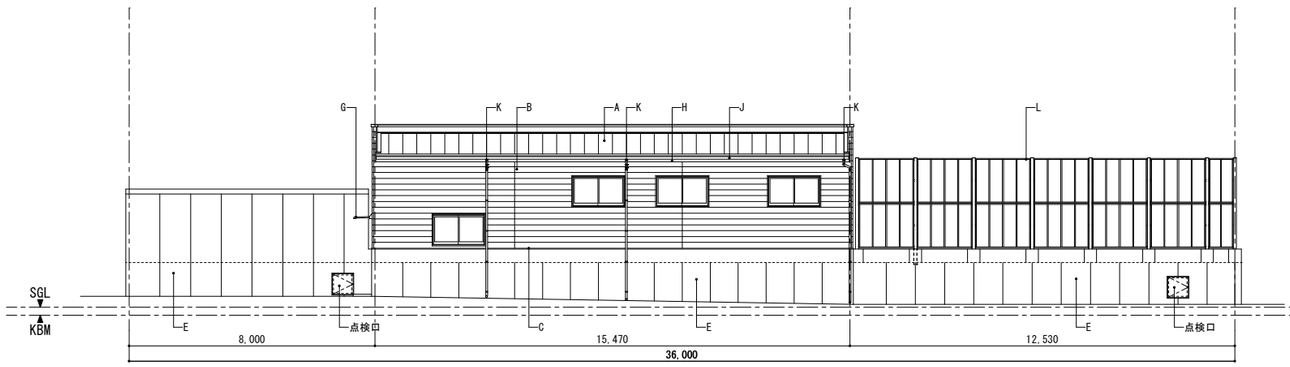
付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 プール平面図 縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-011
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	



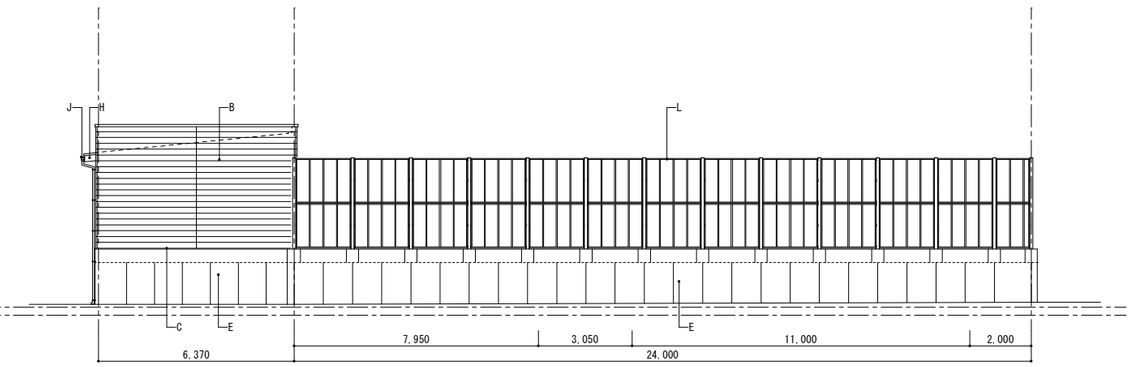
西面立面図（１）



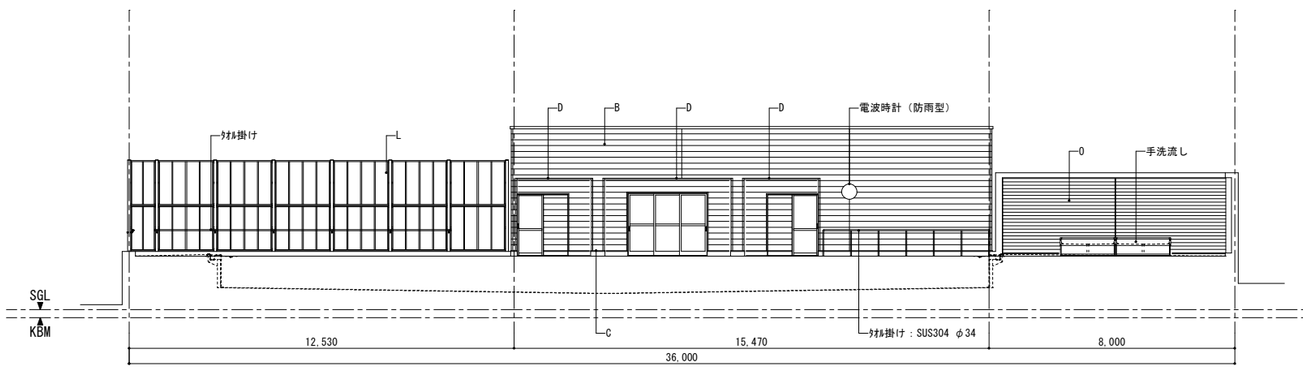
南面立面図



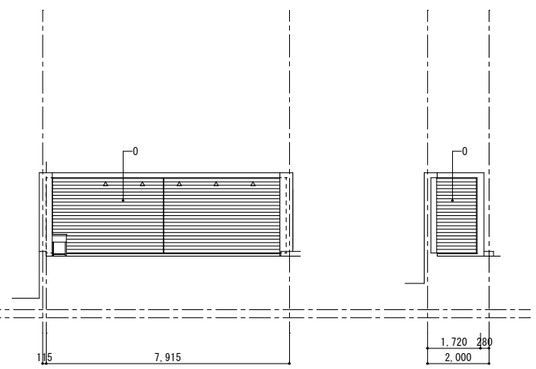
東面立面図



北面立面図



西面立面図（２）



北面立面図（２）

東面立面図（２）

※目地凡例

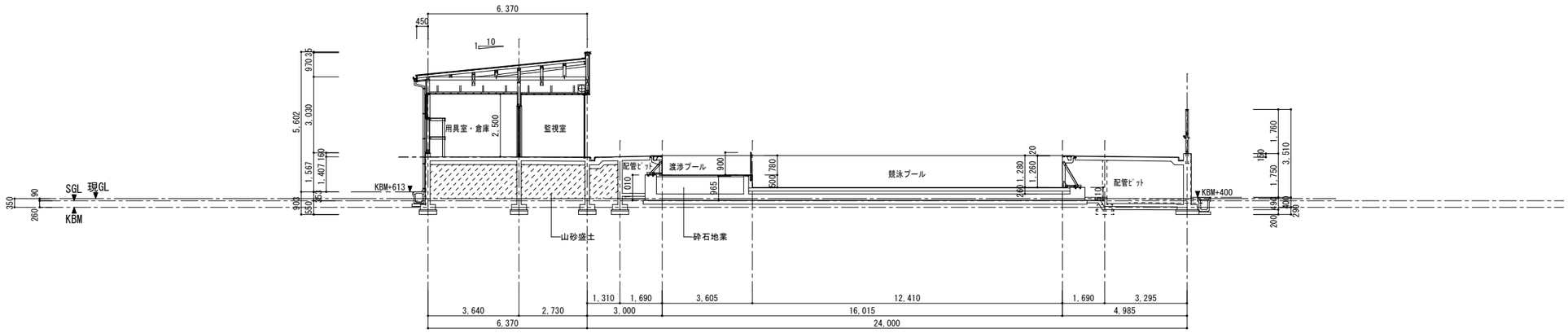
---------- 打ち継ぎ目地を表す

——— 化粧目地を表す

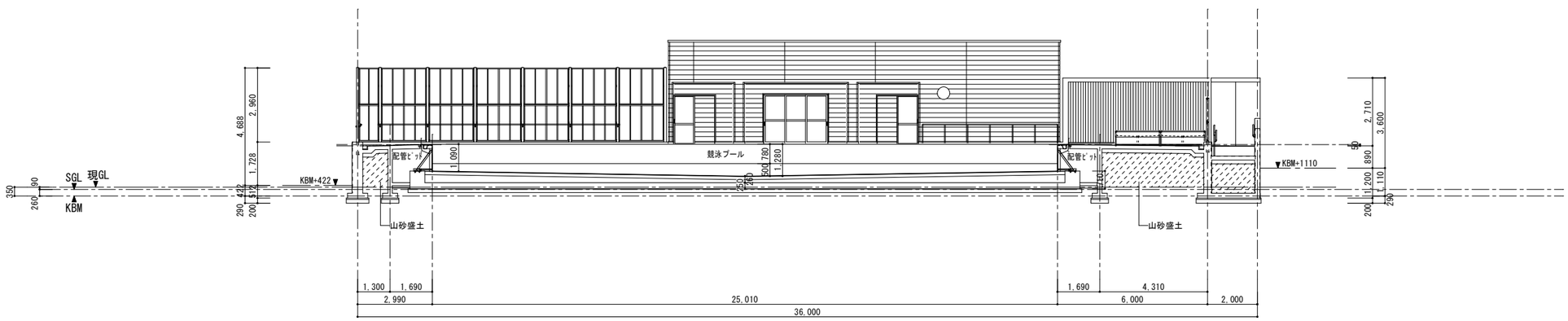
その他構造ｽﾘｯﾄは構造図参照のこと

記号	仕　上
A	屋根：立平葺き ｶﾗｰGL鋼板 t=0.4(防水ﾆｭｰS&W工法同等)
B	外壁：金属ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ張り t＝15（ｱｲｼﾞｰﾋﾞﾚｸﾄ同等）
C	水切：ｶﾗｰGL鋼板 t＝0.4
D	下端水切：ｶﾗｰGL鋼板 t＝0.4
E	腰壁：C打放し（A）＋ﾌｯ素樹脂着色ｸﾘｱ塗装
F	ｱﾙﾐ既成笠木 W=225
G	ｱﾙﾐ既成庇 W=600
H	鼻隠し：ｶﾗｰGL鋼板t=0.4包み　　杉240x30下地
I	ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ裏：ｶﾗｰGL鋼板t=0.4包み　　耐水合板t=12下地
J	軒樋：塩ﾋﾞ製 角型･前高型　W=120　吊金物@600
K	竪樋：塩ﾋﾞ製 φ60　掴金物@1,000
L	目隠しﾌｪﾝｽ：H=3,000 柱@1,900（朝日目隠しﾌｪﾝｽ AM型同等）
M	目隠しﾌｪﾝｽ：H=1,800 柱@2,000（朝日目隠しﾌｪﾝｽ AM型同等）
N	目隠しﾌｪﾝｽ扉：H=1,800 W=2,000（朝日目隠しﾌｪﾝｽ AM型同等）
O	ｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ t=1.0　横張り　見切･水切専用品 下地：C-60×30×10×1.6@450　溶融亜鉛ﾒｯｷ　ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ M12@900

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司 1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	図面番号
								図面名	プール立面図	縮尺	1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当	PA-012

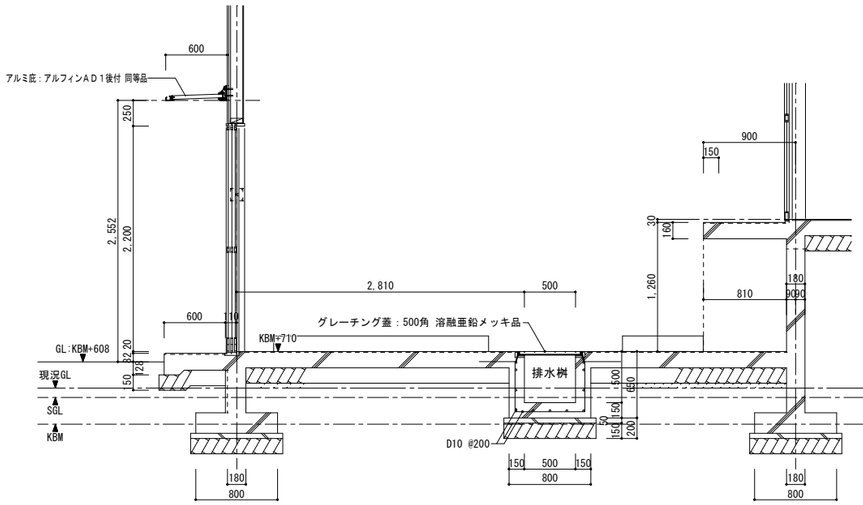


プール短辺方向断面図　S=1/100

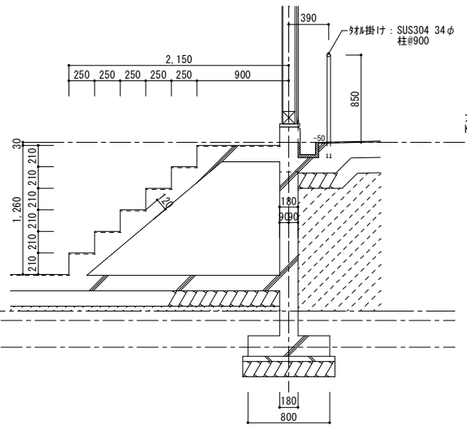


プール長辺方向断面図　S=1/100

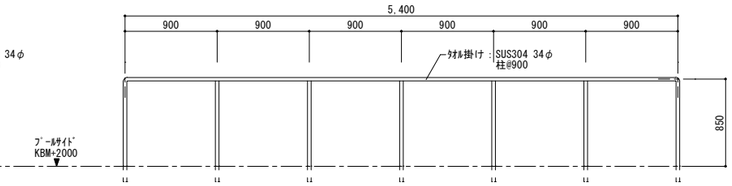
付記	令和 4年 3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
	鶴岡市建設部建築課							図面名	プール断面図　縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-013
												1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	



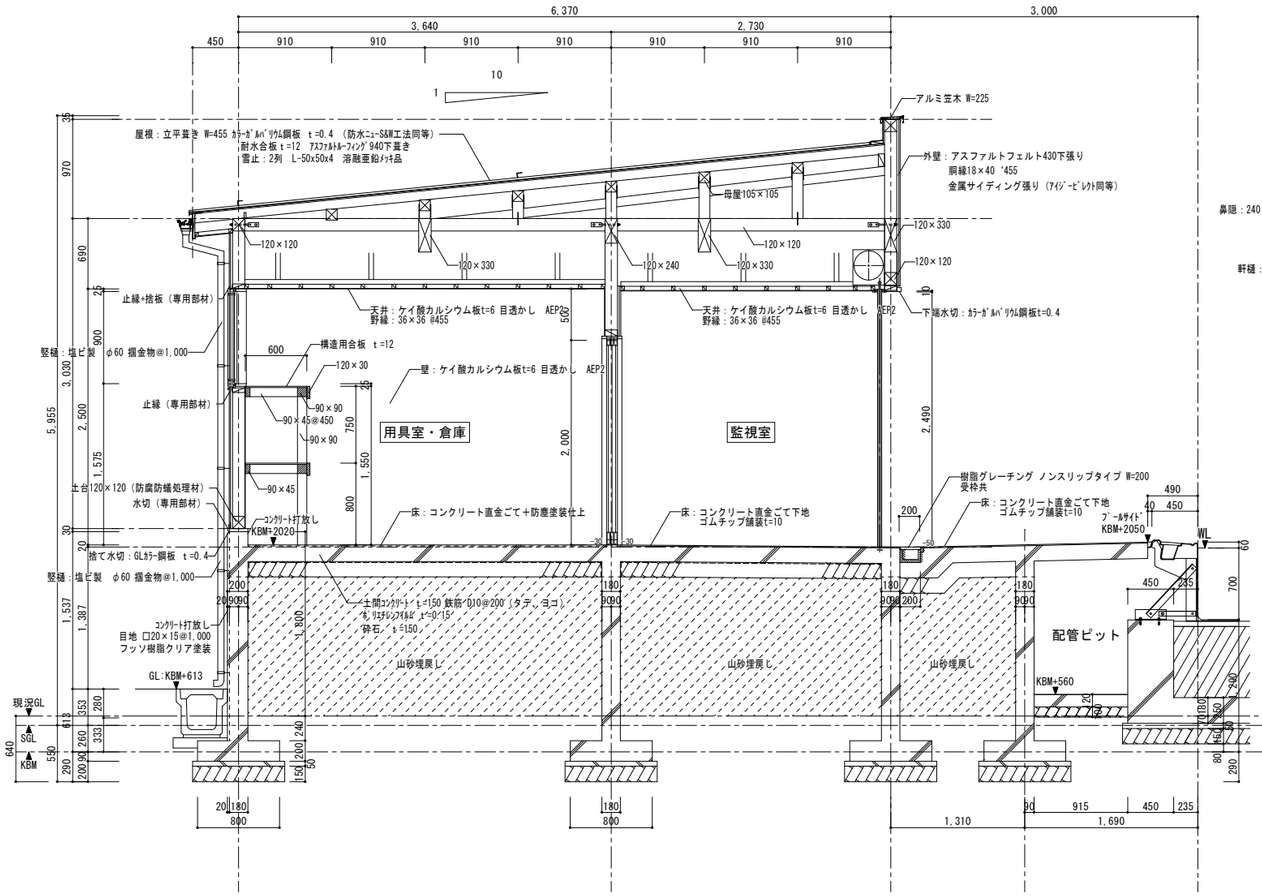
機械室出入口詳細図　　機械室排水桝詳細図

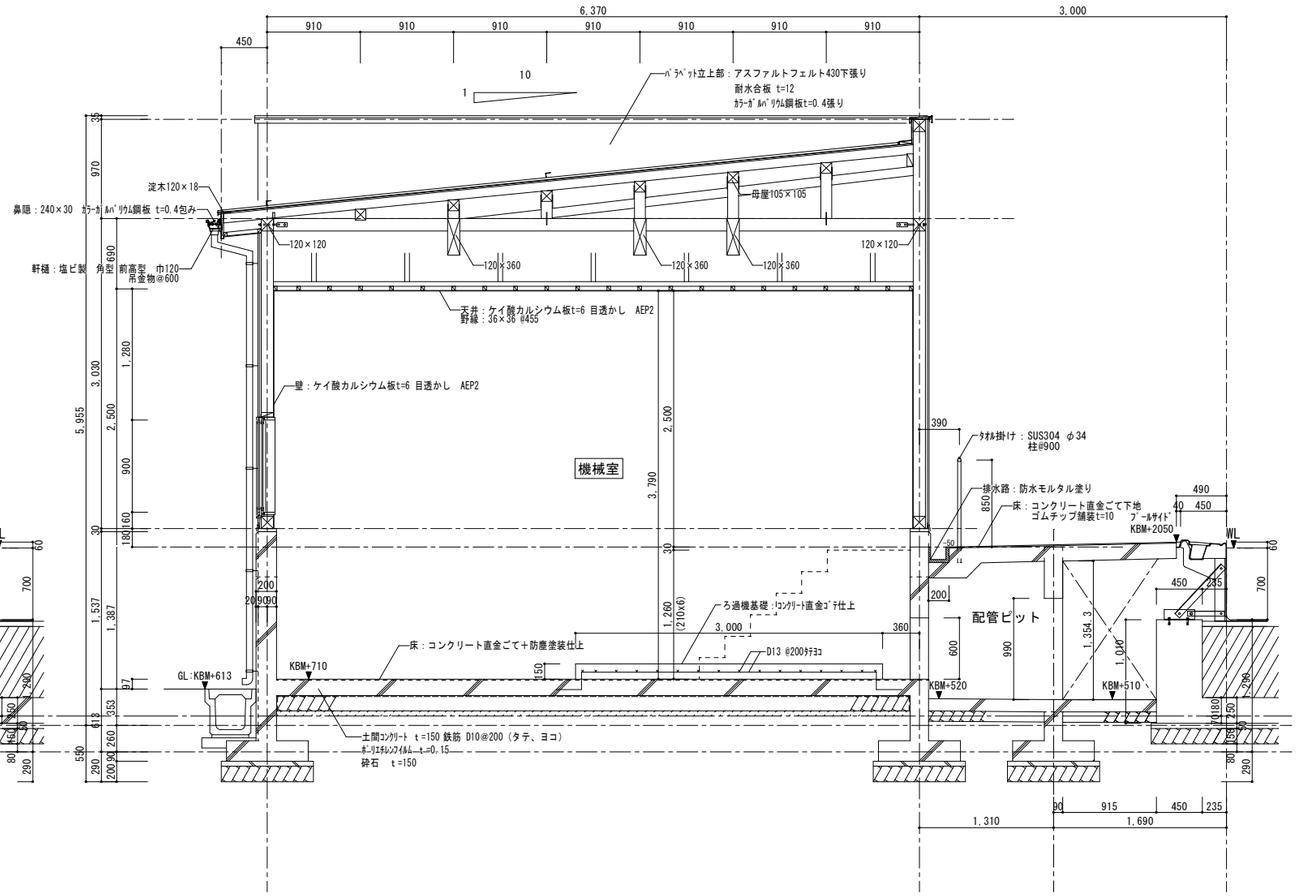


機械室階段詳細図

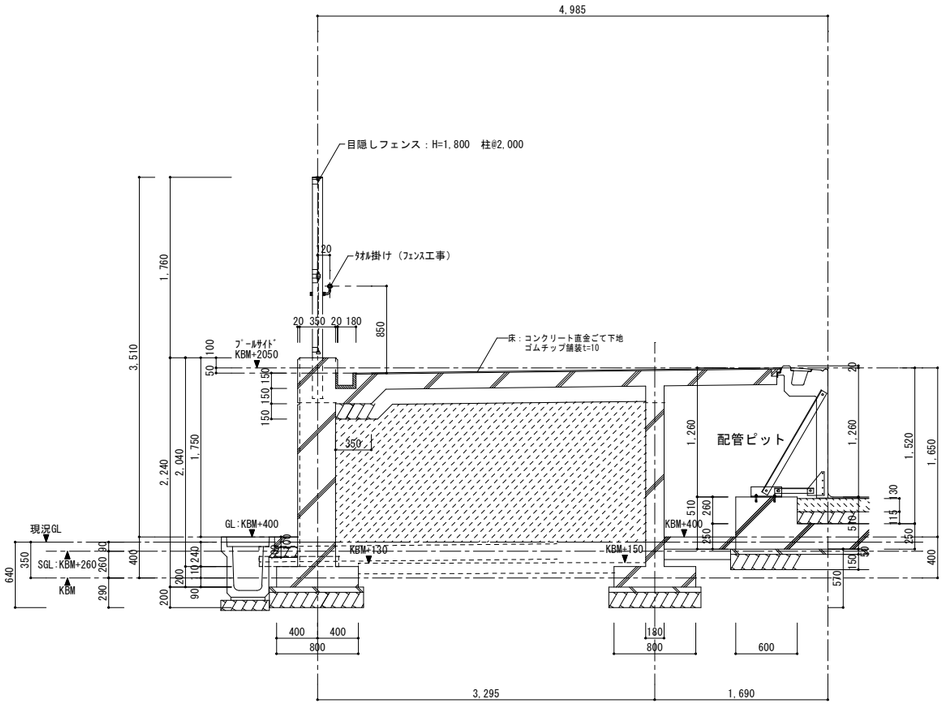


タオル掛け詳細図

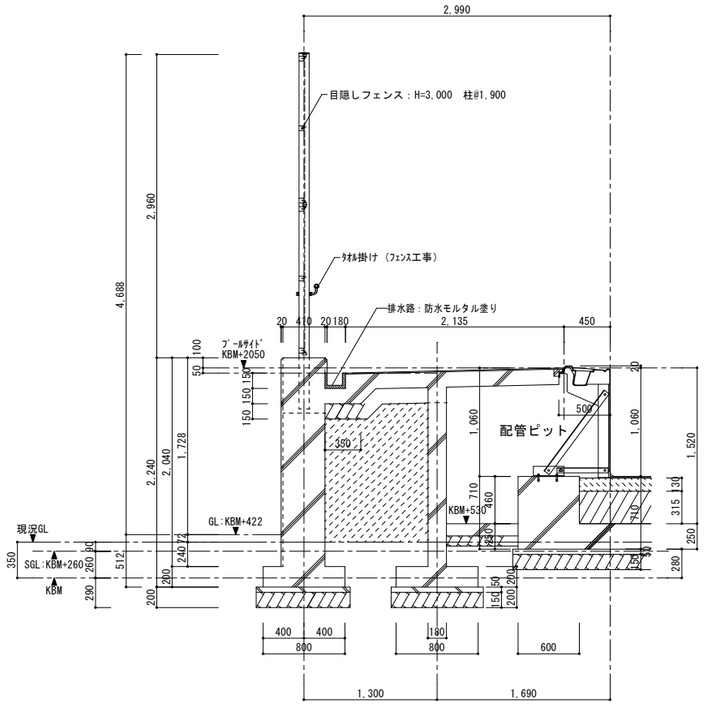




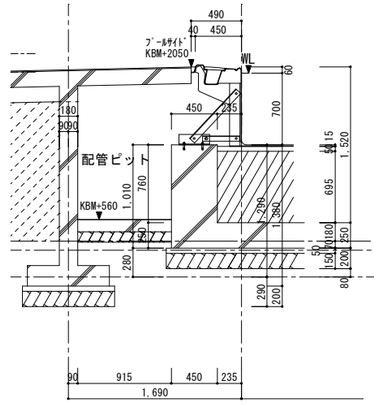
付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 プール断面詳細図１ 縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-014
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	



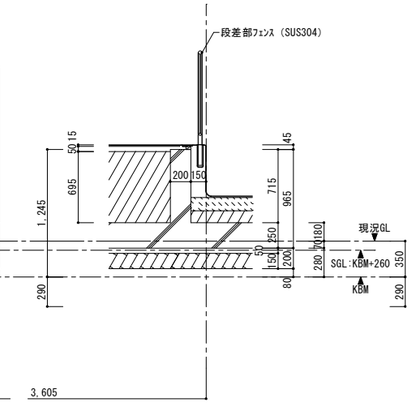
西側プールサイド断面詳細図　S=1/30



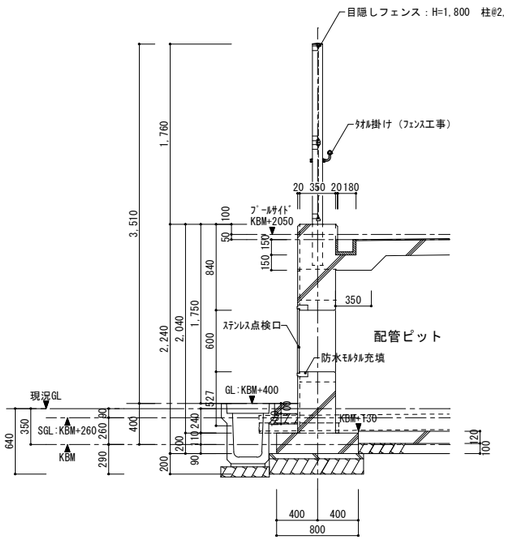
北側プールサイド断面詳細図　S=1/30



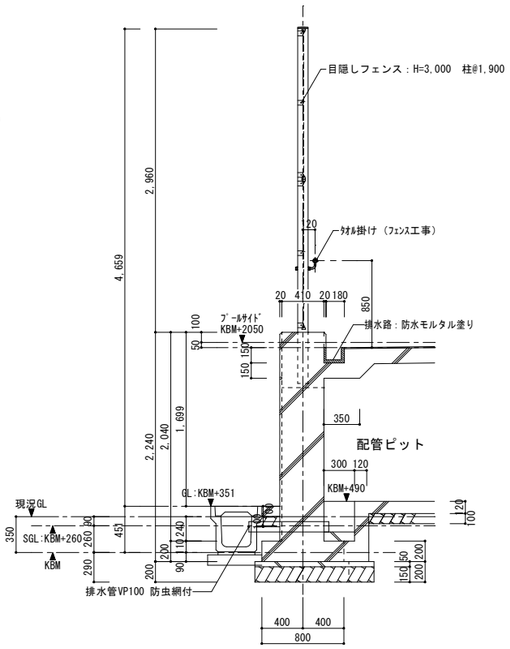
渡渉プール断面詳細図　S=1/30



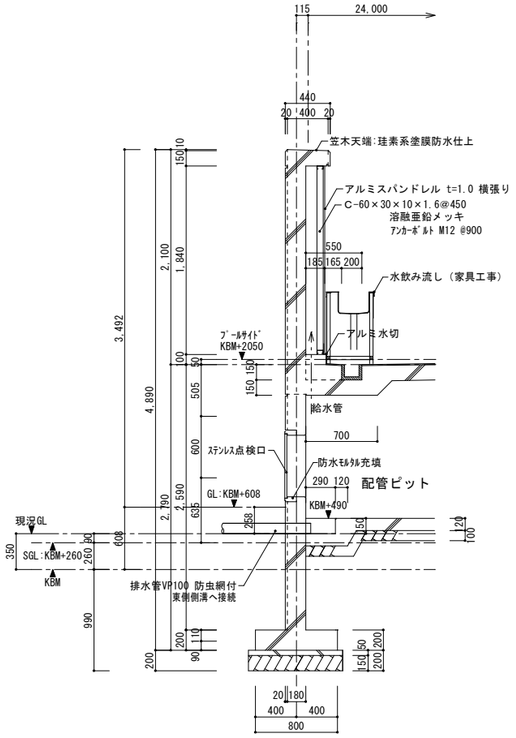
プール段差部断面詳細図　S=1/30



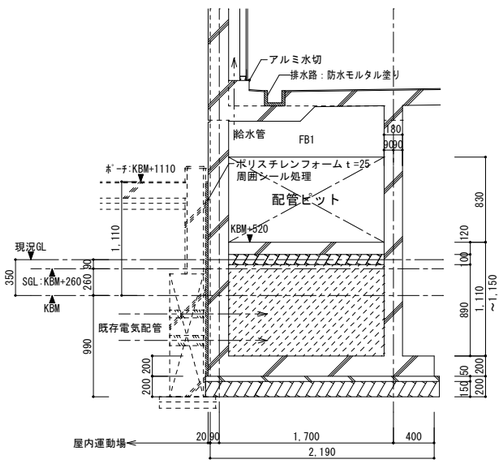
西側配管ピット断面詳細図　S=1/30



東側配管ピット断面詳細図　S=1/30

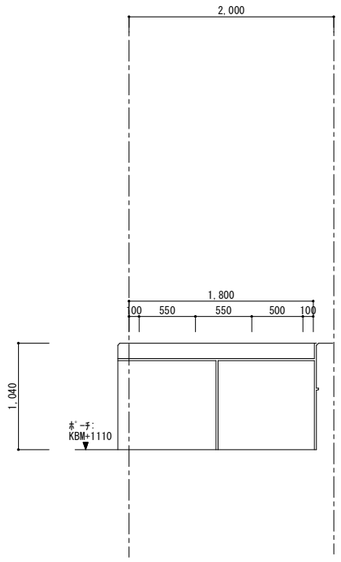


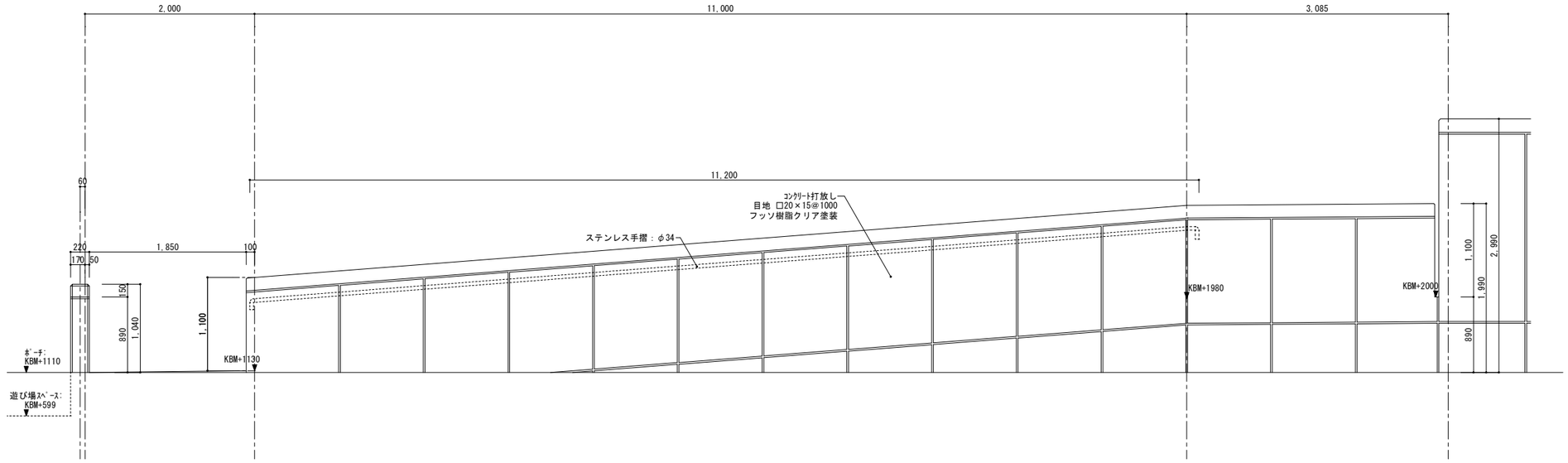
配管ライニング壁断面詳細図　S=1/30

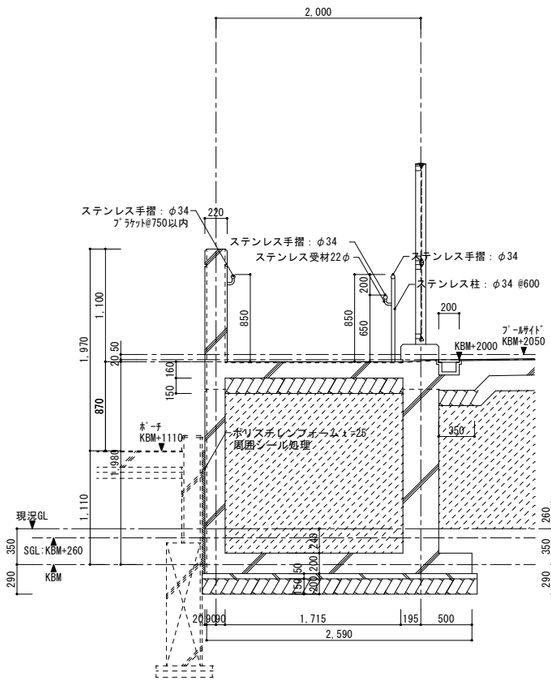


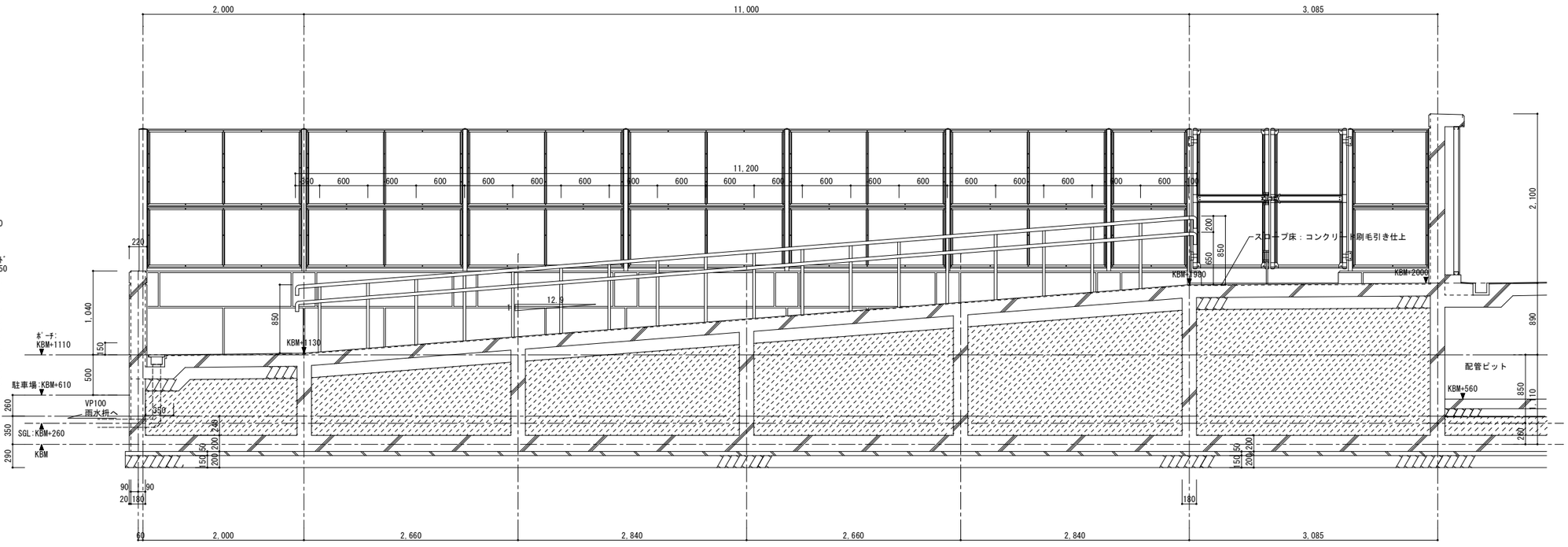
学童保育側断面詳細図　S=1/30

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名	プール断面詳細図２ 縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-015
												1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	



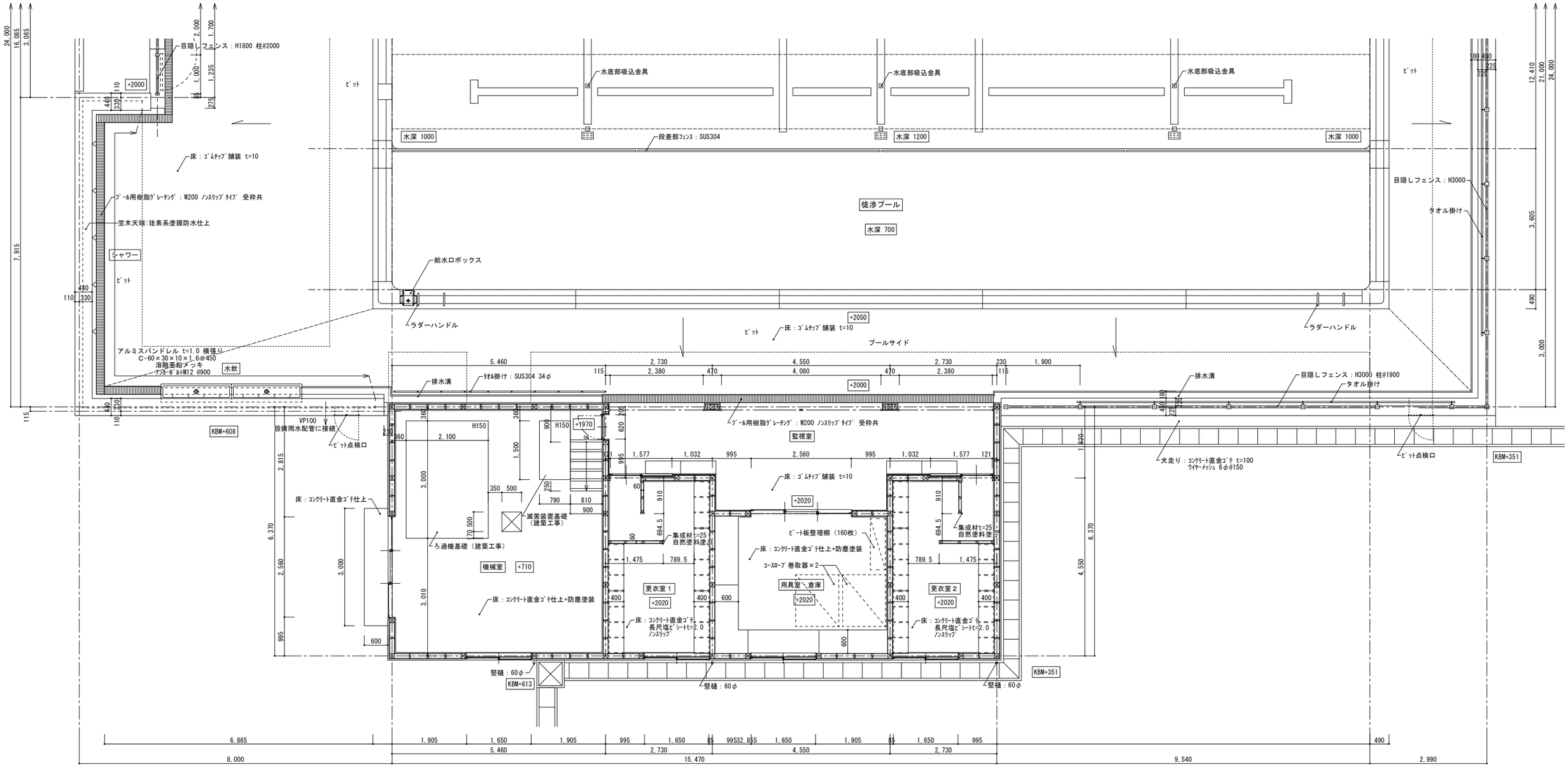




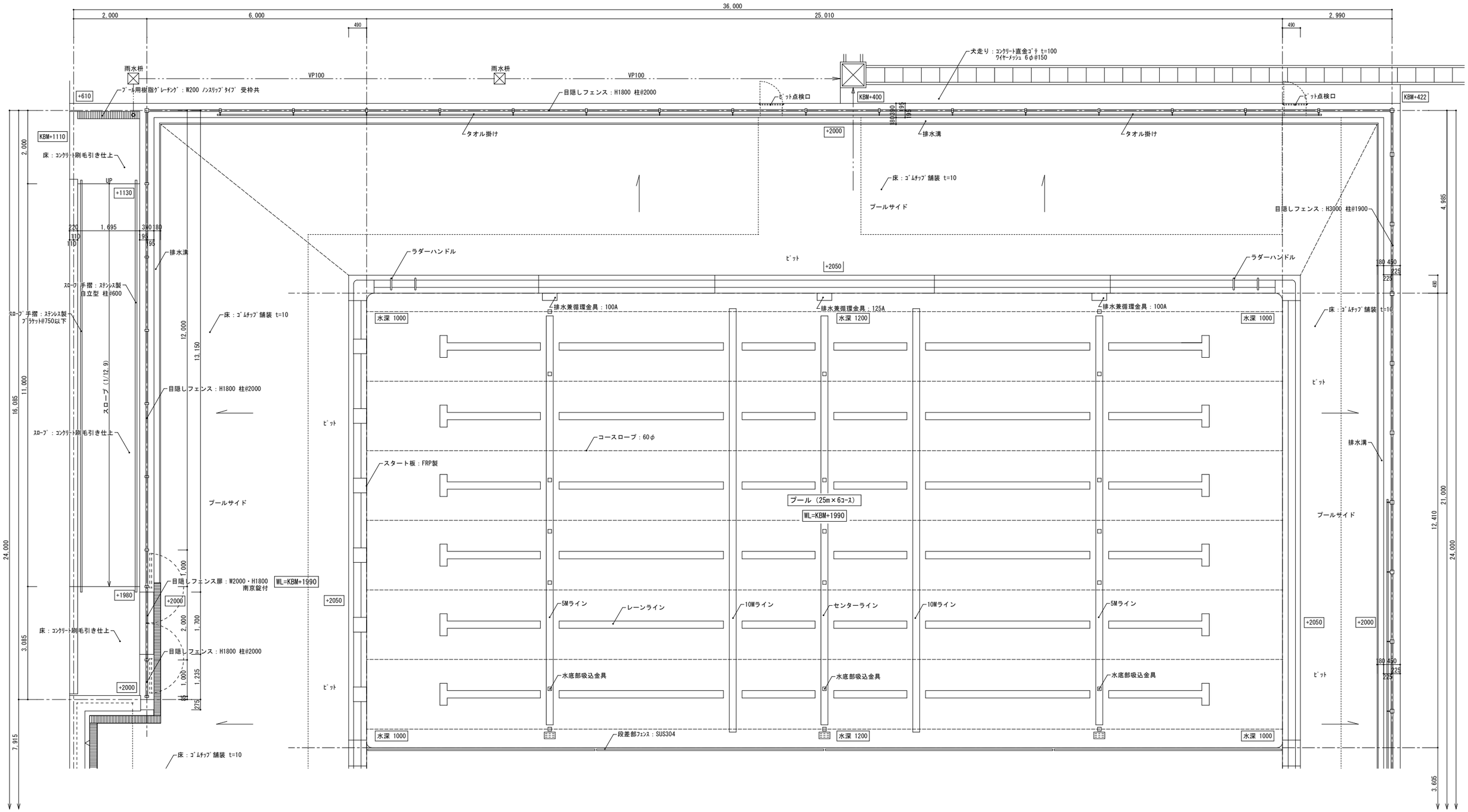


プールスロープ断面詳細図　S=1/30

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事 図面名 プール断面詳細図３　縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	日付 2022.3.15 担当	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司 1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	図面番号 PA-016



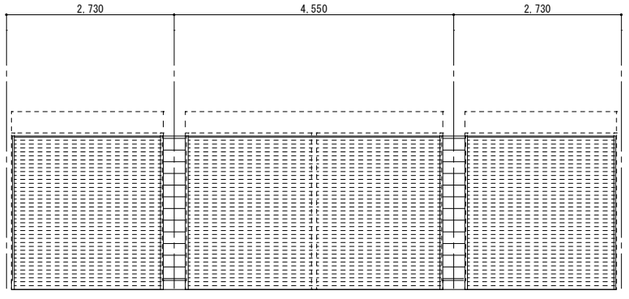
付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事 図面名 プール平面詳細図１ 縮尺 1/50 (A-1) 1/100(A-3)	日付 2022.3.15 担当	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司 1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	図面番号 PA-017



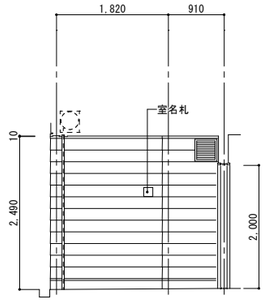
付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 プール平面詳細図２ 縮尺 1/50 (A-1) 1/100(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-018
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

プール管理棟

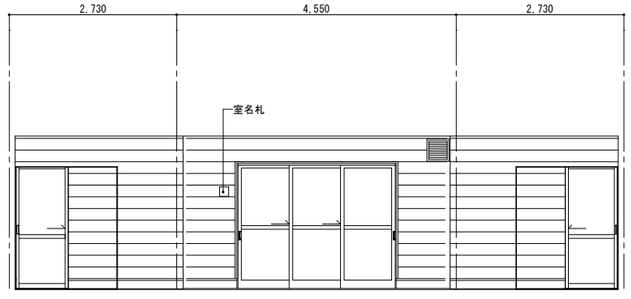
監視室



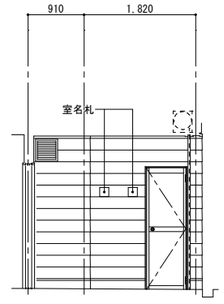
A 面



B 面



C 面



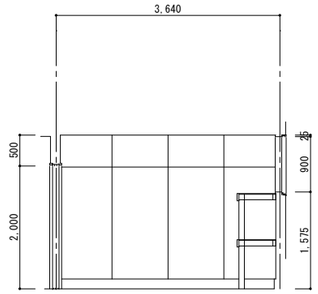
D 面

監視室	
床	コンクリート金ゴテ　ゴムチップ舗装 t =10
巾木	コンクリート打放し
壁	外壁に準ずる
天井	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
	廻り縁：F見切
備考	

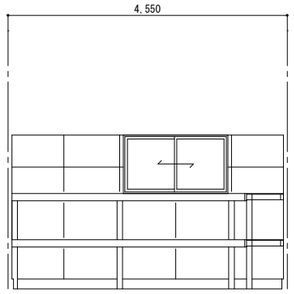
更衣室	
床	コンクリート金ゴテ　長尺塩ビシート t =2.0（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）
巾木	コンクリート打放し
壁	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
天井	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
	廻り線：F見切
備考	

用具庫・倉庫

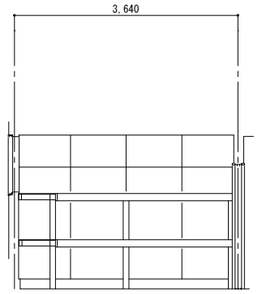
A 面



B 面

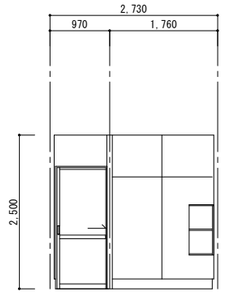


C 面

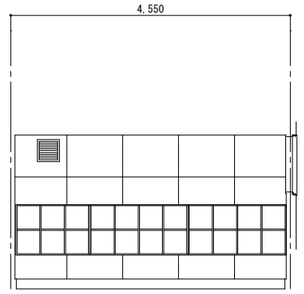


D 面

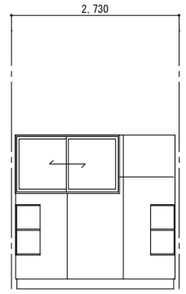
更衣室１



A 面

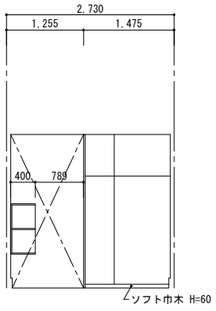


B 面

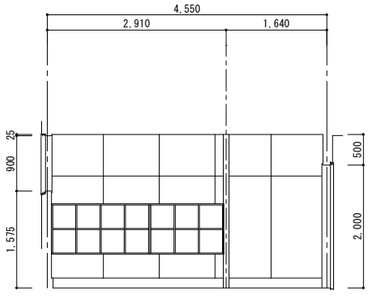


C 面

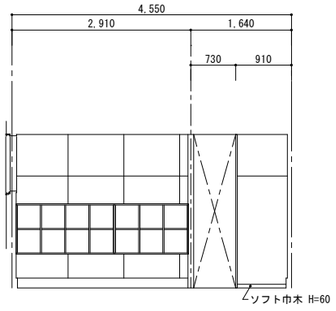
更衣室



C' 面

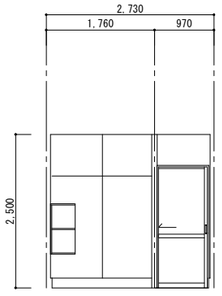


D 面

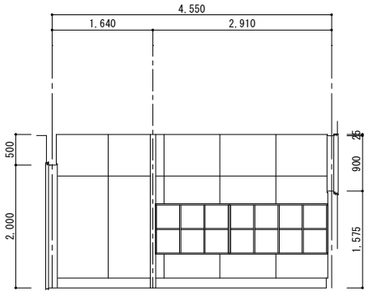


D' 面

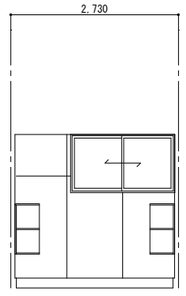
更衣室２



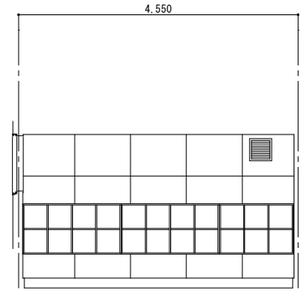
A 面



B 面

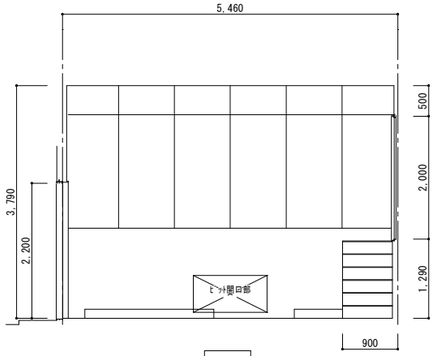


C 面

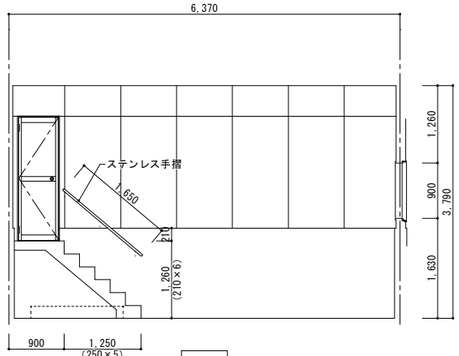


D 面

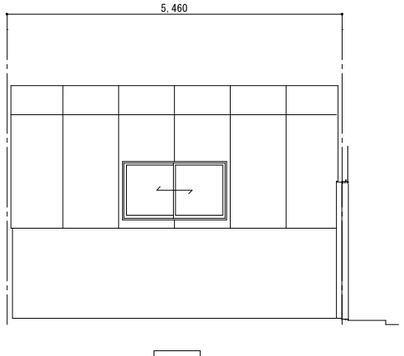
機械室



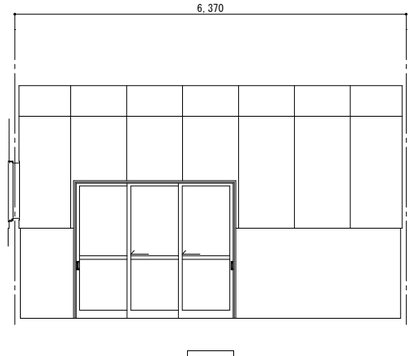
A 面



B 面



C 面



D 面

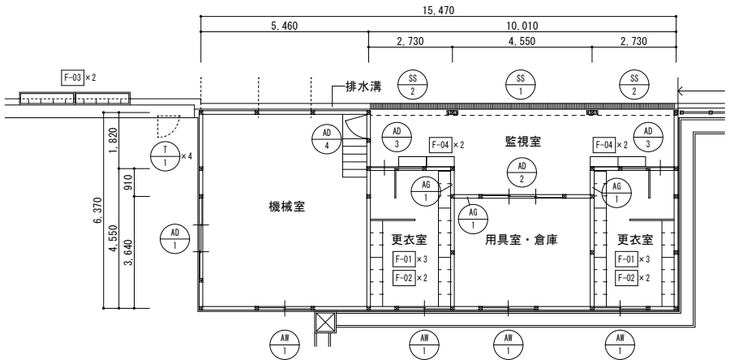
用具室・倉庫	
床	コンクリート金ゴテ　防塵塗装仕上
巾木	コンクリート打放し
壁	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
天井	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
	廻り線：F見切
備考	

機械室	
床	コンクリート金ゴテ　防塵塗装仕上
巾木	コンクリート打放し
壁	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
天井	ケイ酸カルシウム板 t =6　目透かし　AEP2
	廻り線：F見切
備考	

付記	令和 4年 3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正
	鶴岡市建設部建築課					

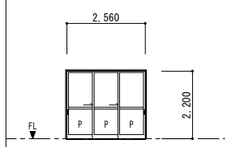
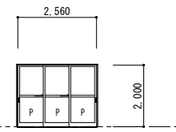
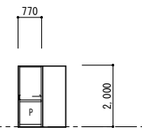
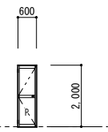
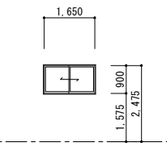
総・新穂・石川 設計共同企業体

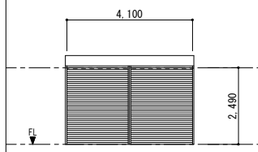
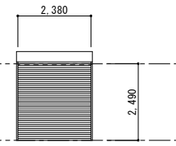
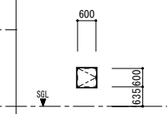
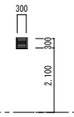
工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司	図面番号
図面名	プール展開図　縮尺 1/50 (A-1) 1/100(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司 1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司	PA-019



建具・家具キープラン　S=1/100

建具リスト　S=1/100

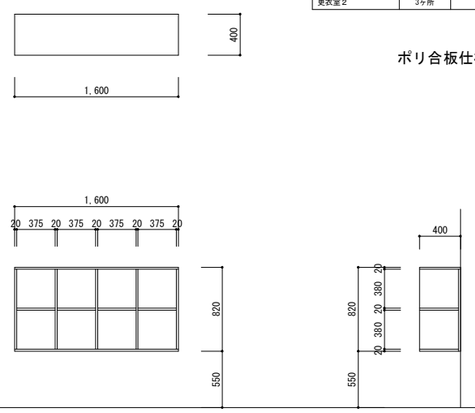
符号・数量	AD 1 機械室 1	AD 2 用具庫・倉庫 1	AD 3 更衣室 2	AD 4 機械室 1	AW 1 用具庫・倉庫　更衣室　機械室 4
形状・寸法					
型式・見込	アルミ製3枚引戸　100	アルミ製3枚引戸　100	アルミ製片引戸　50	アルミ製ドア　70	アルミ製引違い窓　70
仕　様	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー
ガ ラ ス	型板網入ガラス t=6.8　アルミパネル t=2	型板網入ガラス t=6.8　アルミパネル t=2	型板網入ガラス t=6.8　アルミパネル t=2	型板網入ガラス t=6.8　アルミパネル t=2	型板網入ガラス t=6.8
附 属 金 属	握込引手・ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｱﾙﾐ三方枠・付属金物一式	握込引手・ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｱﾙﾐ三方枠・付属金物一式	握込引手・ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・付属金物一式	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ・ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｱﾙﾐ三方枠・付属金物一式	付属金物一式
備　考	汎用サッシ半外付とする	汎用サッシ半外付とする	汎用サッシ半外付とする W切詰加工	汎用サッシ半外付とする	住宅用サッシ半外付とする

符号・数量	SS 1 監視室 1	SS 2 監視室 2	T 1 ピット 4	AG 1 用具庫・倉庫　更衣室 3	
形状・寸法					
型式・見込	軽量バランスシャッター（天井内納まり）	軽量バランスシャッター（天井内納まり）	ステンレス点検口　25	アルミ製ガラリ	
仕　様	塩ビ鋼板	塩ビ鋼板	ＳＵＳヘアーライン	アルミシルバー	
ガ ラ ス					
附 属 金 属	中柱・付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式		
備　考			杉田ACE　SUSﾏｰﾄｰ点検口 600角 同等品	固定ガラリ・防鳥ネット仕様	

家具リスト　S=1/30

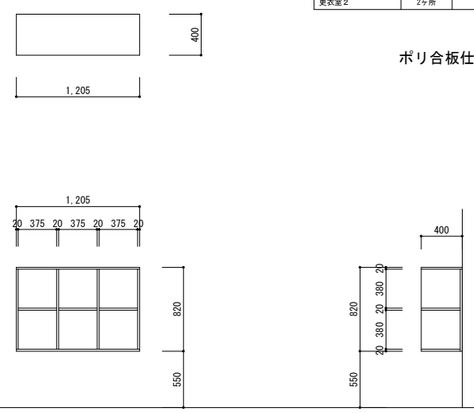
F-01　脱衣棚　6ヵ所

場所	箇所数	備考
更衣室１	3ヶ所	
更衣室２	3ヶ所	

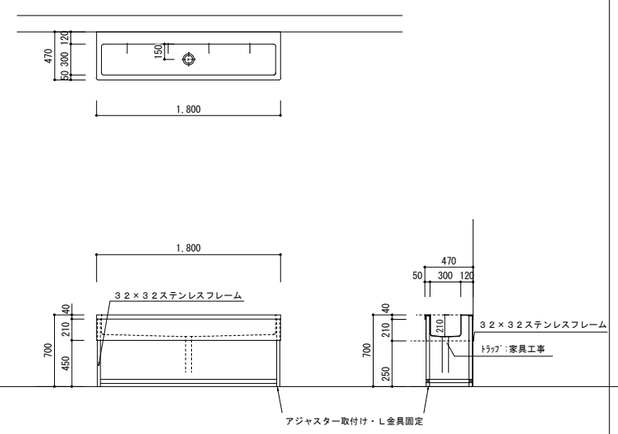


F-02　脱衣棚　6ヵ所

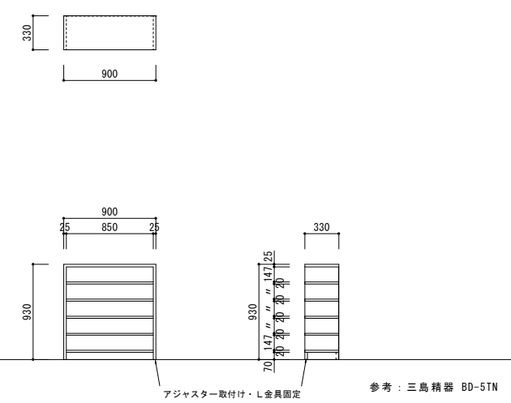
場所	箇所数	備考
更衣室１	2ヶ所	
更衣室２	2ヶ所	



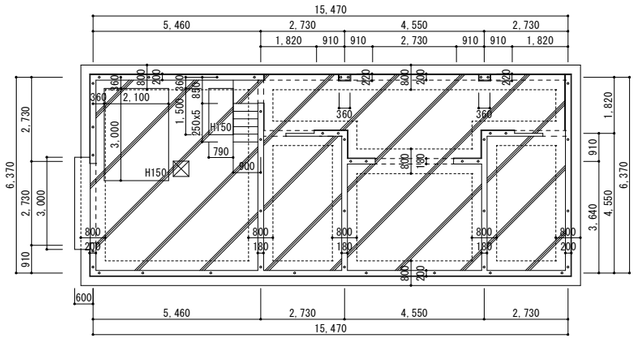
F-03　プール　水飲み流し　2ヵ所



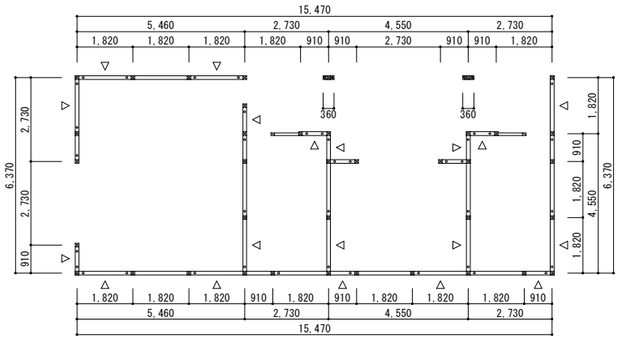
F-04　下足棚　4ヵ所



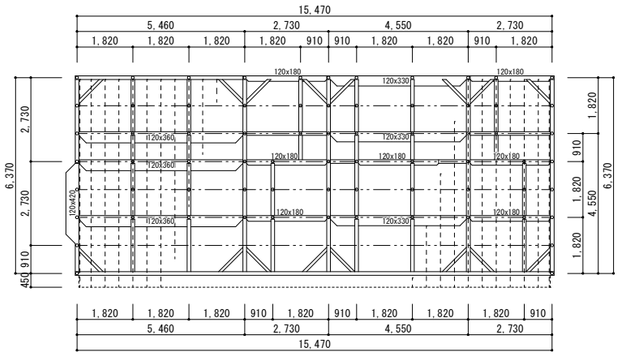
付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司 1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司 1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司	図面番号
								図面名	プール建具・家具リスト	縮尺	1/100･1/30(A-1) 1/200･1/60(A-3)	担当	PA-020



基礎伏図　S=1/100



土台伏図　S=1/100



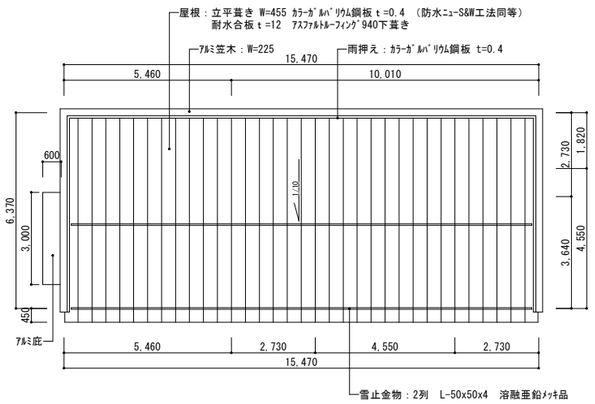
小屋伏図　S=1/100

■部材リスト

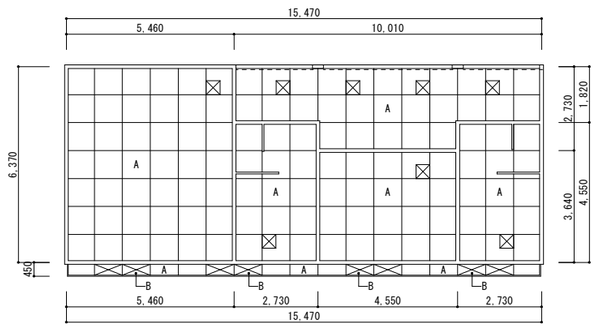
土　台：120x120　防虫防蟻処理材
　柱　：120x120
間　柱：36x120
筋　違：45x90 ▽
桁・梁：特記なき限り　120x120
大　梁：特記寸法による 米松
繋ぎ梁：120x120
母　屋：105x105　東共　両面ｶｽｶﾞｲ打ち
垂　木：45x90 @455
垂木掛：60x120
火打梁：90x90
震筋違：30x90
淀　木：120x18
胴　縁：18x45 @455
野　縁：36x40 @303

※特記なき限り樹種は杉一等とする

ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ：M12x400　@2700以内



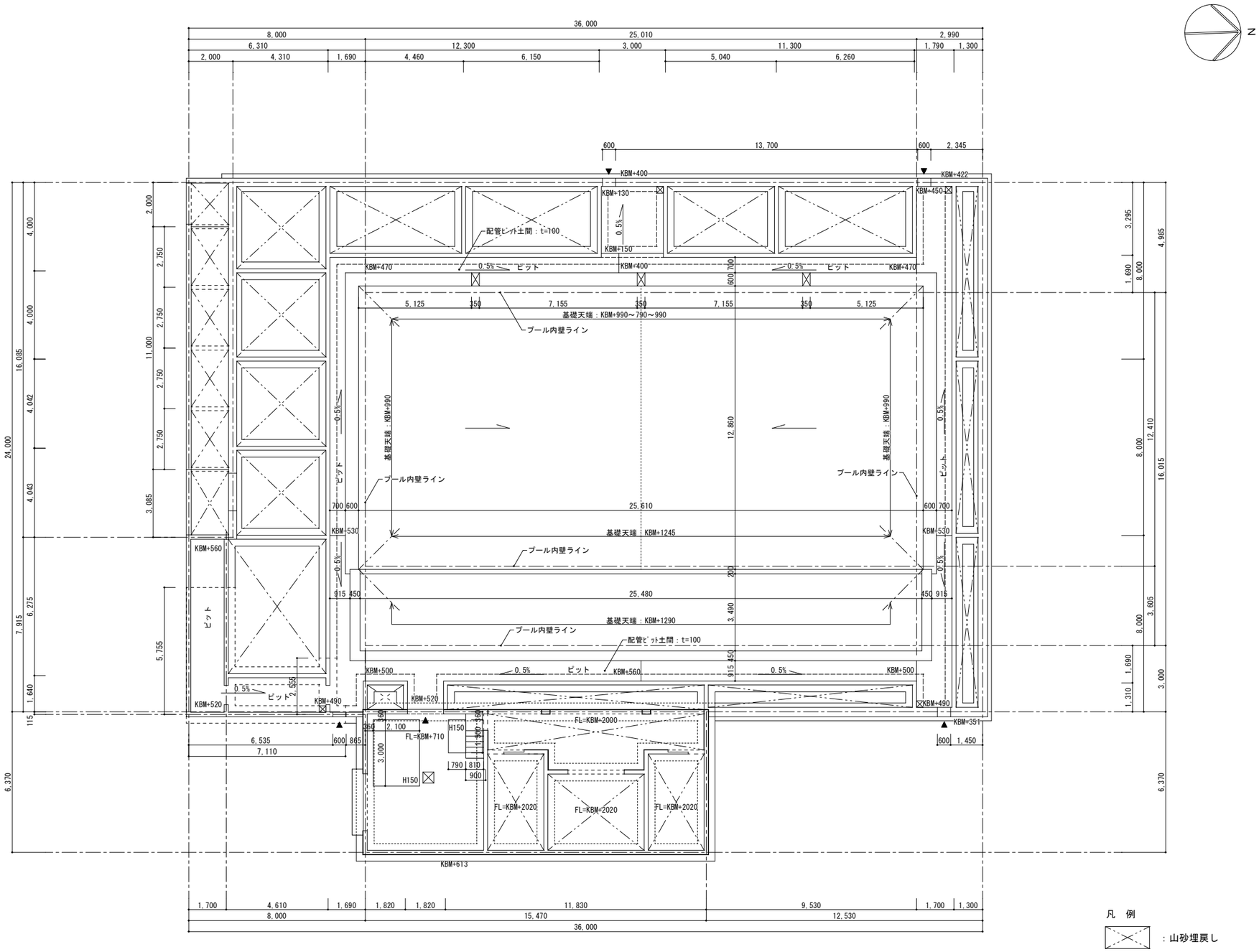
屋根伏図　S=1/100



天井伏図　S=1/100

凡	例
A	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6　EP塗装
B	有孔ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板 t=6　EP塗装
⊠	ｱﾙﾐ天井点検口　450角

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 プール管理棟伏図　縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-021
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	



凡　例

：山砂埋戻し

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司 1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	図面番号
								図面名 プールピット図　縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当		PA-022

プール工事本体特記仕様書

規模	プールサイズ(呼称)		25×16 (12.4+3.6)	m
	水　深	深手	1.0～1.2～1.0	m
		浅手	0.7	m
	レーン数（深手）		6	レーン
	レーン幅（深手）		1.9	m
	水 面 積：(呼称寸法で算出)		400	m2
	容　　量：(呼称寸法で算出)		404	m3

本体材質	FRP(Fiberglass Reinforced Plastics):不飽和ポリエステル樹脂をガラス繊維で強化したもの。	
成形法	側壁：ハンドレイアップ法 及び スプレイアップ法　底板：RTM工法	
各部構造	側壁	サンドイッチ構造(芯材 硬質発泡材) 厚さ 21mm　フロア部：厚さ 15mm
	底板	サンドイッチ構造(芯材 硬質発泡材) 厚さ 13mm
	デッキ、オーバーフロー部	ＦＲＰ単板構造
	本体固定金物	ＳＳ４００ 山形鋼 溶融亜鉛メッキ処理
	集水方式	３本ガーターによる分散集水方式

		部品名称	材質	員数	
付属部品	1	グレーチング	ＡＳＡ樹脂成形品	全周	
	2	ラダーハンドル	ＳＵＳ３０４	4	セット
	3	レーンロープフック	ＳＵＳ３０４	14	個
	4	レーンロープ	２５Ｍ樹脂製フロート（φ６０）	7	本
	5	コーナーハッチ	ＦＲＰ製	4	ケ所
	6	段差部フェンス	ＳＵＳ３０４	1	セット
	7	スタート板	ＦＲＰ製	6	台

		部位	基準値	許容範囲
寸法公差	1	長さ	25,010mm	-5～+20mm
	2	幅	16,015mm	0～+30mm
	3	デッキレベル	内壁天端レベル	±7.5mm以内

	部位	塗料材質	箇所	色	塗り分け位置
カラーリング	プール本体	ゲルコート (顔料を含んだ不飽和ポリエステル樹脂塗料)	側壁	アイボリー	オーバーフロー部
				パロスブルー	内壁天端より-50mm以下
			フロアー部	パロスブルー	全面
	ライン	ゲルコート (顔料を含んだ不飽和ポリエステル樹脂塗料)	レーンライン	ブラック	プール本体図参照
			クロスライン	ブラック	
			５Ｍライン	ビビットレッド	
			１０Ｍライン	ビビットレッド	
			センターライン	ビビットレッド	

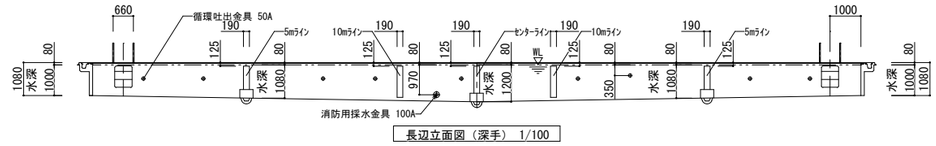
		部品名称	材質	サイズ	員数	
配管部品	1	排水兼循環金具	フランジ(ナイロン粉体塗装)+フレキシブルジョイント	JIS10K 125A	1	個
	2	排水兼循環金具	フランジ(ナイロン粉体塗装)+フレキシブルジョイント	JIS10K 100A	2	個
	3	オーバーフロー金具	ＢＳＣ ナイロン粉体塗装	80A	4	個
	4	循環吐出(菊形)金具	ＳＣＳ１４	50A	18	個
	5	給水口ボックス	ＦＲＰ製	50A HIVP管	1	個
	6	消防用採水金具	フランジ（ＳＧＰフランジ ナイロン粉体塗装）	JIS10K 100A	1	個

※プール取付金具以降の配管、フランジ、ボルト、ナット、ワッシャー、パッキン、配管サポート等は設備工事

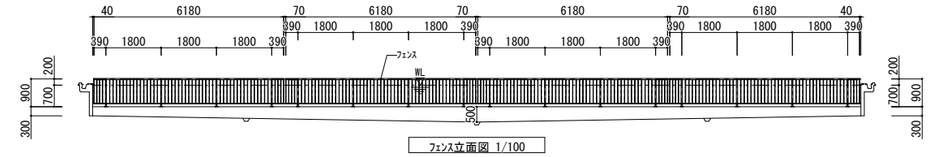
用語説明	ハンドレイアップ法	型の表面に製品色となるゲルコートを吹付硬化後、その上にガラス繊維を置き、 これに成形樹脂を含浸させて硬化後、型から外して得る成形法。
	スプレイアップ法	型の表面に製品色となるゲルコートを吹付硬化後、その上にガラス繊維を含ませた 成形樹脂をスプレイ散布し硬化後、型から外して得る成形法。
	ＲＴＭ工法 (真空補助樹脂注入成形法)	型の表面に製品色となるゲルコートを吹付硬化後、ガラス繊維を閉じた型の中に入れ、 負圧を利用して樹脂を注入する成形方法。
	ＡＳＡ	アクリレート スチレン アクリロニトリル
	ＢＳＣ	黄銅鋳物
	Ｒｃ	管用テーパーめすねじ
	ＳＣＳ	ステンレス鋳鋼品

注記

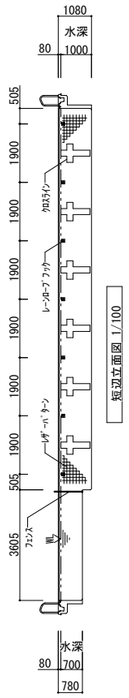
1. プールを水上とし1/75～1/100程度のプールサイド水勾配をとること。
2. プール搬入用通路、足場、揚重機、スロープ、荷取りステージ等は現場状況に応じて適宜決定のこと。



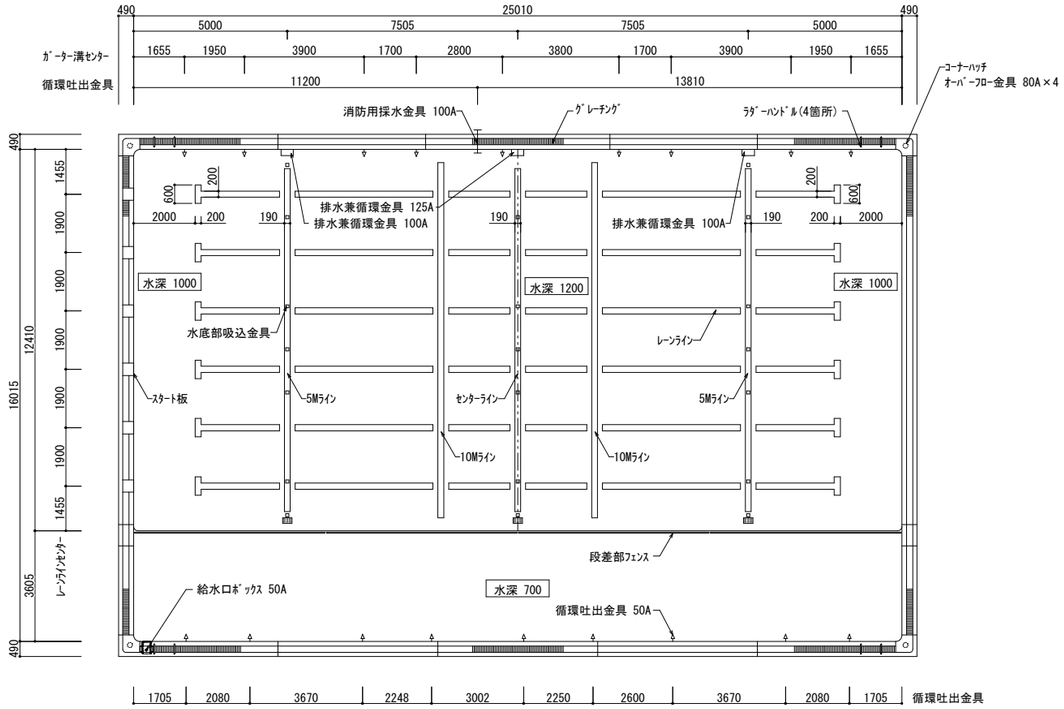
長辺立面図（深手） 1/100



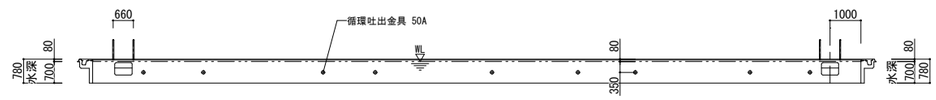
フェンス立面図 1/100



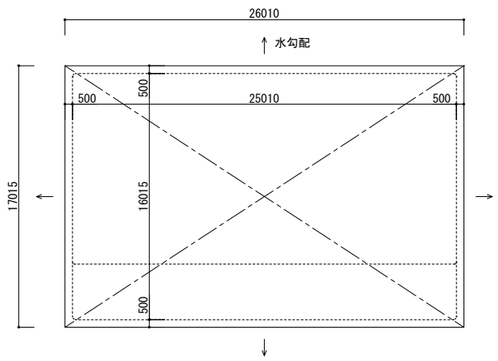
短辺立面図 1/100



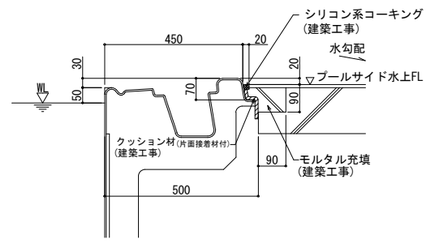
プール本体図 1/100



長辺立面図（浅手） 1/100

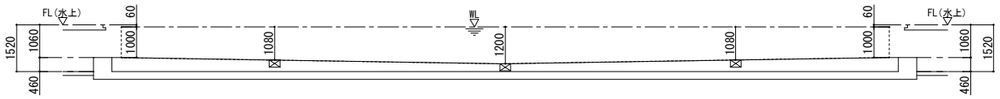


スラブ開口図 1/200

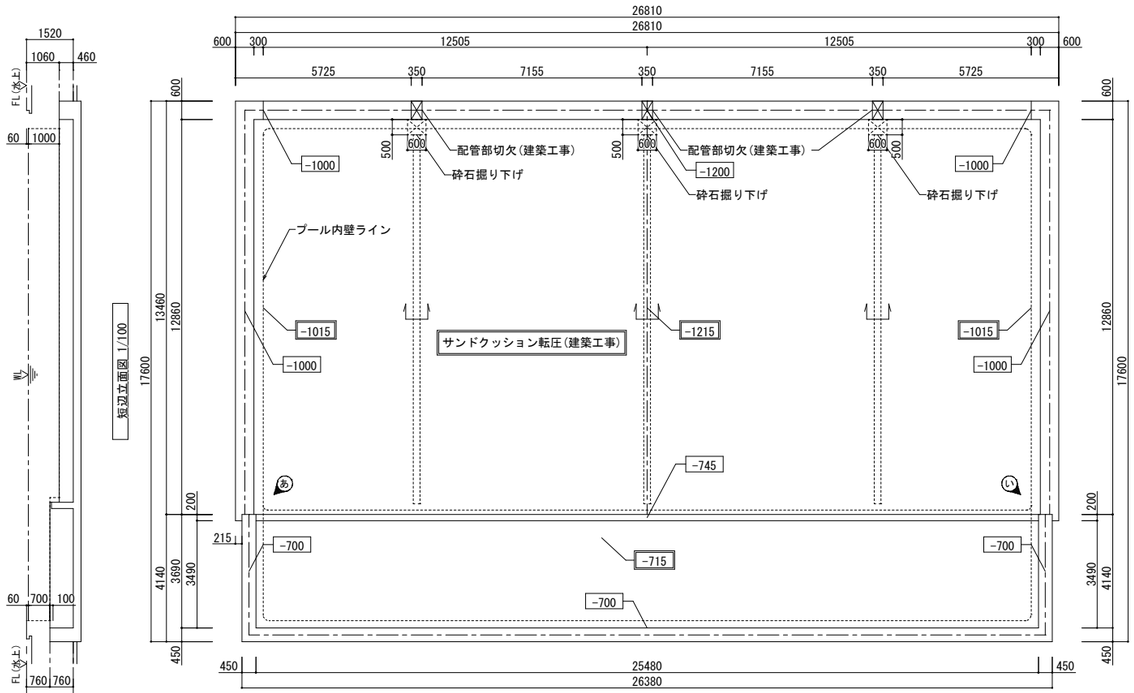


プールサイド取合い参考図(案) 1/10

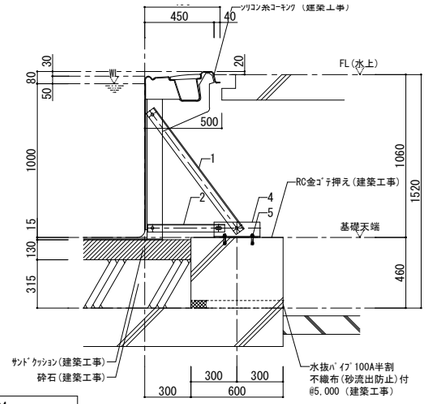
付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事 図面名 プール詳細図１　縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	日付 2022.3.15 担当	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司 1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	図面番号 PA-023



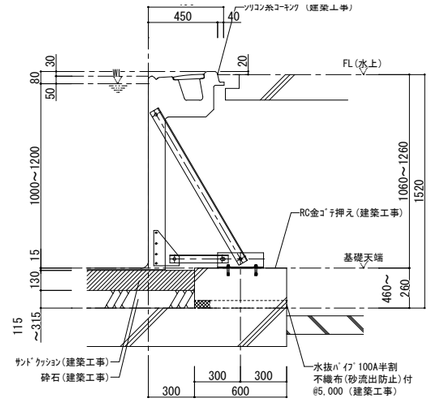
長辺立面図(1) 1/100



プール基礎伏図 1/100

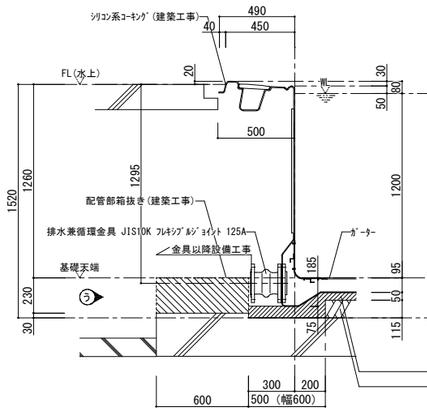


深手側短辺断面図
ステー取付部(ユニット補強リブ部)詳細図 1/20

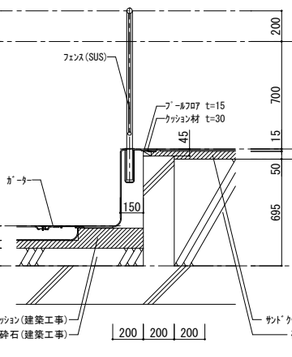


深手側長辺断面図
ステー取付部(ユニットジョイント部)詳細図 1/20

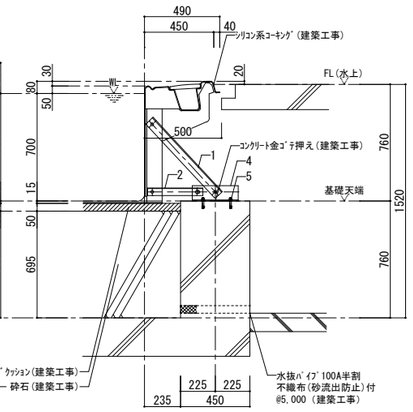
番号	部品名称	寸度	備考
5	ホールインアンカー	M12	SUS304
4	ベースアングル	L-100×75×7	
3	ブラケット	PL-t4.5	ジョイント部のみ
2	ロアーステー	L-50×50×4	
1	サイドステー	L-65×65×6	



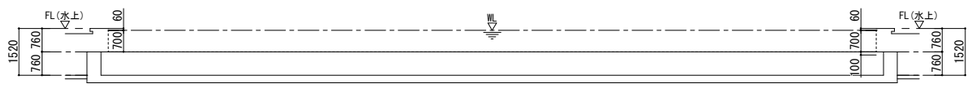
深手側長辺断面図(センター部)
排水兼循環金具部詳細図 1/20



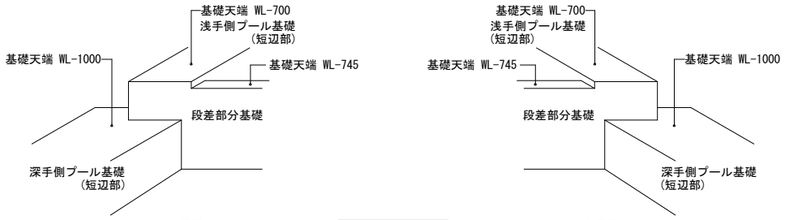
段差部詳細図 1/20



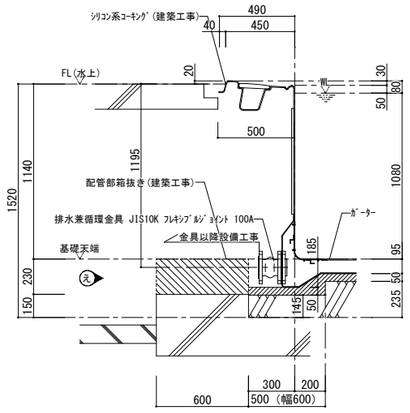
浅手側断面図
ステー取付部(ユニット補強リブ部)詳細図 1/20



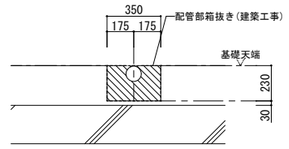
長辺立面図(2) 1/100



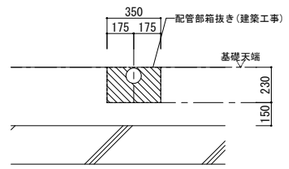
い視図　　段差基礎部斜視図　　あ視図



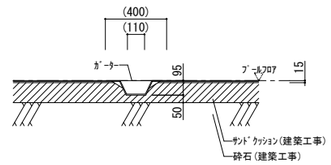
深手側長辺断面図(5m部)
排水兼循環金具部詳細図 1/20



う視図
配管部基礎箱抜き詳細図 1/20



え視図
配管部基礎箱抜き詳細図 1/20



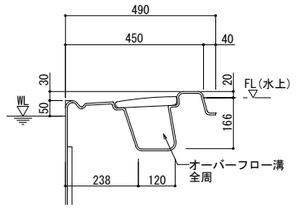
ガーター部詳細図 1/20

注記

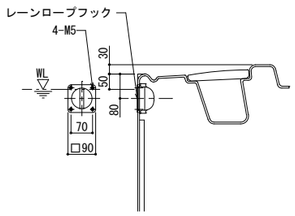
1. 図中 -1200 WLからのプール布基礎天端高を示す。
   図中 -1215 WLからのサンドクッション天端高を示す。
2. プール布基礎(RC)は高低差±10mm以下とし、上面は金コテ仕上とする。
   基礎上面の鉄筋かぶりは60mm以上とする(後施工アンカー首下長さ55mmのため)
3. サンドクッションは川砂又は同等品(直径1～5mm程度で塩分0.04%以下)にて
   高低差±7.5mm以下となるようプレート等にて転圧する。山砂・ダストは不適。
4. 砕石粒度は0～40mm程度を用い、不同沈下のない均等地盤にランマー等にて転圧する。
5. プール設置面及び、本基礎は地耐力 49kN/m2(長期)以上を確保すること。
6. 地下水位はプール底より50cm以上離れていること。
7. プールピット内は点検スペース及び換気・排水設備を設けること。
8. 水抜きパイプはピット排水勾配にあわせて適宜数量（5mピッチ程度）を設置すること。

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 プール詳細図２ 縮尺 1/100･1/20(A-1) 1/200･1/40(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-024
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

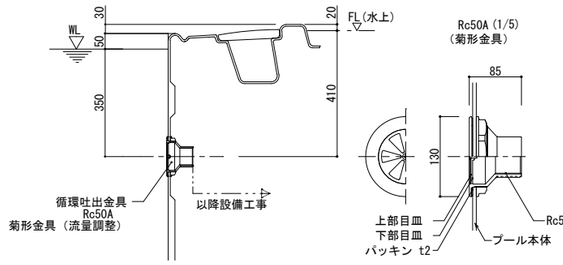
オーバーフロー溝断面詳細図 1/10



レーンロープフック詳細図 1/10

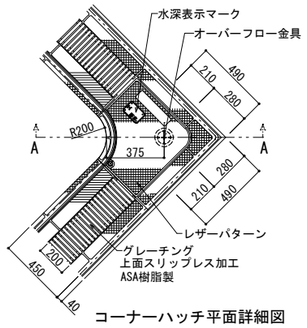


循環吐出金具部詳細図 1/10、1/5

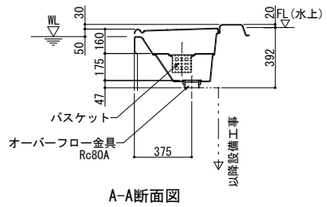


名　称	材　質
プール本体	FRP
金　具	SCS14
金具ナット	SCS14
パッキン	合成ゴム

コーナーハッチ及びオーバーフロー金具部詳細図 1/20、1/5



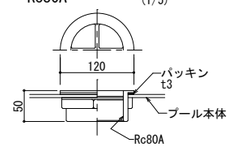
コーナーハッチ平面詳細図



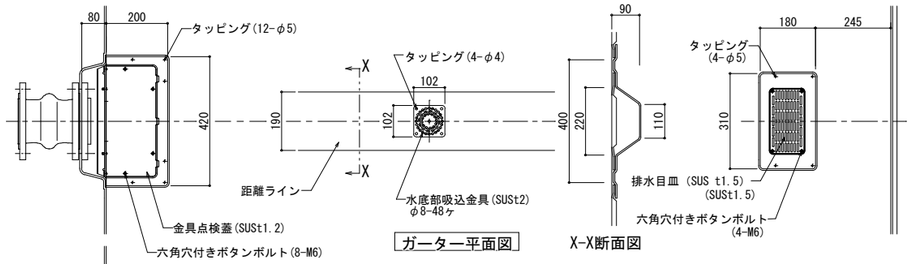
A-A断面図

名　称	材　質
プール本体	FRP
金具	BSC　［ナイロン粉体塗装(ネジ切部分は除く)］
金具ナット	BSC
パッキン	合成ゴム

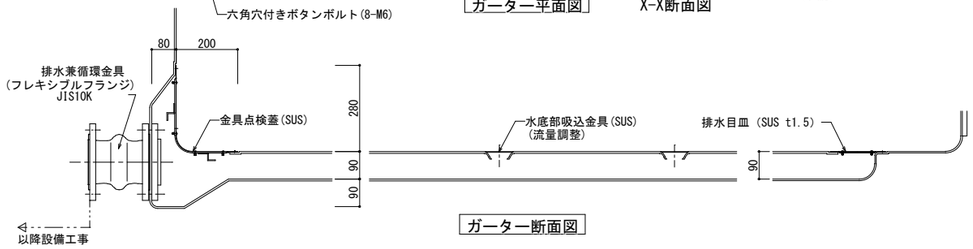
オーバーフロー金具
Rc80A
(1/5)



排水兼循環金具・ガーター部詳細図 1/10

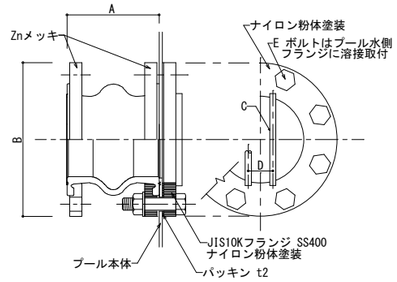


ガーター平面図　　X-X断面図



ガーター断面図

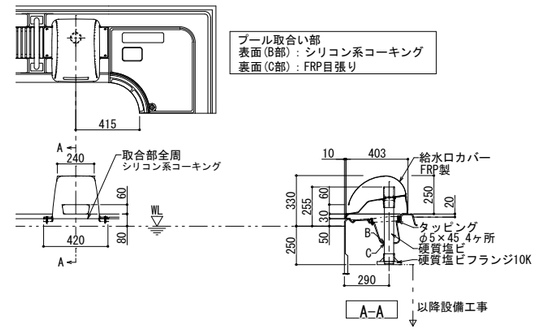
JIS10Kフレキシブルフランジ詳細図 (SCALE:FREE)



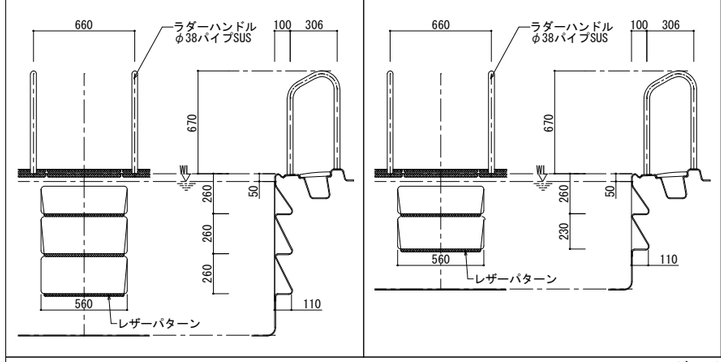
	A	B	C	D	E ボルト	使用箇所
125A	150	250	2-φ10	40	8-M20	排水兼循環
100A	150	210	3-φ7	30	8-M16	排水兼循環

名　称	材　質
プール本体	FRP
金具	SS400
パッキン	合成ゴム
取付金具	SUS(ボルト、ワッシャー、ナット)

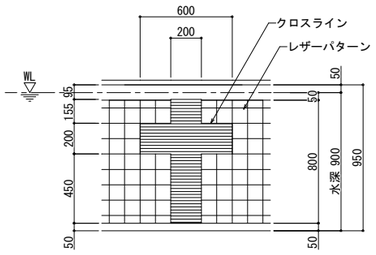
給水口ボックス詳細図 1/20



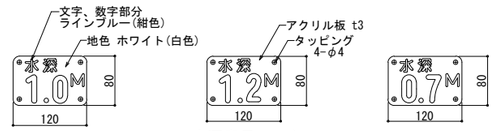
ステップ及びラダーハンドル詳細図 1/20



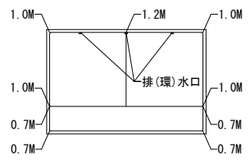
短辺側面詳細図 1/20



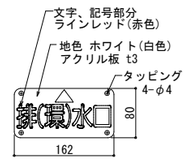
表示マーク詳細図 1/5



水深表示マーク

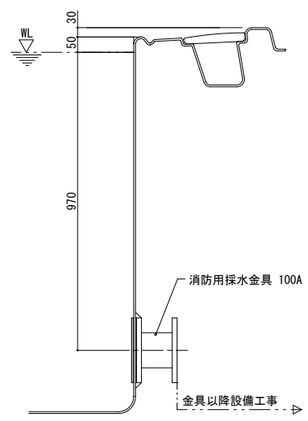


表示マーク取付位置



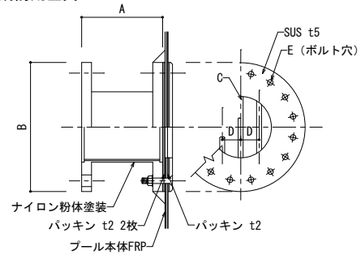
排(環)水口表示マーク

消防用採水金具部詳細図 1/10



JIS10K SGPフランジ詳細図 (SCALE : FREE)

消防用金具

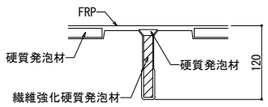


JIS10K SGPフランジ詳細図

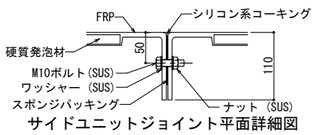
	A	B	C	D	E
100A	132	210	3-φ8	30	16-φ10

名　称	材　質
プール本体	FRP
金　具	SGP、SS400（ナイロン粉体塗装）
パッキン	合成ゴム
取付金具	SUS（ボルト、ワッシャー、ナット）

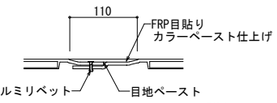
ジョイント及び補強リブ詳細図 1/5



補強リブ平面詳細図



サイドユニットジョイント平面詳細図

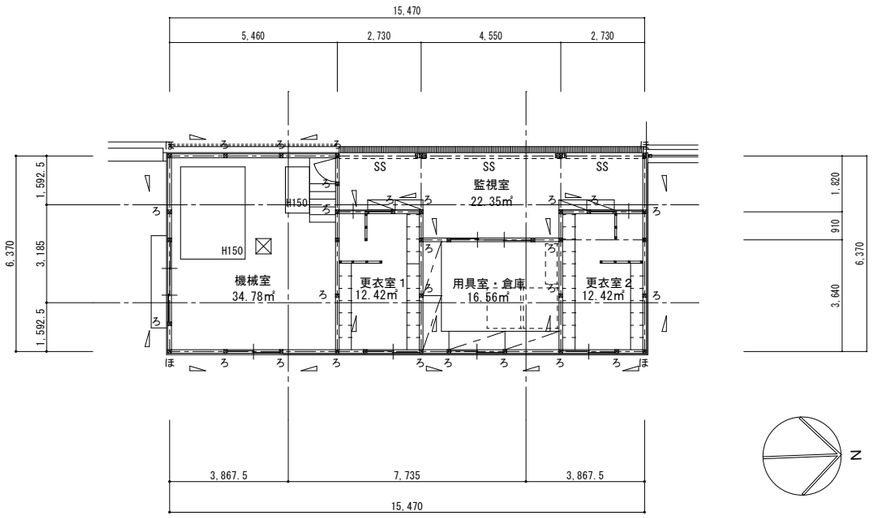


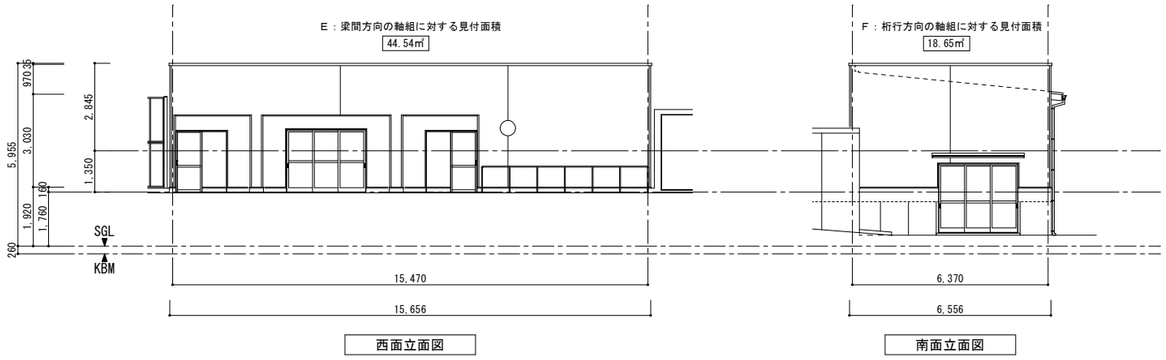
フロアーユニットジョイント断面詳細図

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

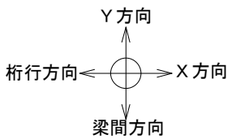
総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022. 3. 15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
図面名	プール詳細図３　縮尺 1/10・1/20・1/5(A-1) 1/20・1/40・1/10(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	PA-025





西面立面図　　南面立面図



筋違仕様	外周の横架材接合部仕様
A 45X90(ｼﾝｸﾞﾙ) BP-2金物＋ZS50釘打、M12ﾎﾞﾙﾄ締 (壁倍率2.0) 左上り右下り 筋かい向き確認方向 B 45X90(ｼﾝｸﾞﾙ) BP-2金物＋ZS50釘打、M12ﾎﾞﾙﾄ締 (壁倍率2.0) 左下り右上り C 45X90(ﾀﾞﾌﾞﾙ) BP-2金物＋ZS50釘打、M12ﾎﾞﾙﾄ締 (壁倍率4.0)	・短ざく金物(S) ・使用金物類は、日本住宅・木材技術センターのＺ金物相当品とする事。 柱脚柱頭接合部仕様　柱脚柱頭共（参考：株式会社タナカ製金物） ろ　ｽﾓｰﾙｺｰﾅｰⅡ 同等 は　ｺﾝﾊﾟｸﾄｺｰﾅｰ・ﾘﾄﾙｺｰﾅｰ同等 に　W羽根Uﾋﾟｽﾀｲﾌﾟ、ｵﾒｶﾞﾌﾟﾚｰﾄSD10KN・ｼﾅｰｺｰﾅｰ 同等 ほ　W羽根Uﾋﾟｽﾀｲﾌﾟ、ｵﾒｶﾞﾌﾟﾚｰﾄSD10KN・ｼﾅｰｺｰﾅｰ 同等 へ　W羽根Uﾋﾟｽﾀｲﾌﾟ、ｵﾒｶﾞﾌﾟﾚｰﾄSD10KN・ｼﾅｰｺｰﾅｰ 同等 と　HD金物15KN ※上記以外の部分はかずがい止め ・使用金物類は、日本住宅・木材技術センターのＺ金物相当品とする事。

1階

建築基準法施行令第46条第4項に基づく　筋違計算表

1階	床面積による軸組計算	見付面積による軸組計算	
	梁間，桁行方向共	梁間方向　(A,C及びE)	桁行方向　(B,D及びF)
	床面積 98.54 ㎡ x 0.13m/m2 = 12.81 m (ｲ) 床面積により要求される軸組の長さ	見付面積を記入 Eの見付面積 44.54 ㎡×0.5/㎡ = 22.27 m (ﾁ) 見付面積により要求される軸組の長さ	見付面積を記入 Fの見付面積 18.65 ㎡×0.5/㎡ = 9.33 m (ﾘ) 見付面積により要求される軸組の長さ
		下欄は桁行方向の各軸組記入	下欄は梁間方向の各軸組記入

有効軸組の長さ	軸組の種類	軸組の長さ × 箇所 × 倍率 × 有効軸組の長さ				軸組の長さ × 箇所 × 倍率 × 有効軸組の長さ			
	(4)	0.910	4	2.0	7.280	0.910	4	2.0	7.280
	(4)	1.820	6	2.0	21.840	1.820	5	2.0	18.200
	判　定	(ｲ)又は(ﾁ)の大なる値	22.27 m	≦	29.12 m	(ｲ)又は(ﾘ)の大なる値	12.81 m	≦	25.48 m
					基準の1.30倍				基準の1.98倍

	軸組の種類	倍率
(2)	木ずりその他これに類するものを柱及び間柱の両面に打ち付けた壁を設けた軸組 厚さ1.5ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙで巾9ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙの木材若しくは径9ﾐﾘﾒｰﾄﾙの鉄筋又はこれらと同等以上の耐力を有する筋違いを入れた軸組	1
(3)	厚さ3ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙで巾9ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙの木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋違いを入れた軸組	1.5
(4)	厚さ4.5ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙで巾9ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙの木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋違いを入れた軸組	2
(5)	9ｾﾝﾁﾒｰﾄﾙ角の木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋違いを入れた軸組	3
(6)	(2)から(4)までに掲げる筋違いをたすき掛けに入れた軸組	(2)から(4)までのそれぞれ数値の2倍
(7)	(5)に掲げる筋違いをたすき掛けに入れた軸組	5
(8)	その他(1)から(7)までに掲げる軸組と同等以上の耐力を有するものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたもの	0.5から5までの範囲内において国土交通大臣が定める数値
(9)	(1)又は(2)に掲げる壁と(2)から(6)までに掲げる筋かいとを併用した軸組	(1)又は(2)のそれぞれの数値と(2)から(6)までのそれぞれの数値との和

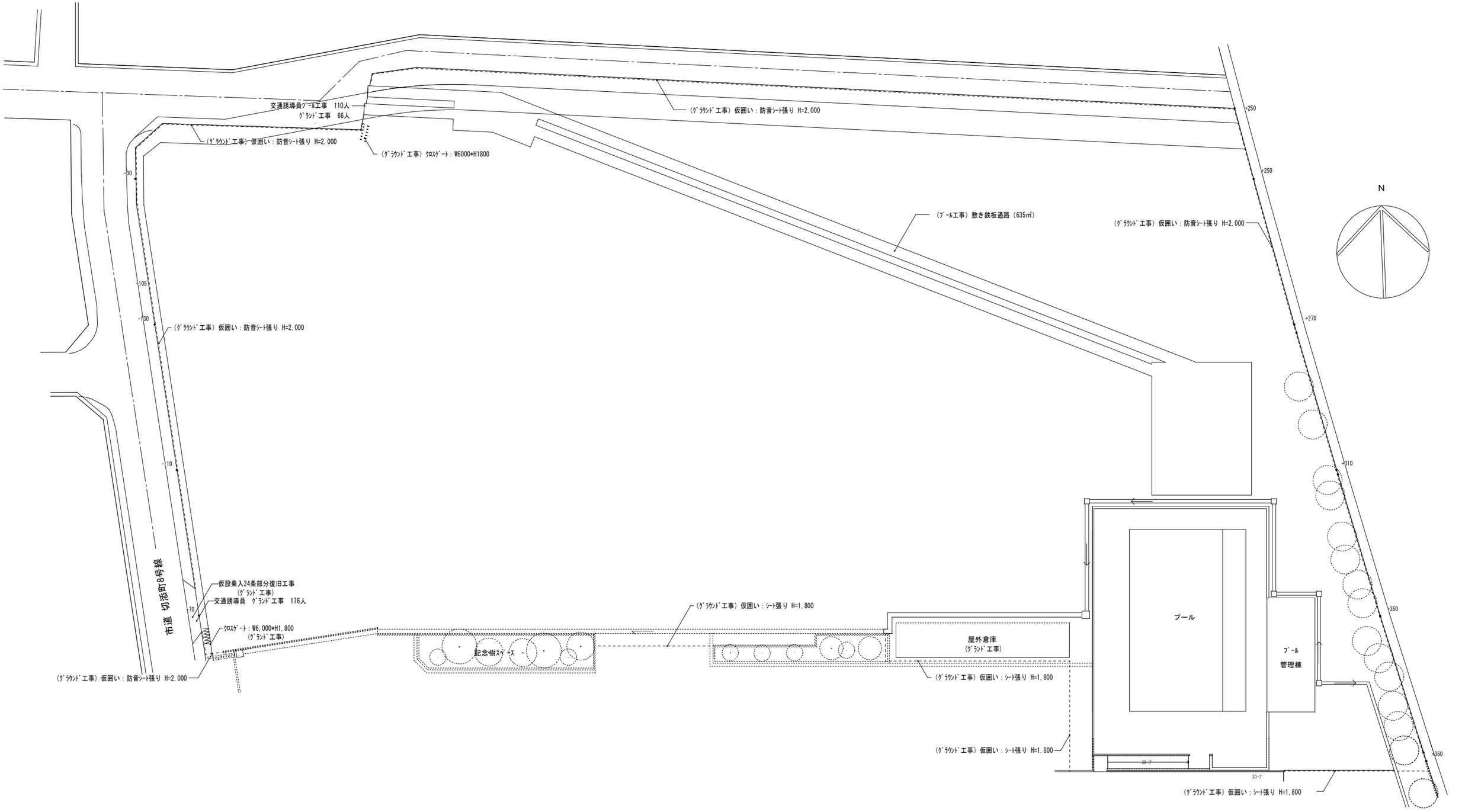
1階

国交省　告示１３５２号の検討

1階	梁間方向 1階梁間（左）	必要壁量の算定	存在壁量の算定	1階梁間（右）	必要壁量の算定	存在壁量の算定
		床面積 m2 m/m2 24.63 x 係数 〈係数〉（平屋建） = 0.13	軸組長さx箇所x倍率= 0.910 1 2.0 1.820 1.820 1 2.0 3.640		床面積 m2 m/m2 24.63 x 係数 〈係数〉（平屋建） = 0.13	軸組長さx箇所x倍率= 0.910 1 2.0 1.820 1.820 3 2.0 10.920
		必要壁量 3.20 m	存在壁量 （計） 5.460 m		必要壁量 3.20 m	存在壁量 （計） 12.740 m
		壁量充足率の算定 存在壁量／必要壁量＝ 1.70 (A)			壁量充足率の算定 存在壁量／必要壁量＝ 3.98 (B)	
	壁率比の判定	A / B =	—		≧ 0.5	＊AかつBが１を超える場合は必要ありません
		B / A =	—			

1階	梁間方向 1階桁行（上）	必要壁量の算定	存在壁量の算定	1階桁行（下）	必要壁量の算定	存在壁量の算定
		床面積 m2 m/m2 24.63 x 係数 〈係数〉（平屋建） = 0.13	軸組長さx箇所x倍率= 1.820 2 2.0 7.280		床面積 m2 m/m2 24.63 x 係数 〈係数〉（平屋建） = 0.13	軸組長さx箇所x倍率= 0.910 2 2.0 3.640 1.820 3 2.0 10.920
		必要壁量 3.20 m	存在壁量 （計） 7.280 m		必要壁量 3.20 m	存在壁量 （計） 14.560 m
		壁量充足率の算定 存在壁量／必要壁量＝ 2.27 (C)			壁量充足率の算定 存在壁量／必要壁量＝ 4.55 (D)	
	壁率比の判定	C / D =	—		≧ 0.5	＊CかつDが１を超える場合は必要ありません
		D / C =	—			

付記	令和 4年 3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 プール管理棟　筋違計算書　縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PA-026
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	



付記	令和 4年 3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022. 03. 15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司	図面番号
	鶴岡市建設部建築課							図面名	ﾌﾟｰﾙ・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ工事　仮設計画図　縮尺 1/250(A-1) 1/500(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司 1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司	PA-027

建　築　工　事　特　記　仕　様　書　〈構　造　関　係〉

項　目	特　記　事　項

1．　共通仕様

a．図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、全て社団法人公共建築協会編「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書最新版(建築工事編）」（以下「共仕」という）による。
b．国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（建築工事）最新版は以下「標準仕様書」という。

2．　特記事項

a．項目は番号に○印の付いたものを適用する。
b．特記事項は⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印の付いた場合は共に適用する。
c．特記事項に記載の（　．　．　）内の表示番号は「標準仕様書」の当該項目、当該図及び当該表を示す。
特記事項に記載の（標仕参　．　）内の標仕参は「標準仕様書（資料）各部配筋参考図」の当該項目、当該図及び当該表を示す。
d．特記事項で「図示」とあるは、設計図面記載事項を意味する。
e．「標準仕様書（資料）各部配筋参考図」は設計図書の一部とし、標準仕様書・同監理指針と同様の扱いとする。
f．特記事項で「配筋規準図」とあるは、「鉄筋コンクリート造配筋規準図（１）（２）（３）」の記載事項を意味する。

3．　適用基準等

・　工事写真の撮り方（改訂第２版）建築編（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）

4．　設計図書の優先順位

設計図書に関する優先順位は次による。
1）質疑応答書及び補足訂正追加事項
2）工事見積要項書（現場説明書及び現場説明に対する議事録を含む。）
3）特記仕様書
4）図面
5）設計説明書・設計品質伝達書
6）「共仕」・「標準仕様書（資料）各部配筋参考図」
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事監理指針平成22年版

４章　地　業　工　事

1．　試験

試験杭　※行う（本杭兼用）　・行わない　(4.2.2)
位置，本数　図示　・監理者の指示（　本）

載荷試験　・杭の載荷試験　試験種別（・鉛直　・水平）　(4.2.3)
（　）ヶ所　最大荷重（　）kN
・地盤の平板載荷試験　（　）ヶ所　最大荷重（　）kN/m²　(4.2.4)
試験を行う深さ　ＧＬ-(　　)ｍ　試験地盤（　）
※方法は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の敷地調査共通仕様書により、試験位置は図示による。

2．　既製コンクリート杭地業

材料　(4.3.2)
・鉄筋コンクリート杭（ＪＩＳ　Ａ　５３７２）
・　※Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・　種　⊙図示
・ＪＩＳ Ａ 5373　・ＢＣＪ　又はＣＯＰＩＴＡ 評定又は評価品
・外殻鋼管付コンクリート杭（鋼板厚　・ｔ＝　mm　・図示　）
・ＢＣＪ　又はＣＯＰＩＴＡ 評定又は評価品
・鉄筋又は平鋼にて補強された杭（・　種　・図示）
・ＢＣＪ　評定又は評価品
・拡径断面を有する遠心高強度プレストレスコンクリート杭（・　種　・図示）
・ＢＣＪ又はＣＯＰＩＴＡ 評定又は評価品
注）ＢＣＪ:(財)日本建築センター，
ＣＯＰＩＴＡ　:(社)コンクリートパイル建設技術協会
・杭の寸法，継手の箇所数　※図示
先端部形状　※閉そく平たん形　・開放型

工法　(4.3.1)
・打込み工法　(4.3.3)
・打撃（直打ち）工法
・プレボーリング併用打撃工法
（プレボーリング深さ　ＧＬ－　m・掘削径　φ）
ハンマー種別　・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー
ヤットコの使用　・　mまで可とする
設計支持力　・　kN/本　・図示
支持地盤　・
支持力の算定方法　※Ｆ／（５Ｓ＋０．１）　・
・埋込工法，特定埋込杭工法　(4.3.4)(4.3.5)
・セメントミルク工法　根固め液の範囲（・全長　・杭頭－　mまで　）
・中堀り打撃工法
・　杭周固定液の使用（・する　・しない）
・中堀り拡大根固め工法（大臣認定工法）
・
・試し掘り　・行う（７　箇所）　・行わない
・ヤットコの使用　・　３ｍまで可とする
・支持層位置の確認　※積分電流計　・電流計
設計支持力　・　kN/本　・図示
支持地盤　・ＧＬ-２１ｍ以深の砂礫層

継手　(4.3.6)
・アーク溶接による溶接継手　・無溶接継手（大臣認定品）
・図示

杭頭の処理　(4.3.7)
※図示

杭の精度
※水平方向の位置ずれは　１００mm　以下　・図示

高支持力杭（α＞250 ）の試験杭に含む管理項目
※積分電流計による支持層位置および根入れ深さ
※拡大ヘッドの拡翼
※施工管理装置（自動記録）と実施施工との整合

3．　鋼杭地業

材料　(4.4.2)
・鋼管杭（ＪＩＳ Ａ 5525）・ＳＫＫ400・ＳＫＫ490
・Ｈ形鋼杭（ＪＩＳ Ａ 5526）・ＳＨＫ400・ＳＨＫ400Ｍ・ＳＨＫ490Ｍ
先端部形状　※開放型　・図示
先端部補強　※補強は図4.4.1及び表4.4.2による　・図示

継手　(4.4.5)
杭の現場継手の形状　鋼管杭　※ＪＩＳ　Ａ　5525による　・図示
Ｈ形鋼杭 ※図示
溶接部の確認　※7.6.10 に準じて行う

工法　(4.3.1)
・打込み工法（打撃工法）　(4.4.3)
ハンマー種別　・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー
プレボーリング・行う（深さ ＧＬ－　m ）・行わない
・ヤットコの使用は（　m）　まで可とする
・支持力の算定方法　※Ｆ／（５Ｓ＋０．１）・

・特定埋込杭工法　(4.4.4)
・中堀り工法（大臣認定工法）
試し掘り　・行う（　箇所）・行わない

杭頭の処理　※図示　・　(4.4.6)

支持地盤　・
※高支持力杭（α＞250 ）の試験杭に含む管理項目は　2.既製コンクリート杭地業に準ずる。

4．　場所打ちコンクリート杭地業

材料その他　(4.5.3)
鉄筋仕様　※５章鉄筋工事の項目　1.材料による　・図示
帯筋　※各部配筋参考図2.2 ⑥丸形　・図示　(標仕参2.2)
継手　組み立てた鉄筋の節ごとの継手
※５章鉄筋工事の項目　2.加工及び組立による
鉄筋かごの補強　※4.5.3（ⅲ）による　・図示
鉄筋のかぶり厚さ　※１００mm　・図示
セメントの種類　※高炉セメントＢ種
・普通ポルトランドセメント（ＪＩＳ Ｒ 5210）
混和材料　※６章コンクリート工事の項目　1.一般事項，コンクリートの品質による
・図示
コンクリートの設計基準強度　(4.5.3)
※６章コンクリート工事の項目　1.一般事項，コンクリートの品質による
・図示
構造体コンクリートの強度と供試体の強度差を考慮した割増　(4.5.3)
※　3　N/mm²　・　N/mm²
コンクリートの種別　・Ａ種　(表4.5.1)
※Ｂ種

工法　(4.5.1)(4.5.4)(4.5.5)
・アースドリル工法　・リバース工法　・オールケーシング工法（ペノト工法）
・アースドリル拡底工法（(財)日本建築センター評定工法）
・リバース拡底工法（(財)日本建築センター評定工法）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法（(財)日本建築センター評定工法）
・
安定液の種類　※ポリマー系　・ベントナイト系
一次スライム処理
※底浚い完了後スライムクリーナー等により孔底のスライムを吸い上げ、良液の安定液と置換する。
安定液の砂分を掘削中は5%以下、コンクリート打込み前は1%以下とする。
超音波孔壁測定　・行う（　本）　・行わない　(4.5.4)(4.5.5)
スライム沈殿試験　・行う　・行わない
オールケーシング工法　孔内の水張り　・行う　・行わない

支持地盤　・

杭の精度　※水平方向の偏心は　１００mm　以下　・図示

5．　砂利，砂，割り石及び捨コンクリート地業等

砂利及び砂地業　(4.6.2)(4.6.3)
厚さ（mm ※６０（材料：Ｃ-３０　，適用範囲：基礎，ピット，1階スラブ　）
・　（材料：　，適用範囲：　）
・　（材料：　，適用範囲：　）

捨コンクリート地業　(4.6.4)
コンクリートの材料　※高炉セメントＢ種　・普通ポルトランドセメント
・
設計基準強度（N/mm²）　※１８　・
スランプ（cm　）　※１５　・１８
厚さ（mm　）　※５０　・

6．　置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状　※図示による
支持地盤の長期設計支持力　・　kN/m²
支持地盤　・
コンクリートの仕様　設計基準強度（ N/mm² ）・１８　・
スランプ（cm　）　・１５　・１８
型枠使用の有無　※無し　・有り

7．　地盤改良（セメント系固化材を用いた工法による改良）

工法　・浅層混合処理工法　適用範囲、仕様は図示による
⊙深層混合処理工法　適用範囲、仕様は図示による
※品質管理は「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(2002)」による
※図示
支持地盤の設計支持力度　・　kN/m²
支持地盤　・

8．　直接基礎

５章　鉄　筋　工　事

1．　材料

鉄筋の種類　(表5.2.1)(5.2.1)

	種類の記号	径（mm）
※異形鉄筋	※ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１０～Ｄ１６
	※ＳＤ３４５	Ｄ１９～
	・ＳＤ３９０	Ｄ２９
高強度せん断補強筋	・MSRB-9004	Ｄ１３

溶接金網（ＪＩＳ Ｇ 3551規格品）　(5.2.2)
鉄線の径及び網目の形状，寸法　・
（設置場所　）

2．　加工及び組立

鉄筋の継手 柱、梁：Ｄ１９以上　※ガス圧接　・重ね　(5.3.4)
Ｄ１６以下　※重ね　・
その他：※重ね　・
場所打ちコンクリート杭　※重ね
特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第73条第2項の適合品）
・使用する　※使用しない
（適用箇所　鉄筋相互のあき　）
隣合う継手の位置　・表5.3.3 による
・柱，梁の主筋を同一箇所に設ける
（適用箇所　）
梁主筋の柱への定着　(5.3.4)
※４０d(普通コンクリート）かつ鉄筋コンクリート造配筋規準図（１）の ２－9(重ね継手及び定着の長さ）を満足すること
・鉄筋コンクリート造配筋規準図（1）の2-9（重ね継手及び定着の長さ）を満足すること
・図示
鉄筋のかぶり厚さ及び間隔　(表5.3.6)(5.3.5)
鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
※表5.3.6 による
・軽量コンクリートの場合のかぶり厚さ
（適用箇所　かぶり厚さ（mm）　）
・耐久性上不利な箇所のかぶり厚さ
（適用箇所　かぶり厚さ（mm）　）
スペーサー 側面のかぶり　・鋼製　・ｺﾝｸﾘｰﾄ製　⊙合成樹脂製
スラブ　※鋼製　・ｺﾝｸﾘｰﾄ製　・合成樹脂製
その他　※鋼製　※ｺﾝｸﾘｰﾄ製　・合成樹脂製
・鋼製　・ｺﾝｸﾘｰﾄ製　・合成樹脂製
※鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
※コンクリート製のスペーサーは、打ち込まれるコンクリートと同等以上の強度を有するものとする。
各部の配筋　(標仕参 各部配筋)(5.3.7)
既製コンクリート杭頭補強方法
⊙図示　・配筋規準図（・Ａ形 ※Ｂ形・Ａ１形・Ｂ１形）
梁せいが１．５m以上の場合の腹筋及び幅止め筋　※図示　(標仕参3.2)
基礎梁梁成１．５m以上の場合のスペーサー　・鉄筋加工　・既製品
柱の帯筋組立の形　※Ｉ形　・Ｗ－Ｉ形　・ＳＰ形　・丸形 (標仕参2.2)
柱の帯筋の割付け　※標準仕様書各部配参考図2.2による　・図示 (標仕参2.2)
大梁のハンチの傾斜　※１：４　・図示　(標仕参3.1)
壁梁の場合，腹筋の定着長さ及び継手長さ　※Ｌ２　・図示
コンセントボックスを壁に埋め込む場合の補強　※図示　(標仕参4.4)
梁貫通補強　⊙Ｈ形　・ＭＨ型　・Ｍ型　(標仕参7.1) (標仕参7.2)
（無孔梁の終局せん断強度に対して、余裕度１.２を確保する。）
⊙建設省技術評価又は（財）日本建築センター評価を受けたもの
（図示による補強と同等以上の強度を有すること。）

3．　ガス圧接

圧接技能資格者の技量付加試験　(5.4.2)
・行う(ＪＩＳ Ｚ 3881 ＪＩＳ Ｚ 3120)　※行わない(技量証明書提出)
圧接完了後の試験 ※超音波探傷試験 ※汎用探傷器・専用探傷器　・引張試験 (5.4.9)
※外観検査
検査機関はＣＩＷ認定を受けた第三者機関とし、発注は建築元請業者の直発注，契約とする。
検査技術者は（社）日本鉄筋継手協会の鉄筋継手部検査技術者（検査対象継手部に圧接継手部を含む者）で資格種別３種の者とする。
引張試験機関は原則として公的機関による。

６章　コ　ン　ク　リ　ー　ト　工　事

1．　一般事項 コンクリートの品質

コンクリートの種類　(6.1.3)
※ＪＩＳ Ａ 5308 に適合するレディミクストコンクリート
・国土交通大臣の認定を受けたコンクリート
コンクリートの使用骨材による種類　※普通コンクリート　・軽量コンクリート
特殊な要求性能におけるコンクリート
・海塩粒子の影響を受けるおそれのある箇所、海水の作用を受ける箇所等におけるコンクリート
（適用箇所　措置　）
・凍結融解作用を受けるおそれのある箇所におけるコンクリート
（適用箇所　措置　）
・酸性土壌，硫酸塩及びその他の侵食性物質又は熱の作用を受ける箇所におけるコンクリート
（適用箇所　措置　）
コンクリート仕様　(6.1.3,4)(6.2.2,3)(6.3.5)(6.4,8)(6.11.1,3)(6.14.1,3)(6.15.3)

使用区分		設計基準強度（ Fc N/mm²）	S（cm）	γ（kN/m³）	混和材料	備　考
構造体コンクリート	プール様	24	18	23	B	

混和材料	符号	名　称	符号	名　称	符号	名　称
	A	ＡＥ剤	D	防錆剤	G	高性能ＡＥ減水剤（Ⅰ種）
	B	ＡＥ減水剤（Ⅰ種）	E	防水材	H	ＡＥ減水剤・遅延形（Ⅰ種）
	C	膨張材	F	流動化剤	I	下記による

混和材料Ⅰ（種類　）　(6.4.8)
（使用方法　使用量　）

2．　コンクリートの材料

レディーミクストコンクリートの類別　※Ⅰ類　・Ⅱ類　(表6.1.1)(6.1.5)
コンクリートの仕上がり　(6.2.5)
コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差，測定方法
許容差　※表6.2.2 による
測定方法　・

セメントの種類　(表6.3.1)(6.3.2)

規格番号	規格名称	セメントの種類	使用箇所
※ＪＩＳ Ｒ 5210	※普通ポルトランドセメント	——	※特記以外
・	・ポルトランドセメント		・
・ＪＩＳ Ｒ 5211	高炉セメント	・Ａ ※Ｂ・Ｃ	・
・ＪＩＳ Ｒ 5212	シリカセメント	※Ａ・Ｂ・Ｃ	・
・ＪＩＳ Ｒ 5213	フライアッシュセメント	※Ａ・Ｂ・Ｃ	・

注）高炉セメントＢ種又はフライアッシュセメントＢ種の品質は次による。　(6.3.2)
・高炉セメントＢ種は、ベースセメントのアルカリ量は 0.75%以下とし、高炉スラグの混合比は40%以上、かつ、45%以下とする。
・フライアッシュセメントＢ種は、ベースセメントのアルカリ量は　０．７５％以下とし、フライアッシュの混合比は15%以上とする。
・上記のベースセメントのアルカリ量及び混合比は、セメント製造業者のセメント試験成績表の値により確認する。
・
（使用箇所　）
・ポルトランドセメントでの低アルカリ系の使用（・する　※しない　）
（使用箇所　）
骨材の種類
フェロニッケルスラグ細骨材，銅スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材　(6.3.3)
・使用する（　）　※使用しない
再生骨材Ｈの使用　・使用する（　）　※使用しない
骨材の品質
砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分　※Ａ・Ｂ
砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分　※Ａ・Ｂ

3．　暑中コンクリート

適用期間　・　7月　27日～　8月　16日　(6.8.1)
構造体強度補正値（Ｓ）　※６ N/mm²　・　N/mm²　(6.8.2)

4．　型枠

外部に面するコンクリートの打放し仕上げ（仕上塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む。）の打増し厚さ　(6.9.2)
※２０mm　・図示
床コンクリート直均し仕上げの打増し厚さ　・無　・１０mm
支柱の最小存置期間　(6.9.5)
床版下，はり下　※表6.9.3 による
・　日（はり下スパン　m以上のもの）
・打設階の下階２層分の支柱は残しておく

5．　試験

材料試験　※行う　⊙行わない　(6.10.2)
フレッシュコンクリートの試験用試料採取場所　(6.10.3)
※荷おろし場所　・工事現場の型枠に打ち込む場所で打ち込む直前とする。
・
コンクリートの強度試験　※行う　・行わない　(表6.10.2)(6.10.4)
※表6.10.2 による（※２８日は原則として公的機関
・原則として公的機関
・　）

6．　軽量コンクリート

常時土あるいは水に直接接する部分への使用　※使用しない　・使用する　(6.11.1)

7．　寒中コンクリート

適用期間　・　12月　11日～　3月　20日　(6.12.1)
初期養生を行う期間　※コンクリートの圧縮強度が ５N/mm²に達するまで　(6.12.5)
・

8．　マスコンクリート

適用箇所　・　(6.13.1)
セメントの種類　・中庸熱ポルトランドセメント　(6.13.2)
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
・普通ポルトランドセメントに下記の混和材を混合したもの
ＪＩＳ Ａ 6201（コンクリート用フライアッシュ)による
フライアッシュのⅠ種若しくはⅡ種又はＪＩＳ Ａ 6206（コンクリート用高炉スラグ微粉末）によるコンクリート用高炉スラグ微粉末の4000
・
混和剤の種類　※ＡＥ減水剤又は高性能AE減水剤　(6.13.2)
スランプ（cm）　・　※１５　・　(6.13.3)
調合強度を定める材令　※２８日　・　日

9．　無筋コンクリート

適用箇所　※防水層の保護コンクリート　(6.14.1)
※配管埋設用及びかさあげコンクリート
※捨コンクリート

捨コンクリート及び防水保護コンクリートの粗骨材の最大寸法（ mm ）　(6.14.2)
※２５mm 以下　・
設計基準強度（N/mm²）　※１８　・　・　(6.14.3)
スランプ（cm）　※１５　・１８　・　(6.14.3)
注）捨コンクリートの設計基準強度及びスランプは、４章 地業工事の項目５による。

10．　高い強度のコンクリート

混和剤　※ＡＥ減水剤標準形若しくは遅延形又は高性能ＡＥ減水剤標準形若しくは遅延形
・
型枠の存置期間　※6.9.5 による　・　(6.15.8)

11．　高炉セメントＢ種を用いる普通コンクリート（アルカリ骨材反応抑制対策に使用する場合）

適用箇所　・

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.03.15
図面名	建築工事特記仕様書＜構造関係（１）＞ 縮尺 1：－(A1) 1：－(A3)	担当	

1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司
1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司
1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司

図面番号 PS-001

7章　鉄 骨 工 事

1.　一般事項

鉄骨製作工場の加工能力等　(7.1.3)
※国土交通大臣認定（旧建設大臣）による構造方法等の認定を受けた製作工場のうち
Mグレード以上に分類される工場

施工管理技術者　(7.1.3)(7.1.4)
鉄骨製作管理技術者の適用　※適用する　・適用しない

2.　材料

鋼材の材質　※ＪＩＳ規格品（証明書付）　・規格適合品（寸法、強度保証）　(7.2.1)

種類の記号	使用箇所	備考
・ＳＮ４００Ａ		
・ＳＮ４００Ｂ		
・ＳＮ４００Ｃ		
・ＳＮ４９０Ｂ		
・ＳＮ４９０Ｃ		
・ＳＳ４００	Ｇ棟（体育館屋根梁，鉄骨階段）	
・ＳＭ４９０Ａ		
・ＳＭ４９０Ｂ		
・ＳＴＫ		
・ＳＴＫＮ		
・ＳＴＫＲ		
・ＢＣＲ２９５		材質　ＳＮ４００Ｂ
・ＢＣＰ２３５		材質　ＳＮ４００・Ｂ　・Ｃ
・ＢＣＰ３２５		材質　ＳＮ４９０・Ｂ　・Ｃ
・ＳＳＣ４００		

板厚方向引張力を受ける鋼板の試験　(7.2.10)
※行わない
・行う（ＪＩＳＧ０９０１　による等級　・Ｘ　・Ｙ　，適用部材　　）

高力ボルト　(7.2.2)
※トルシア形高力ボルトセットの種類
２種（Ｓ１０Ｔ、建築基準法に基づき認定を受けたもの）
（使用箇所　　）
・ＪＩＳ形高力ボルト（ＪＩＳ　Ｂ　１１８６）セットの種類２種（Ｆ１０Ｔ）
（使用箇所　　）
・溶融亜鉛めっき高力ボルトセットの種類
１種（Ｆ８Ｔ相当、建築基準法に基づき認定を受けたもの）
（使用箇所　　）

普通ボルトのボルト及びナット　※表7.2.3 による　・　(7.2.3)

アンカーボルト　(7.2.4)
アンカーボルトの材質　構造用　※ＳＮＲ４００Ｂ・ＳＳ４００　・
建方用　※ＳＳ４００　・　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格，ねじの等級の規格及び仕上げの程度
構造用　※ＪＳＳⅡ　１３－２００４「（社）日本鋼構造協会規格／建築構造用転造ねじアンカーボルト・ナット・座金のセット」
建方用　※表7.2.3 による

溶接材料　※表7.2.4 及び項目 5.溶接接合 による　・　(7.2.5)

ターンバックル（ＪＩＳ　Ａ　５５４０）　(7.2.6)
ターンバックル胴　※割枠式　・パイプ式
ターンバックルボルト　※羽子板ボルト　・アイボルト　・両ねじボルト

デッキプレート　(6.9.3)(7.2.7)

種別	材質	めっき付着量
・キーストンプレート	※ＳＤＰ１Ｔ　・ＳＤＰ１ＴＧ	・Ｚ１２　・
・デッキプレート	・ＳＤＰ１Ｔ　※ＳＤＰ１ＴＧ ・ＳＤＰ２	※Ｚ１２　・Ｚ２７
・合成スラブ用デッキプレート（建築基準法に基づき指定又は認定を受けたもの）	・ＳＤＰ１Ｔ ・ＳＤＰ２　※ＳＤＰ２Ｇ	※Ｚ１２　・Ｚ２７
・床型枠用鋼製デッキプレート	※ＳＧＣＣ　・ＳＧＨＣ	※Ｚ１２　・Ｚ２７

構造床として使用するデッキプレート　※建築基準法に基づき認定を受けたもの

柱底均しモルタル　(7.2.9)
※無収縮モルタル　仕様　※製造所の仕様による　・　　）
圧縮強度　・　（　45　Ｎ/mm²　以上　　）
・15.2.2［材料］による

3.　工作一般

鉄骨の製作精度　※ＪＡＳＳ６付則６鉄骨精度検査基準による　(7.3.3)
・

仮組　※行わない　・行う（適用箇所　　）(7.3.10)

4.　高力ボルト接合

すべり係数試験　※行わない　・行う（試験方法等　　）(7.4.2)

締付け
ナット回転法でボルト長さが呼び径の５倍を超える場合の回転量　・　(7.4.7)

5.　溶接接合

溶接施工管理技術者の資格（ＷＥＳ　８１０３）※１級　・２級　(7.6.2)

技量付加試験　・行う　（・工場溶接　・現場溶接）　(7.6.3)
・行わない（・工場溶接　・現場溶接）
※ＡＷ検定協議会の検定試験に合格した溶接技能者は、原則として技量付加試験を免除する
技量付加試験方法　※ＡＷ検定協議会仕様による
・ＪＩＳＺ３８０１　・ＪＩＳＺ３８４１

エンドタブ　・鋼製エンドタブ
エンドタブの切除　・行う（適用箇所　　）　(7.6.7)
・行わない

被覆アーク溶接棒　※低水素系（ＪＩＳ規格品）

ワイヤの使用区分

溶接条件		適用鋼材の引張強さ		
入熱（kJ/cm）	パス間温度（℃）	４００Ｎ/mm²級	４９０Ｎ/mm²級	Ｎ/mm²級
１５～２０	≦１５０	※ＹＧＷ－１１	※ＹＧＷ－１８	
１５～３０	≦２５０	※ＹＧＷ－１１	※ＹＧＷ－１８	
１５～４０	≦３５０	※ＹＧＷ－１８	※ＹＧＷ－１８	

※各鋼材のＢ及びＣ材の溶接においては、入熱（溶接電流・電圧，溶接速度），パス間温度の管理値及び検査（確認）方法等を施工計画書に明記する。
冷間成形角形鋼管の溶接入熱とパス間温度は、日本建築センター「２００８ 年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」（平成２０年２　月）第6.3　による。

完全溶込み部の超音波探傷試験　(7.6.11)
※行う　・行わない
原則として社内検査は １００%行う事とする
検査機関　※検査機関は（社）日本溶接協会認定業者による第三者機関とし、
発注は建築元請業者とし、次の各社との直発注、契約とする
（株）ジャスト、エンジニアリングサービス（株）　・

抜取率抜取方法	工場の溶接接合	※7.6.11 による（ＡＯＱＬ※４.０%・２.５%検査水準※第６・　） ・ ・完全溶込み部の　　% ・溶接工個々に対し　　% ・
	現場の溶接接合	※完全溶込み部の　　１００% ・7.6.11 による（ＡＯＱＬ※４.０%　・　） ・7.6.11

第三者機関　検査項目　※超音波探傷試験　・外観検査　・開先検査（各試験全数）
※柱・梁仕口部のダイアフラムとフランジのずれ，突合せ継手の食違い，アンダーカットの確認
検査回数　・　回／　節　・　２回

溶接施工試験　・行う（試験内容　　）
※行わない

溶接接合部の写真の提出　※行う　溶接前の開先形状（スケール添え）ならびに代表的な箇所及び特殊な箇所の溶接写真（位置は監理者の指示による）
・行わない

放射線透過試験及びエンドタブを用いたマクロ試験　※行わない　・行う　(7.6.11)

6.　スタッド溶接及びデッキプレート溶接

スタッド溶接工の技量付加試験　・行う ※行わない　(7.7.2)

横向き姿勢となるスタッド溶接
※スタッド協会「スタッド溶接技能者技術検定試験」のＢ級資格者とする

デッキプレートの溶接方法　※アークスポット溶接　・すみ肉溶接　(7.7.8)
・プラグ溶接　・焼抜栓溶接　・点溶接

合成スラブ用デッキプレートの溶接方法　※焼抜き栓溶接　・

7.　錆止め塗装

錆止め塗料及び素地ごしらえの種別　(表18.2.2)(表18.3.1)(表18.3.3)(7.8.3)

錆止め塗料				素地ごしらえ	適用箇所
塗料種別	規格番号	種類	塗り種別	種別	
Ａ種	※ＪＩＳＫ５６２５ ・ＪＩＳＫ５６７４ ・	※２種 ・１種 ・	※Ａ種 ※Ａ種 ・	※Ｂ種 ※Ｂ種 ・	※屋外 ・ ・
Ａ種	※ＪＩＳＫ５６２５ ・ＪＩＳＫ５６７４ ・	※２種 ※１種 ・	※Ａ種 ※Ａ種 ・	※Ｂ種 ※Ｂ種 ・	※屋内露出部分（見え掛り部分） ※屋内被覆部分（見え隠れ部分） ・
Ｂ種	※ＪＩＳＫ５６７４ ・	※２種 ・	※Ｂ種 ・	※Ｃ種 ・	・ ・

塗料種別Ａ種の素地ごしらえをＣ種とする場合は、監理者の承認を得る

塗り回数　※工場２回　・工場１回　現場１回　(18.3.3)

耐火被覆部の錆止め塗装　・行う（範囲　　）(7.8.3)
（錆止め塗装の種別 ※Ａ種　・Ｂ種　）
※行わない

ＳＲＣ造の鋼製スリーブの内面　・Ａ種 ※Ｂ種　(7.8.3)

8.　工事現場施工

建方等の精度　※ＪＡＳＳ６付則 6鉄骨精度検査基準付表 5による　(7.10.2)
・

アンカーボルト　・建方用　・構造用　(7.10.3)

アンカーボルトの保持及び埋込みの工法　(表7.10.1)(7.10.3)

種別	使用箇所
※Ａ種	Ｇ棟（体育館屋根取付部）
・Ｂ種	
・Ｃ種	

柱底均しモルタル工法　(表7.10.2)(7.10.3)

種別	使用箇所
※Ａ種	Ｇ棟（体育館屋根取付部）
・Ｂ種	

9.　溶融亜鉛めっき工法

亜鉛めっきの種別　(表14.2.2)(7.12.3)(14.2.3)

材料		種別	適用箇所
形鋼、鋼板類	ｔ≧４.５mm	※Ａ種・	屋上鉄骨階段
	３.２≦ｔ＜４.５mm	※Ｂ種・	
	１.６≦ｔ＜３.２mm	※Ｃ種・	
普通ボルト,ナット類,アンカーボルト部		※Ｃ種・	

溶融亜鉛めっき作業は ＪＩＳＨ ８６４１（溶融亜鉛めっき）による ＪＩＳ表示認定　(7.12.3)
工場で行う
めっき作業は ＪＩＳＨ ９１２４（溶融亜鉛めっき作業指針）により、めっきの品質等は ＪＩＳＨ ８６４１（溶融亜鉛めっき）による
酸化物の除去方法　※酸洗い　・ブラスト法
※錆物の場合はブラスト法による

溶融亜鉛めっき高力ボルト接合部の摩擦面の処理　(7.12.4)
※ブラスト処理　（すべり耐力試験　・行う　※行わない）
・りん酸塩処理　（すべり耐力試験　※行う）

10.　食い違い・ずれ及びアンダーカットの検査・補強

※突合せ継手の食い違い、仕口のずれ及びアンダーカットの検査方法 及び補修補強方法は、独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・

11.　設備関係

・エレベーターの駆動装置、制御盤等は、構造体に安全に緊結されていること。
・建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
・煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを　5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
・設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
・特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
・設備機器の架台及び基礎については監理者の承認を得ること。
・床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合は、スラブ厚さの　１／３以下とし、管の間隔を管径の３倍以上かつ　5cm以上を原則とする。

建 築 工 事 指 定 業 者 及 び メ ー カ ー リ ス ト

工事区分	材料・施工部門	製造所名及び施工業者名
地業工事	既製コンクリート杭	
	場所打コンクリート杭	（社）日本基礎建設協会加盟の業者
鉄筋工事	鉄筋	ＪＩＳ規格品
	ガス圧接	（社）「日本鉄筋継手協会」加盟の優良圧接業者
	継手部検査	（社）日本鉄筋継手協会加盟の優良鉄筋継手検査会社
コンクリート工事	セメント	ＪＩＳ規格品
	防水材	ＪＩＳ規格品
	流動化剤	ＪＡＳＳ　５Ｔ－４０２適合品
	高性能ＡＥ減水剤	ＪＩＳ規格品
鉄骨工事	鋼材	ＪＩＳ規格品

1　適用範囲

（ａ本配筋規準図は、鉄筋コンクリート造における鉄筋の加工，組立の一般的な基準とする。
（ｂ本配筋規準図以外については設計図書及び監理者の指示による。
（ｃ本配筋規準図で「図示」とあるのは、設計図面記載事項を意味する。
（ｄ本配筋規準図で「特記」とあるのは、「建築工事特記仕様書　＜構造関係＞」の記載事項を意味する。
（ｅ本配筋規準図は、設計図面の一部とする。

２－１　鉄筋の断面表示

異形	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
記号	・	×	ø	∘	○	⊙	⊠	◎	⊗	ø

２－２　加工及び組立（一般事項）

（ａ鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
（ｂ異形鉄筋の径（ｄ）は、呼び名に用いた数値とする。
（ｃ有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋を使用してはならない。
（ｄコイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
（ｅ鉄筋には、点付け溶接，アークストライク等を行ってはならない。

２－３　加　工

（ａ鉄筋の切断は、シャーカッター又はのこによって行う。ただし、やむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
（ｂ異形鉄筋の末端部のフックは、２－７（フック）による。
（ｃ鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、２－８（鉄筋の折曲げ）による。

２－４　組　立

（ａ鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径０．８mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー，吊金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に、防錆処理を行ったものとする。
（ｂ前に打ち込まれたコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋を急に曲げることなく、できるだけ長い距離で修正する。

２－５　継　手

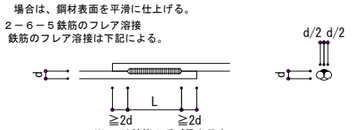
（ａ鉄筋の継手は、重ね継手，ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建設省告示１４６３号に適合したもの）とし、適用は特記による。
（ｂ鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、標仕７．６．５〔部材の組立〕（ｄ）及び７．６．７〔溶接施工〕（ａ）による。又、溶接技能者は、標仕７．６．３〔技能資格者〕に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。
（ｃ重ね継手及び定着の長さは、２－９（重ね継手及び定着長さ）による。
（ｄ隣り合う継手の位置は、２－１０（隣り合う継手の位置）による。
（ｅ溶接金網、スパイラル筋の継手及び定着は、それぞれ２－１１（溶接金網の継手及び定着）、２－１２（スパイラル筋の継手及び定着）による。

２－６　溶　接

２－６－１溶接材料の種類
溶接棒，ワイヤ及びフラックスの種類は下表により、母材の種類，寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

種　類	規格番号	規　格　名　称
被覆アーク溶接棒	ＪＩＳ Ｚ ３２１１ ＪＩＳ Ｚ ３２１２	軟鋼用被覆アーク溶接棒 高張力鋼用被覆アーク溶接棒
セルフシールドアーク溶接用鋼ワイヤ	ＪＩＳ Ｚ ３３１３	軟鋼，高張力鋼及び低温鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

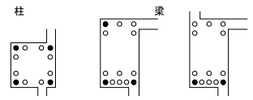
２－６－２材料の取扱い
溶接材料は、丁寧に取扱い、被覆材のはく脱，汚損，変質，吸湿，著しい錆のあるもの等は使用しない。吸湿の疑いがあるものは、その種類に応じた乾燥条件で乾燥する。
２－６－３溶接技能者
（ａ溶接技能者は、工事に相応した次に示す試験等により（社）日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。
（１）炭素鋼の手溶接の場合は、ＪＩＳ Ｚ ３８０１(手溶接技術検定における試験方法及び判定基準)
（２）炭素鋼の半自動溶接の場合は、ＪＩＳ Ｚ ３８４１(半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)
（３）組立溶接の場合は、上記（１）又は（２）のいずれかの試験。
（ｂ溶接技能者の技量に疑いを生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し、監理者の承認を受ける。
２－６－４溶接施工
（ａ溶接機とその付属用具は、溶接条件に適した構造及び機能を有し、安全に良好な溶接が行えるものとする。
（ｂ溶接部は、有害な欠陥のないもので、表面は、できるだけ滑らかなものとする。
（ｃ溶接順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定める。
（ｄ材質、材厚、気温などを考慮のうえ、必要に応じて適切な溶接条件となるよう予熱を行う。
（ｅ溶接に支障となるスラグ及び溶接完了後のスラグは入念に除去する。
（ｆ著しいスパッタ及び塗装下地となる部分のスパッタは、除去する。
（ｇアークストライクは行わない。ただし、アークストライクを起こした場合は、鋼材表面を平滑に仕上げる。
２－６－５鉄筋のフレア溶接
鉄筋のフレア溶接は下記による。



※　ｄは鉄筋の呼び径を示す。

２－７　フック

異形鉄筋の末端部には、下記の場合にフックをつける。
（１）柱の四隅にある主筋（●）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
（２）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（●）にある場合。
ただし、基礎梁を除く。
（３）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
（４）杭基礎のベース筋。
（５）帯筋，あばら筋及び幅止め筋。



２－８　鉄筋の折曲げ

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は下記による。
末端部

折曲げ角度	折曲げ図	すべてのコンクリート 折曲げ内法直径（D） SD295A SD295B SD345 D16以下	SD295A SD295B SD345 D19～D38	SD390 D10～D38	使用箇所
180°	4d以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	柱・梁の主筋 杭基礎のベース筋
135°	6d以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	あばら筋，帯筋，スパイラル筋
90°	8d以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	T形及びL形の梁のあばら筋
135°及び90°幅止め筋	4d以上 / 4d以上	3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	90° 135° 幅止め筋

中間部

折曲げ角度	折曲げ図	すべてのコンクリート 折曲げ内法直径（D） SD295A SD295B SD345 SD390（注） D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90°以下		3ｄ以上	4ｄ以上	—	あばら筋，帯筋，スパイラル筋
		4ｄ以上（5ｄ以上）	6ｄ以上（6ｄ以上）	8ｄ以上（8ｄ以上）	その他の鉄筋

（注）SD390は、使用箇所が、その他の鉄筋の場合に、（　）内を適用する。

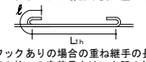
２－９　重ね継手及び定着の長さ

２－９－１重ね継手及び定着の長さ
重ね継手及び定着の長さは下表による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
また、下表はコンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）が21N/mm²以上36 N/mm²以下の場合に適用する。
Ｆｃが18N/mm²の場合の、L_1 及びL_2 は、下表のＦｃが21の場合の値に５ｄを加えたものとする。

重ね継手の長さと定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	フックなし L_1	L_2	L_3 小梁	L_3 スラブ	フックあり L_{1h}	L_{2h}	L_{3h} 小梁	L_{3h} スラブ
SD295A SD295B	21	40ｄ	35ｄ	20ｄ	10ｄかつ50mm以上	30ｄ	25ｄ	10ｄ	—
	24・27	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
	30・33・36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
SD345	21	45ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24・27	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	30・33・36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
SD390	21	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	24・27	45ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	30・33・36	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		

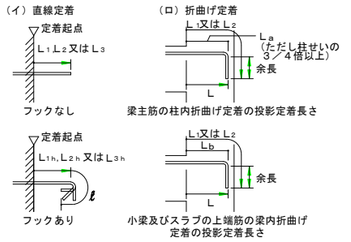
（注）１．L_1，L_{1h}：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手長さとし、下記２．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
２．L_2，L_{2h}：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
３．L_3　：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及び、これを受ける小梁は除く。
４．L_{3h}　：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
５．フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分 ℓ を含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
６．軽量コンクリートの場合は表の値に５ｄを加えたものとする。



フックありの場合の重ね継手の長さ

７．梁主筋の柱への定着長さは、上記の他「建築工事特記仕様書（１０）＜構造関係（１）＞５．２梁主筋の柱への定着」を満足する事。

２－９－２定着の方法
定着の方法は下図による。
なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さＬが、フックありの定着の長さを確保できない場合は、全長を表 重ね継手の長さと定着長さに示す直線定着長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下表 投影定着長さに示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの３／４倍以上）をのみ込ませる。



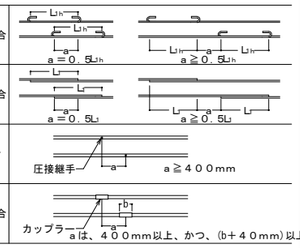
投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Fc）(N/mm²)	La	Lb
SD295A SD295B	21	15ｄ	15ｄ
	24・27		
	30・33・36		
SD345	21	20ｄ	20ｄ
	24・27		15ｄ
	30・33・36	15ｄ	
SD390	21	20ｄ	20ｄ
	24・27		
	30・33・36		15ｄ

（注）１．La：梁主筋の柱内の折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。）
２．Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持小梁及び片持スラブを除く。）
３．軽量コンクリートの場合は表の値に５ｄを加えたものとする。

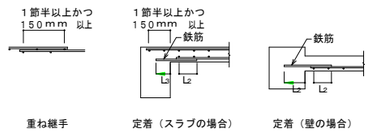
２－１０　隣り合う継手の位置

隣合う継手の位置は下表による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下は除く。なお、先組み工法等で柱，梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

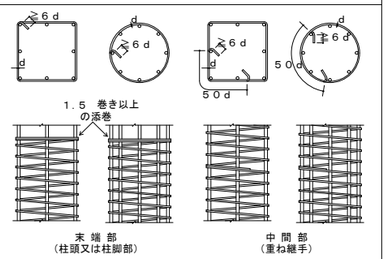


２－１１　溶接金網の継手及び定着

溶接金網の継手及び定着は下図による。



２－１２　スパイラル筋の継手及び定着



２－１３　鉄筋のかぶり厚さ

（ａ鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ下表による。ただし、柱及び梁の主筋に Ｄ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを、径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。
（ｂ柱，梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ

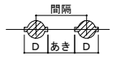
構造部分の種別				鉄筋の最小かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	スラブ，耐力壁	壁以外の壁	仕上げあり	２０
			仕上げなし	３０
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	３０
			仕上げなし	３０
		屋外	仕上げあり	３０
			仕上げなし	４０
	擁壁，耐圧スラブ			４０
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*４０（５０）
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*６０（７０）
煙突等高熱を受ける部分				６０

（注）１．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は（　）内の数値による。
２．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材，吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
３．スラブ，梁，基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
４．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
５．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。

（ｃ鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（ｄ貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、（ｃ）による。

２－１４　鉄筋相互のあき

（ａ鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
（１）粗骨材の最大寸法の１．２５倍
（２）２５mm
（３）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値ｄ）の１．５倍

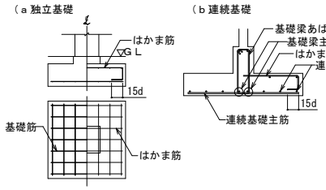


（注）
Ｄ：鉄筋の最大外径

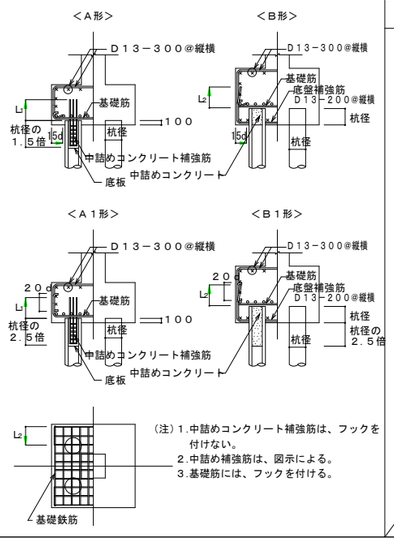
（ｂ鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（ａ）による。

３－１　基礎の配筋及び杭頭補強の方法

３－１－１直接基礎
直接基礎の場合の配筋は下図による。はかま筋の有無は図示による。

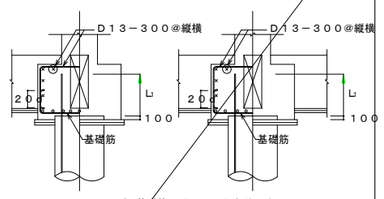


３－１－２既製コンクリート杭基礎
既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、下図のＡ形，Ｂ形又は、Ａ１形又はＢ１形とし、適用は特記による。なお、中詰めコンクリートは基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。

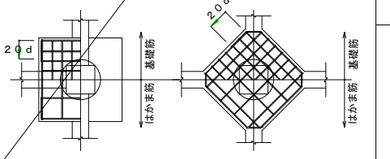


（注）１．中詰めコンクリート補強筋は、フックを付けない。
２．中詰め補強筋は、図示による。
３．基礎筋には、フックを付ける。

３－１－３場所打ち杭基礎
場所打ち杭基礎の配筋は、下図による。

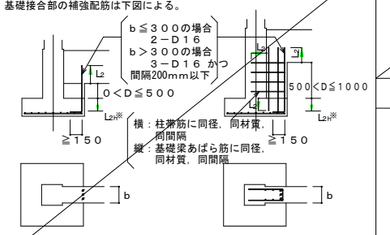


（注）基礎筋には、フックを付ける。



３－２　基礎接合部の補強

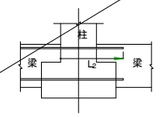
基礎接合部の補強配筋は下図による。



（注）※　L_{2h} を確保できない場合は、２－９－２（定着の方法）によることができる。

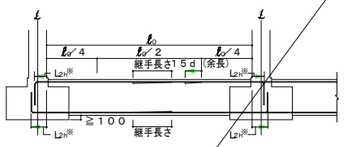
４－１　基礎梁主筋の継手及び定着（一般事項）

（ａ梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
（ｂ梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。

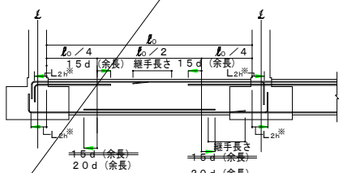


４－２　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

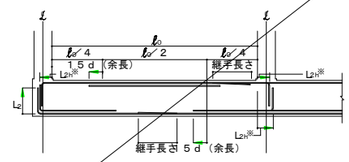
（ａ）基礎梁にスラブがつかない独立基礎
基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合は下図による。



（ｂ）基礎梁にスラブがつく独立基礎
基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合は下図による。
ただし、耐圧スラブがつく場合は、（ｃ）による。



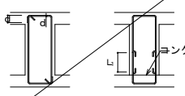
（ｃ）連続基礎及びべた基礎
連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。



（注）１．上図にない事項は、６［大梁］による。
２．▭▭▭ 印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は柱内定着の場合を示す。
※　L_{2h} を確保できない場合は、２－９－２(定着の方法）によることができる。

４－３　基礎梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

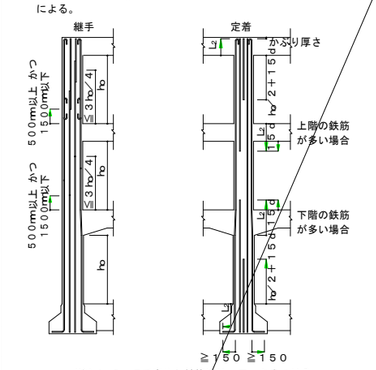
４－３－１あばら筋
（ａあばら筋の径及び間隔は図示による。
（ｂあばら筋組立ての形及びフックの位置は、６－６あばら筋組立ての形及びフックの位置）による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが１．５m以上の場合は下図によることができる。



４－３－２あばら筋の割付け
あばら筋の割り付けは、６－６あばら筋の割付け）による。
４－３－３腹筋及び幅止め筋
腹筋及び幅止め筋は、６－３あばら筋、腹筋及び幅止め筋（一般事項））及び６－５（腹筋及び幅止め筋）による。ただし、梁せいが　１．５mを超える場合は特記による。

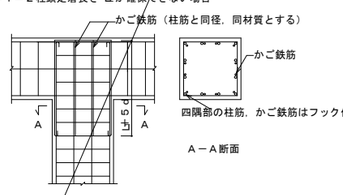
５－１　柱主筋の継手、定着及び余長

５－１－１一般事項
（ａ継手中心位置は、梁上端から５００mm 以上,１５００mm　以下，かつ３ho／４(hoは柱の内法高さ）以下とする。
（ｂ重ね継手長さは L_1とし、定着及び余長は下図による。ただし、柱頭定着長さ L_2が確保できない場合は５－１－２(柱頭定着長さ L_2が確保できない場合）による。

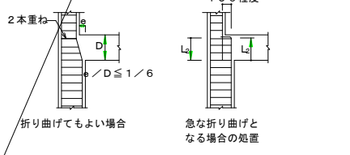


（注）１．２－５で定めた鉄筋には、フックをつける。
２．隣合う継手の位置は ２－１０による。
３．継手，定着は、すべての階に適用する。

５－１－２柱頭定着長さ L_2が確保できない場合



５－１－３柱上下の断面寸法が異なる場合

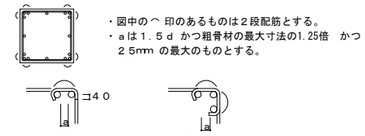


付記	令和4年3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正
	鶴岡市建設部建築課					

総・新穂・石川 設計共同企業体

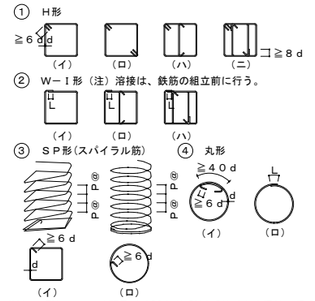
工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
図面名	鉄筋コンクリート造配筋規準図（１） 縮尺 1：－（A1） 1：－（A3）	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-003
				1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

5－1－4 柱2段配筋
2段筋のスペーサーは下図による。



5－2 帯筋

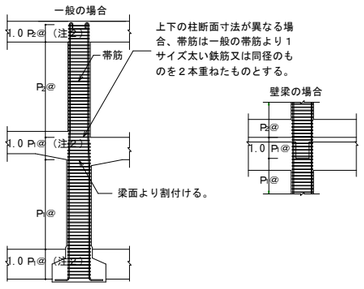
（a 帯筋の種類及び間隔は、図示による。
（b 帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。
（1）H形とする。
（2）H形の135曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
（3）溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は 5d以上、片面フレア溶接の場合は 10d 以上とする。フレア溶接要領は2－6（溶接）による。



（注）SP形において柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻を行う。
（c フック及び継手の位置は、交互とする。

5－3 帯筋の割付け

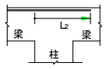
帯筋の割り付けは図示による。図示がなければ、下図による。



（注）1．上図にない事項については、一般の場合に同じ。
2．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を 1.0P1（P2 ）@を超え1.5P1（P2 ）@以内とする場合の範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1@，P2@は図示された帯筋の間隔を示す。

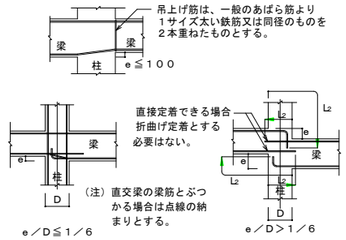
6－1 大梁主筋の継手及び定着（一般事項）

（a 継手中心位置は、下記による。
上端筋：中央 ℓo／2以内
下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、ℓo／4 を加えた範囲以内
（b 継手長さは L とし、定着長さ及び余長は、6－2（大梁筋の継手、定着及び余長）による。
（c 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。

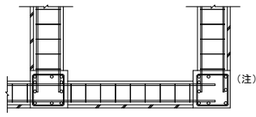


（d 梁主筋を柱内に定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、2－9（重ね継手及び定着の長さ）による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。
梁の柱への定着長さは、建築工事特記仕様書（10）＜構造関係（1）＞5．2 による。

（e 梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ、1：4とする。
（f 段違い梁は、監理者の承認を受けて、下図によることができる。

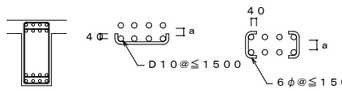


（g 柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。



（注）梁の主筋は柱の主筋の内側に配筋する。
この場合、スターラップの幅を狭めて加工する。

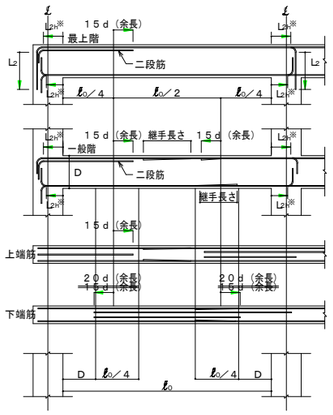
（h）2段筋のスペーサーは下図による。



・aは1.5dかつ粗骨材の最大寸法の 1.25倍かつ25mmの最大のものとする。

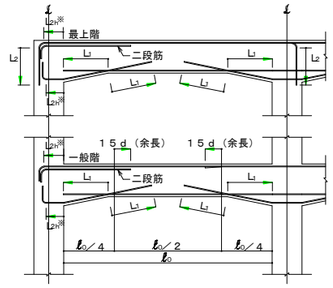
6－2 大梁筋の継手、定着及び余長

6－2－1 ハンチのない場合
ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は下図による。



（注）1．2－5（継手）で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．――― 印は、継手及び余長を示す。
3．破線は柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋のみ込み長さ（柱せいの 3／4 倍以上）
※ L2h を確保できない場合は、2－9－2 （定着の方法）によることができる。

6－2－2 ハンチのある場合
ハンチのある場合の定着及び余長は下図による。



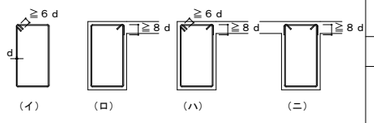
（注）1．2－5(継手）で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．――― 印は、継手及び余長を示す。
3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、――― のように引き通すことができる。
4．破線は柱内定着を示す。
5．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの 3／4 倍以上）
※ L2h を確保できない場合は、2－9－2(定着の方法）によることができる。

6－3 あばら筋、腹筋及び幅止め筋（一般事項）

（a あばら筋の種類，径及び間隔は、図示による。
（b 幅止め筋及び受け用幅止め筋は D10－1000@程度とする。
（c 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150 mm程度とする。
（d 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ L2とする。

6－4 あばら筋組立ての形及びフックの位置

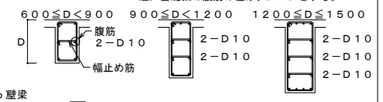
（a）形は、下図（イ）とする。ただし、L 形梁の場合は（ロ）又は（ハ）、T 形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。



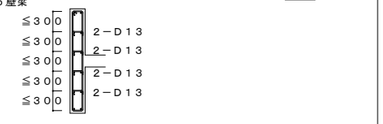
（b）フックの位置は、（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合はL形ではスラブのつく側、T形では交互とする。
なお、（ハ）の場合はスラブのつく側を 90°折曲げとする。

6－5 腹筋及び幅止め筋

（a）一般の梁
注）基礎梁の腹筋の径は、D13 とする。

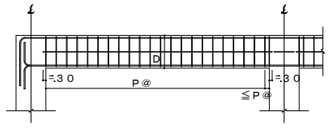


（b 壁梁

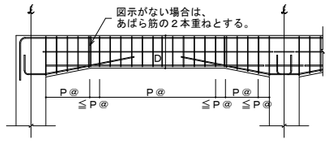


6－6 あばら筋の割付け

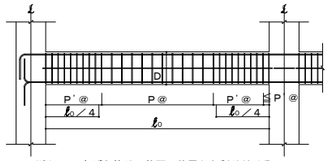
（a 間隔が一様でハンチのない場合



（b 間隔が一様でハンチのある場合



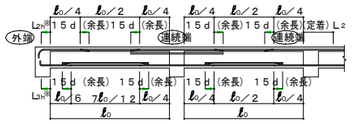
（c 梁の端部で間隔の異なる場合



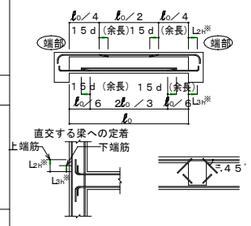
（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@，P'@は、図示されたあばら筋の間隔を示す。

7－1 小梁主筋の継手、定着及び余長

7－1－1 連続小梁
連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。



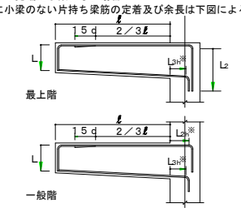
7－1－2 単独小梁
単スパンの小梁の継手、定着及び余長は下図による。



（注）1．――― 印は、余長位置を示す。
2．上図にない事項は、4［基礎梁］及び 6［大梁］による。
※ L2h、L2h を確保できない場合は、2－9－2(定着の方法）によることができる。

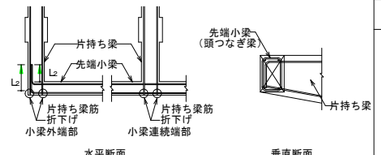
7－2 片持ち梁主筋の定着及び余長

7－2－1 先端に小梁のない場合
先端に小梁のない片持ち梁筋の定着及び余長は下図による。



（注）1．上図にない事項は、6［大梁］による。
2．――― 印は、余長を示す。
3．先端の折曲げの長さLは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
※ L2h、L2h を確保できない場合は、2－9－2(定着の方法）によることができる。

7－2－2 先端に小梁のある場合
先端に小梁のある片持ち梁筋の定着は下図による。

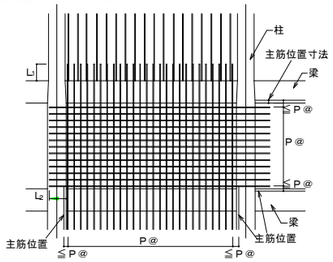


（注）1．上図にない事項は、上記 7－2－1(先端に小梁のない場合）による。
2．先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
3．先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

8－1 壁筋（一般事項）

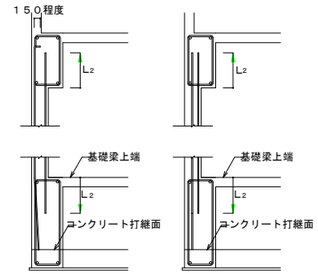
（a 壁配筋の重ね継手は L1、定着長さは L2 とする。
（b 重ね継手及び定着の長さがとれない場合は、監理者の承認を受けて、フレア溶接とすることができる。フレア溶接長さは、両面フレア溶接の場合は 5d 以上、片面フレア溶接の場合は 10d 以上とする。
フレア溶接要領は 2－6 （溶接）による。
（c 幅止め筋は、縦，横とも D10－1000@程度とする。

（d）一般壁筋の配筋は、下図による。



（注）P@は、図示された壁筋の間隔を示す。

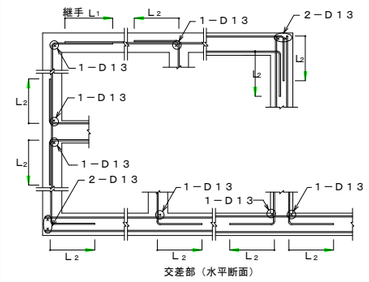
（e 地下外壁の壁配筋の定着は、下図による。

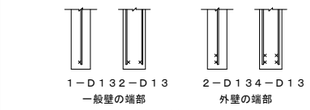


（注）地下外壁の外側鉄筋は、耐圧スラブ上端まで下げる。

8－2 壁の交差部および端部の配筋

壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

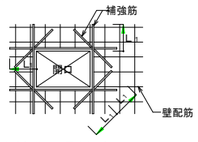




（垂直及び水平断面を示す。）

8－3 壁開口部の補強

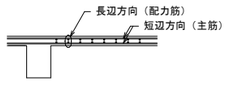
（a 壁開口部の補強は、図示による。
（b 壁開口部の補強の定着長さは、下図による。



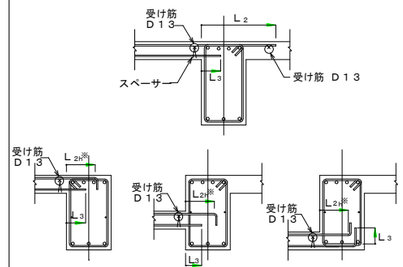
（c 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が 300mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9－1 スラブの配筋（一般事項）

（a スラブの配筋は図示による。
（b スラブの基準配筋図は下図による。



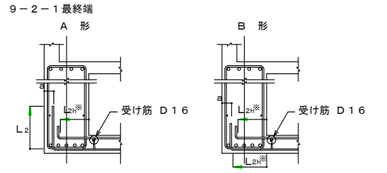
（c 配筋は中央から割付け、端部は定められた間隔以下とする。
（d 重ね継手長さは、L1 とする。
（e 定着長さ及び受け筋は、下図（上段）による。ただし、引き通すことができない場合は、下図（下段）により、梁内に定着する。
なお、片持ちスラブの場合は 9－5による。



※ L2h を確保できない場合は、2－9－2（定着の方法）によることができる。

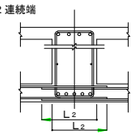
9－2 耐圧スラブの配筋

9－2－1 最終端



（注）1．A形又はB形の適用は、図示による。図示がなければ、
ベタ基礎はA形とする。
ベタ基礎以外の耐圧スラブはB形とする。
2．a は150mm 程度とする。
3．基礎梁の幅が大きく、下端筋が直線定着となる場合でも、15d 以上のテールを設ける。
※ L2h を確保できない場合は、2－9－2（定着の方法）によることができる。

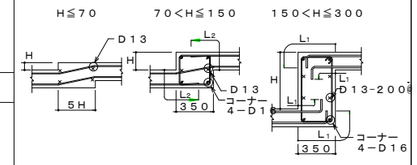
9－2－2 連続端



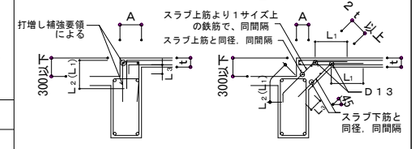
（注）1．上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。下端筋は連続して引き通すか、又は基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。
2．基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の1／2 以上は連続させる。

9－3 段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、下図による。



スラブ端部に段差がある場合の補強は、下図による。



付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

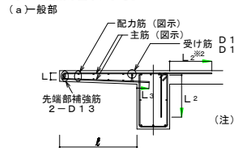
総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
図面名	鉄筋コンクリート造配筋規準図（2） 縮尺 1：－（A1） 1：－（A3）	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	PS-004

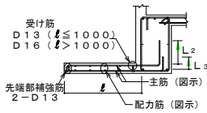
９－４　片持ちスラブの配筋

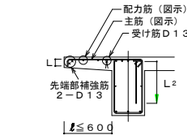
スラブの配筋は図示による。

（ａ）一般部

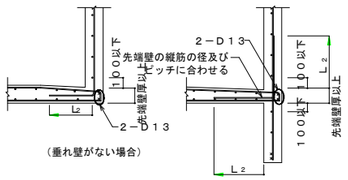


（注）１．先端の折曲げ長さＬは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
２．スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。（※２）
３．主筋径はＤ１６ 以下とする。



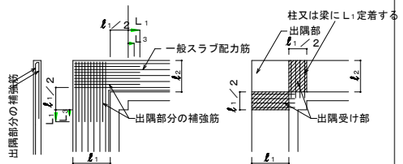


（ｂ先端に壁が付く場合



（垂れ壁がない場合）　（垂れ壁がある場合）

（ｃ出隅部
（１）補強の配筋は図示による。
配筋方法は、下図による。
（２）出隅受け部（下図のハッチ部分）の配筋は図示による。



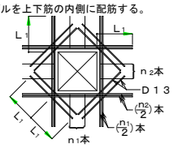
（注）ℓ₁≧ ℓ₂とする。　（注）１．ℓ₁≧ ℓ₂とする。
２．出隅受け部配筋は柱又は梁にＬ₁定着する。

（出隅部分補強配筋）　（出隅受け部配筋）

９－５　スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。

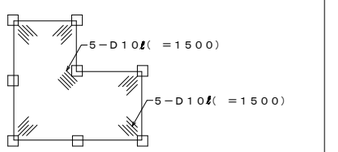
（ａ）スラブ開口の最大径が ７００ ㎜ 以下の場合は、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に ２－Ｄ１３ℓ（ Ｌ=２ ） シングルを上下筋の内側に配筋する。



（ｂ）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

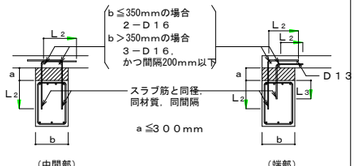
９－６　屋根スラブの補強筋

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



９－７　土間スラブの打継ぎ補強

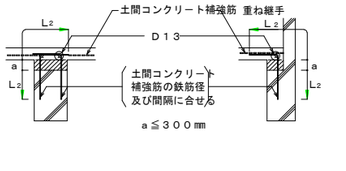
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土（捨てコンクリート等の場合を含む）に接する構造スラブをいう。



（中間部）　（端部）

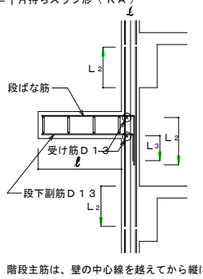
９－８　土間コンクリートの補強筋

土間コンクリートの補強筋は図示による。
なお、基礎梁との接合部は下図による。

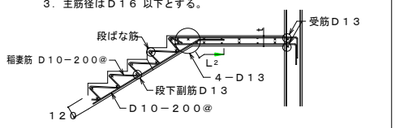


１０－１　階段の配筋

階段の配筋は図示による。図示がなければ下表による。
階段の基準配筋は下図による。
１０－１－１片持ちスラブ形（ＫＡ）



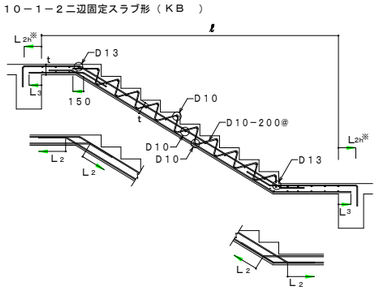
（注）１．階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
２．踊場主筋，配力筋の継手及び定着の長さは、９－１ による。
３．主筋径はＤ１６ 以下とする。



階段配筋リスト（片持ちスラブ形）

設計条件：積載荷重　3500 N/m²　片持ち先端、手摺自重考慮				
符　号	段ばな筋	踊　場		スパン ℓ （ ㎜ ）
		スラブ厚さ（ｔ）	主筋・配力筋（上，下端筋）	
ＫＡ１１	２－Ｄ１３	１５０	Ｄ１０，Ｄ１３－２００@	ℓ ≦１５００
ＫＡ１２	２－Ｄ１６	１５０	Ｄ１３－２００@	１５００＜ℓ≦２０００

１０－１－２二辺固定スラブ形（ＫＢ ）



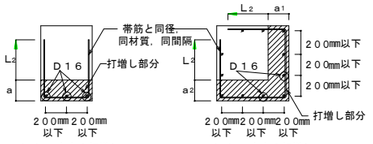
※ Ｌ₂ₕ を確保できない場合は、２－９－２ （定着の方法）によることができる。

階段配筋リスト（二辺固定床版形）

設計条件：積載荷重　3500 N/m²　手摺自重無視				
符　号	床版厚（ｔ）	主　筋 上，下端筋	配力筋（踊場） 上，下端筋	スパン ℓ （ ㎜ ）
ＫＢ１１	１５０	Ｄ１６－１２５@	Ｄ１３－２００@	４０００＜ℓ≦５０００
ＫＢ１２	２００	Ｄ１６－１００@	Ｄ１３－２００@	５０００＜ℓ≦６０００

１１－１　柱の打増し補強

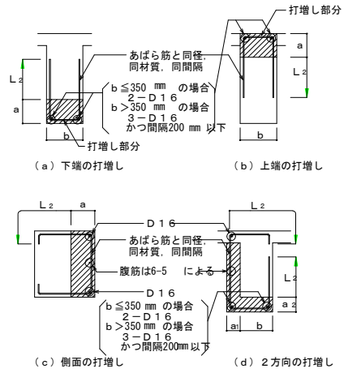
柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70㎜ 以上 200㎜ 以下の場合に適用する。200 ㎜ を超える場合は、図示による。
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（ａ）１方向の打増し　（ｂ）２方向の打増し
（７０㎜ ≦ａ₁，a₂≦２００㎜ の場合）

１１－２　梁の打増し補強

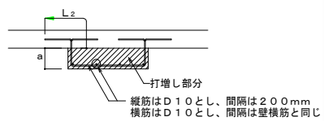
梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70㎜ 以上200㎜ 以下の場合に適用する。200 ㎜ を超える場合は、図示による。
なお、小梁，耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



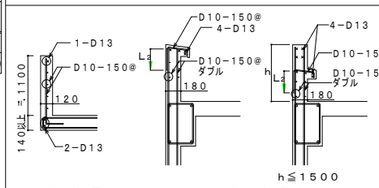
（ａ）下端の打増し　（ｂ）上端の打増し
（ｃ）側面の打増し　（ｄ）２方向の打増し
（７０㎜ ≦ａ₁，a₂ ≦２００㎜ の場合）

１１－３　壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さａが50mm以上200mm以下に適用する。200mmを超える場合は図示による。



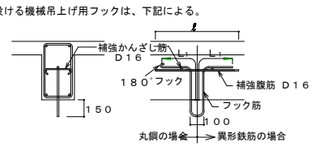
１２－１　手すり及びパラペットの配筋



手すりの配筋　パラペットの配筋

１２－２　機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、下記による。



丸鋼の場合　異形鉄筋の場合

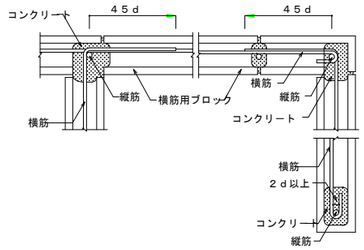
種　別	Ａ　種	Ｂ　種	Ｃ　種
部　位			
フック筋	φ２５又はＤ２５	φ２２又はＤ２２	φ１９又はＤ１９
曲げ内法直径（mm）	１００		
補強かんざし筋	２－Ｄ１６		
補強腹筋（mm）	Ｄ１６，ℓ=９００	Ｄ１６，ℓ=７５０	Ｄ１６，ℓ=６００
吊上げ荷重Ｗ（ kN ）（ ton ）	５０≧Ｗ＞３０ ５≧Ｗ＞３	３０≧Ｗ＞１０ ３≧Ｗ＞１	１０≧Ｗ １≧Ｗ

（注）丸鋼の材質は、ＳＳ４００とする。

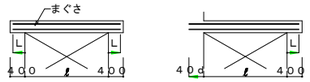
１３－１　補強コンクリートブロック造

１３－１－１一般事項
下記に定める以外の事項は １～ １２による。
（ａ壁縦筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、がりょう、基礎等に定着する。なお、壁縦筋に継手を設けてはならない。
（ｂ壁横筋は、壁端部縦筋に １８０フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
（ｃ壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックフェイスシェルは、かぶり厚さに含まない。
（ｄ）壁鉄筋の重ね継手長さは４５ｄ とし、定着長さは４０ｄ とする。

１３－１－２各部の配筋
（ａ各部の配筋は、図示による。
（ｂ図示がなければ交差部，端部（開口部）の配筋は、下図による。

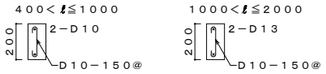


（ｃまぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋は図示による。ただし、図示がなければ下図による。
なお、既製まぐさを使用する場合は、監理者の承認を受ける。
（ｉ一般の場合　（ii 開口部が鉄筋コンクリートの柱又は壁に接する場合



（注）Ｌはかぶり厚さを除いた長さを示す。

まぐさの配筋



（注）まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

１４－１　コンクリートブロック帳壁

１４－１－１一般事項
（ａ主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。
なお、主筋には継手を設けてはならない。ただし、両面5ｄ以上又は片面１０ｄ 以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
（ｂ壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着させるか、直交壁の横筋に重ね継手とする。
（ｃ壁鉄筋の重ね継手長さは 40ｄ とし、定着長さは下記による。
（１）帳壁配力筋の構造体部分への定着長さは25ｄとする。
ただし、監理者の承認を受けて、あと施工アンカーとすることができる。
（２）（１）以外の定着長さは 40ｄ とする。
（ｄブロック積みのスパン及び高さは、下記による。

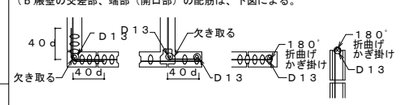
ブロック厚さ	スパン及び高さ
１００	２５００
１５０	３５００

１４－１－２各部の配筋
（ａ壁の配筋は図示による。ただし、図示がなければ下表による。

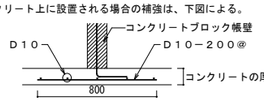
壁の配筋

縦　筋	横　筋	開口補強筋（縦横筋）	端部補強筋
Ｄ１０－４００@	Ｄ１０－４００@	１－Ｄ１３	１－Ｄ１３

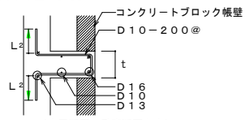
（ｂ帳壁の交差部、端部（開口部）の配筋は、下図による。



（ｃ帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



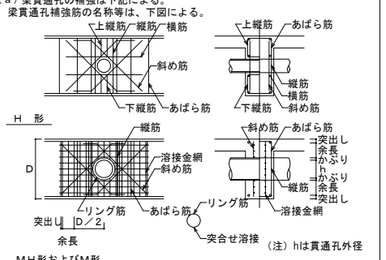
（ｄコンクリートブロック帳壁との取合い
（１）控壁の配置は、図示による。
（２）配筋は、下図による。



（水平断面、垂直断面とも）

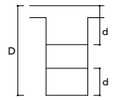
１５－１　梁貫通孔の補強（一般事項）

注）大臣認定による既製品を使用する場合は、係員と協議が必要。
適用条件は全て認定内容による。
（ａ）梁貫通孔の補強は下記による。
梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。



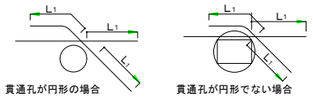
（注）hは貫通孔外径

（ｂ孔の径は、梁せいの１／３ 以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
（ｃ孔の上下方向の位置の限度は、下図による。



５００≦Ｄ＜７００　ｄ≧１７５
７００≦Ｄ＜９００　ｄ≧２００
９００≦Ｄ　ｄ≧２５０

（ｄ孔の中心位置の限度は、柱および直交する梁（小梁）の面から原則として 1.2Ｄ（Ｄは、梁せい）以上離す。
（ｅ孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の３倍以上とする。
（ｆ縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
（ｇ補強筋は主筋の内側とする。やむを得ない場合は監理者の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは下図による。



貫通孔が円形の場合　貫通孔が円形でない場合

（ｈ孔の径が梁せいの1/10　以下，かつ，100mm以下のものは、補強を省略することができる。
（ｉ溶接金網の余長は１格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
（ｊ溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。
（ｋ溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

１５－２　補強の形式と種類

補強形式は下表により、配筋種別は図示による。

１５－２－１Ｈ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上下縦筋	配　筋　図
Ｈ１	２－２－Ｄ１３	なし	なし	なし	
Ｈ２		２－２－Ｄ１３			
Ｈ３	４－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	
Ｈ４	４－２－Ｄ１６				
Ｈ５	４－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	３－２－Ｄ１３	
Ｈ６	４－２－Ｄ１９				
Ｈ７	４－２－Ｄ２２				

（注）── は一般部分のあばら筋を示す。

１５－２－２Ｍ形配筋

配筋種別	縦　筋	溶接金網	リング	配　筋　図
Ｍ１	２－２－Ｄ１３	なし	なし	
Ｍ２	４－２－Ｄ１３			
Ｍ３	４－２－Ｄ１３	２－６φ－１００@	１３φ	
Ｍ４	６－２－Ｄ１３			

（注）── は一般部分のあばら筋を示す。

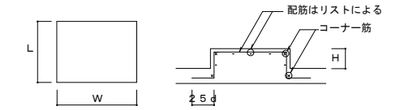
１５－２－３ＭＨ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	溶接金網	リング	配　筋　図
ＭＨ１	２－２－Ｄ１３	なし	なし	なし	
ＭＨ２		２－２－Ｄ１３			
ＭＨ３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－６φ－１００@	１３φ	
ＭＨ４	４－２－Ｄ１３				
ＭＨ５	４－２－Ｄ１６				
ＭＨ６	４－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１３	２－６φ－１００@	１３φ	
ＭＨ７	４－２－Ｄ１９				

（注）── は一般部分のあばら筋を示す。
スリーブ材質は下記の中より選定し、図示する。
ＳＰ：鋼管（白管）　ＧＡ：溶融亜鉛めっき鋼鈑
ＶＵ：硬質塩化ビニル管（薄肉管）　ＲＳ：つば付き鋼管（黒管）　ＰＣ：紙チューブ

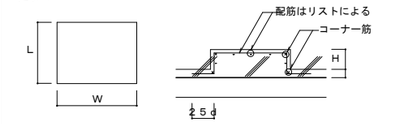
１６　機械基礎の配筋

（ａ）機械基礎（室内）



Ｗ	Ｌ	Ｈ	鉄筋補強	ｺｰﾅｰ筋	箇所数
			D10-200@	D13	
			D10-200@	D13	
			D10-200@	D13	

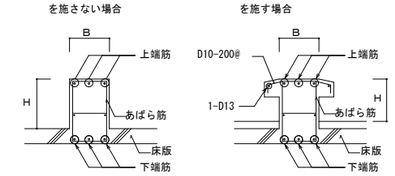
（ｂ）機械基礎（室外）



Ｗ	Ｌ	Ｈ	鉄筋補強	ｺｰﾅｰ筋	箇所数
			D10-200@	D13	
			D10-200@	D13	
			D10-200@	D13	

（注）アスファルト防水層にかかる面圧≦ １．０t/m² の場合に適用。

（ｃ）機械基礎　㎜
（ｉ床にアスファルト防水を施さない場合　（ii 床にアスファルト防水を施す場合

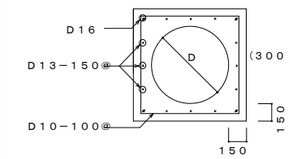


Ｂ×Ｈ			
上端筋			
下端筋			
あばら筋			
備考			

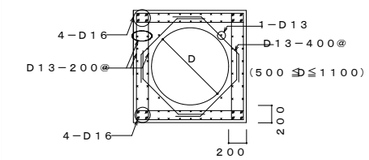
なお、腹筋，幅止め筋は 6-3（ｂ）及び 6-5　による。

１７　煙突の配筋

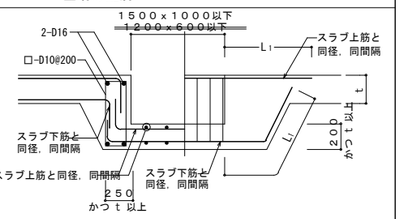
煙突の配筋は図示による。図示がなければ、下記による。
（ａ）最上階床よりの突出長さが１．５m以下の場合



（ｂ）最上階床よりの突出長さが1．5mを超え、3ｍ以下の場合



１８　釜場の配筋



付記

令和4年3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正
鶴岡市建設部建築課					

総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022. 03. 15
図面名	鉄筋コンクリート造配筋規準図（３）	縮尺	１：－（A1） １：－（A3）
担当			

1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司
1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司
1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司

図面番号 PS-005

深層混合処理工法(ウルトラコラム工法)による地業特記仕様書

1.工法概要

本工法は、建築物基礎地盤として十分な地耐力が示されない原地盤を、スラリー状にしたセメント系固化材を原地盤に注入しながら、攪拌翼で土と機械的に強制攪拌混合し、原地盤中に所定の強度を持った柱状の改良体を造成することで、工学的に安定した改良地盤とする工法で、その設計、施工、品質管理方法については、『改良地盤の設計及び施工管理指針』（日本建築センター）（以下『指針』）に準拠したものである。

2.特記事項

(1)施工数量は別紙数量表による。コラムの配置は施工図面による。

(2)品質検査方法

下記の基本的条件を満足することを前提に、品質検査方法は、品質のばらつきを考慮する計量基準型抜取検査による検査手法Aの抜取検査を実施する。

(2)-1.検査指標はコア供試体による一軸圧縮強さとする。

(2)-2.過去の施工実績における一軸圧縮強さデータによる変動係数の等分散性が確認されていること。

(2)-3.コア一軸圧縮強さの計画変動係数　Vd を　30 %　とする。

(2)-4.配合管理で目標とする変動係数　Vc を　30 %　とする。

3.施 工

(1)施工は、本設計図面、特記仕様書に基づくが、これに記載のないものは（建築工事一般仕様書）に基づき行う。

(2)施工に先立ち下記事項を記載した施工計画書を提出する。

(2-1)工事概要（地盤概要、設計基準強度）

(2-2)工事内容（設計数量計算書、施工計画図面）

(2-3)工事期間工程表

(2-4)主要施工機械および仮設設備と配置

(2-5)主要資材

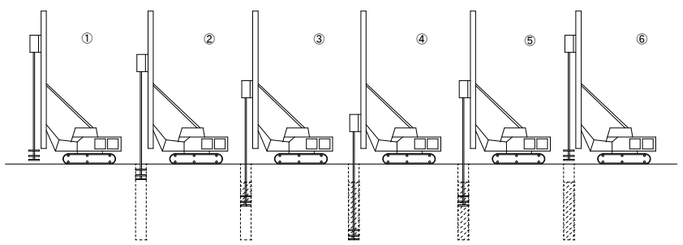
(2-6)施工要領（施工順序、スラリー注入量）

(2-7)施工管理（工程管理計画、品質管理計画、出来高管理計画、写真管理計画）

(2-8)その他（室内配合試験計画）

(2-9)安全管理、環境対策

(3)施工方法概略



①、リーダーの鉛直性を傾斜計で確認し
　攪拌軸をコラム芯にセット。

②、コラム頭部計画高まで空堀掘削。

③、スラリーを注入しながら所定の支持層まで
　貫入、攪拌混合。

④、先端処理、コラムを支持層に着底させる。

⑤、リーダーの鉛直性を確認しながら、引き上げ
　混合攪拌。

⑥、改良柱体造成完了。

(4)発生した残土は場内処分とする。

(5)その他、施工上で疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。

(6)施工会社は、（株）ソイル基工(ウルトラコラム工法)同等工法とする。

4.配合強度

配合強度Xfは、設計基準強度Fcと変動係数・採取ヶ所数により割増係数

αｔを用いて、次式による。　Xf＝αｔ×Fc

割増係数αｔは、合格率８０%とした下表による。

採取ヶ所数　N		1	2	3	4~6	7~8	9~
変動係数 Vc	25%(砂質土)	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
	30%(粘性土)	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
	35%(ローム)	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

5、施工管理方法

設計条件

1．固化材添加量　300　(kg/m3)　(室内配合試験結果により変更する場合がある)

2．水、固化材比　60　(%)　(試験施工状況により、変更する場合がある)

3．設計基準強度(Fc)　1000　(KN/m2)

3．固化材の種類　■一般固化材　□有機質用

4．コラム径は、コラム伏図、基礎リスト図を参照すること。

5．想定改良土　■粘性土　■砂質土　□有機質土　□ローム質土

6．想定先端土質土　想定 N 値　N =　15　(先端土質　■砂質土　■粘性土)

↓

施工前試験

1．現場の土を採取し、室内配合試験を行う。固化材添加量は3種類とし、7日強度の試験を行う。
　7日強度より28日強度の推定を行い、固化材添加量の確認を行う。

2．六価クロム抽出試験を行う。

3．配合強度　Xf の設定　Xf=Fc・αt

割り増し係数αt の設定

合格確率を確保する、割り増し係数αは配合管理で目標とする変動係数Vc、Vdと抜取箇所数により設定される。

配合強度の割り増し係数は　配合強度の表による。

↓

施　工

1．設計寸法・形状の確保
- 攪拌羽根　攪拌翼の径をスケール計測する。
- コラム芯　事前にコラム芯にマークを設ける。
- 掘削深度　深度計で計測する。

2．固化材
- 材料計量　水・固化材の重量
- スラリー比重　マッドバランスで測定する。

3．攪拌混合度
- 掘進・引上速度　速度計で測定する。
- 攪拌装置　掘削翼、攪拌翼の枚数等。

4．支持地盤
- 掘進速度　速度計で計測する。
- トルク値　トルク計で計測する。　(支持層の判断基準は、指針により監督員と協議する)

A 試掘　ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ調査箇所付近を試掘ロッドで掘削し、先端土質の確認を行う。
設計で想定した土質と差異がある場合は、監督員と協議する。

B 試験施工　ボーリング調査位置で施工し、混合状況、トルク値、掘削深度等を確認する。

C 本施工　本施工時に、以下のデーターをコラム1本毎に機械で記録管理する。
掘削最大深度(深度計)、トルク値(トルク計)、注入量(流量計)
施工地盤状況により、改良長の変更がある。

↓

施工後試験（品質検査）

1．コラム頭部及び深度方向のコアを採取して、圧縮試験を行いコア本体の強度の確認を行う。

コア採取箇所数　頭部コア　3　カ所　(モールドコア試験)
　　深度コア　3　カ所　(ボーリングコア試験)

2．改良柱体強度
抜取検査による品質検査の合格判定値ＸＬを下式で設定する。

$$XL=Fc+ka\frac{Fc\cdot Vd}{1-1.3Vd}$$

ka: 検査手法Aの合格判定係数
Vd: 設計で想定するコアの一軸圧縮強さの変動係数
Xn: 採取したコアの圧縮強度の平均値

XL ＜ Xn

検査手法Aの合格判定係数

コア採取箇所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数　ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

↓

報　告

工事施工後、次の事項について報告書をまとめ、監督員に提出する。

1．コラム伏図、番号

2．コラム施工日、改良径、掘削深度、改良長、注入量

3．固化材液の配合、固化材使用量

4．コアの強度結果、合格判定結果

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

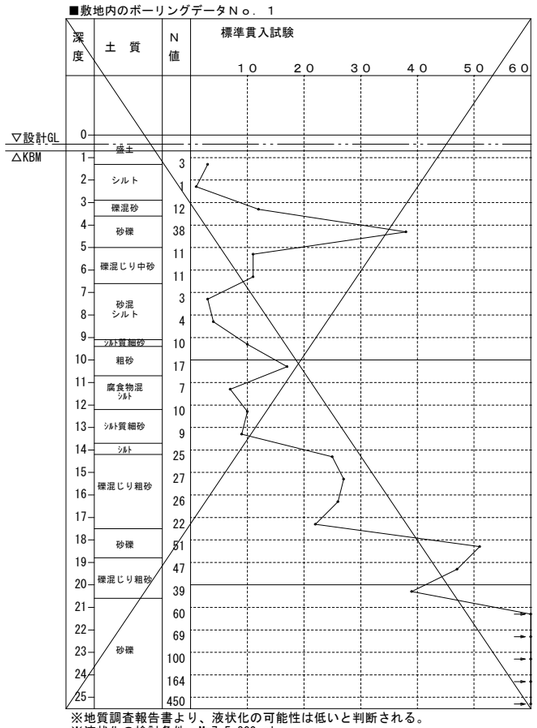
総・新穂・石川 設計共同企業体

工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司	図面番号
図面名	深層混合処理工法(ウルトラコラム工法)による地業特記仕様書　縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司 1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司	PS-006

地質調査柱状図

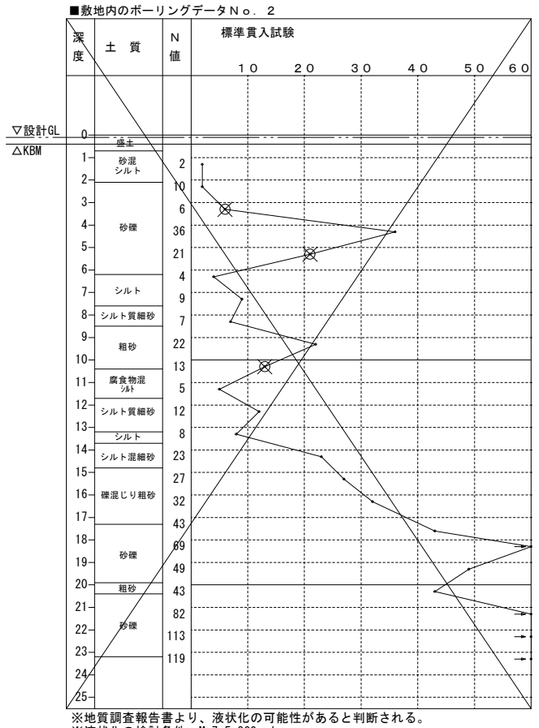
※KBM＝標高13.12(m)
※設計GL＝KBM＋260(mm)＝標高13.38(m)

■敷地内のボーリングデータＮｏ．１



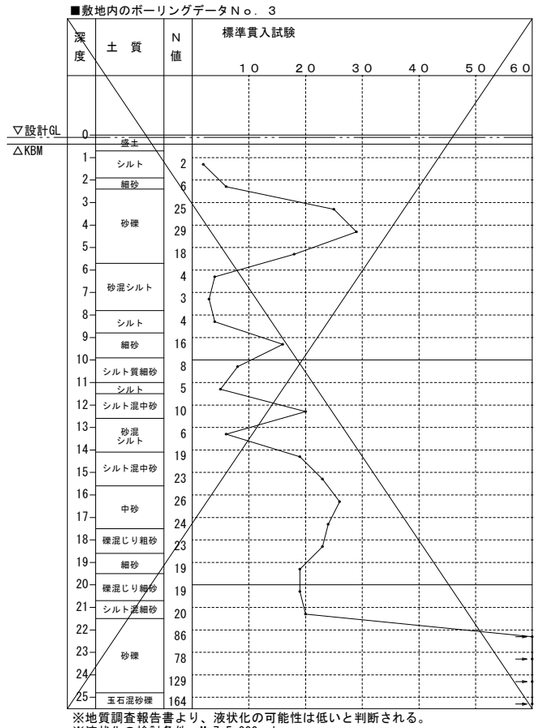
※地質調査報告書より、液状化の可能性は低いと判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
~~※液状化の危険性がある箇所：⊗~~

■敷地内のボーリングデータＮｏ．２



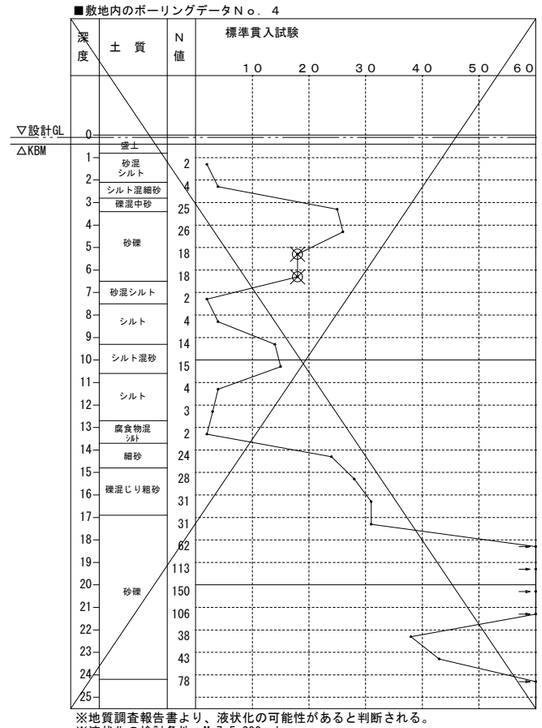
※地質調査報告書より、液状化の可能性があると判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
※液状化の危険性がある箇所：⊗

■敷地内のボーリングデータＮｏ．３



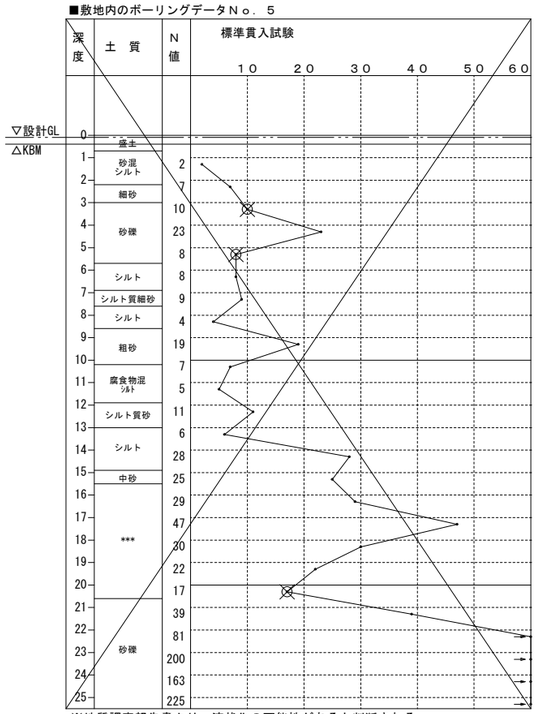
※地質調査報告書より、液状化の可能性は低いと判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
~~※液状化の危険性がある箇所：⊗~~

■敷地内のボーリングデータＮｏ．４



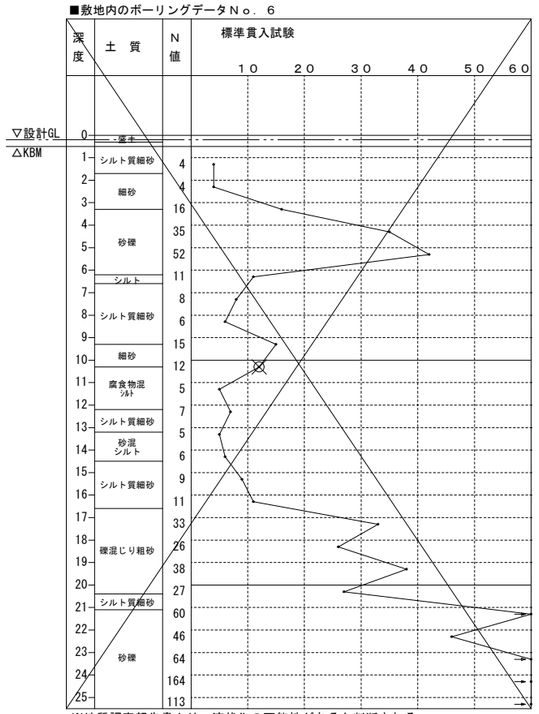
※地質調査報告書より、液状化の可能性があると判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
※液状化の危険性がある箇所：⊗

■敷地内のボーリングデータＮｏ．５



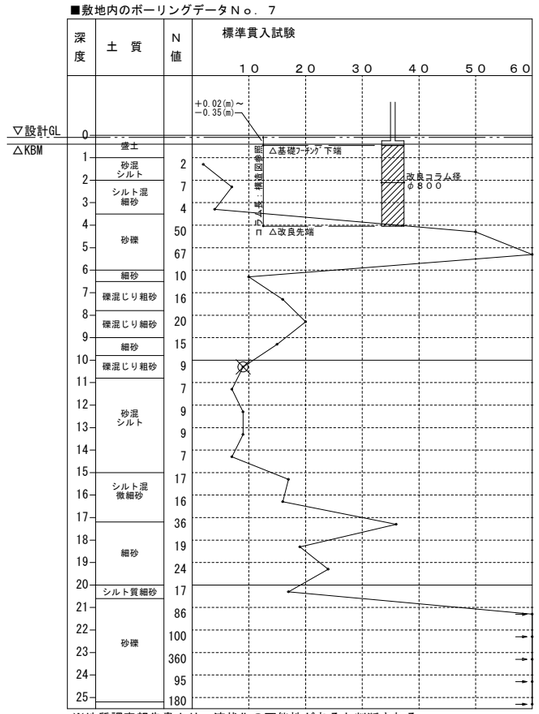
※地質調査報告書より、液状化の可能性があると判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
※液状化の危険性がある箇所：⊗

■敷地内のボーリングデータＮｏ．６



※地質調査報告書より、液状化の可能性があると判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
※液状化の危険性がある箇所：⊗

■敷地内のボーリングデータＮｏ．７



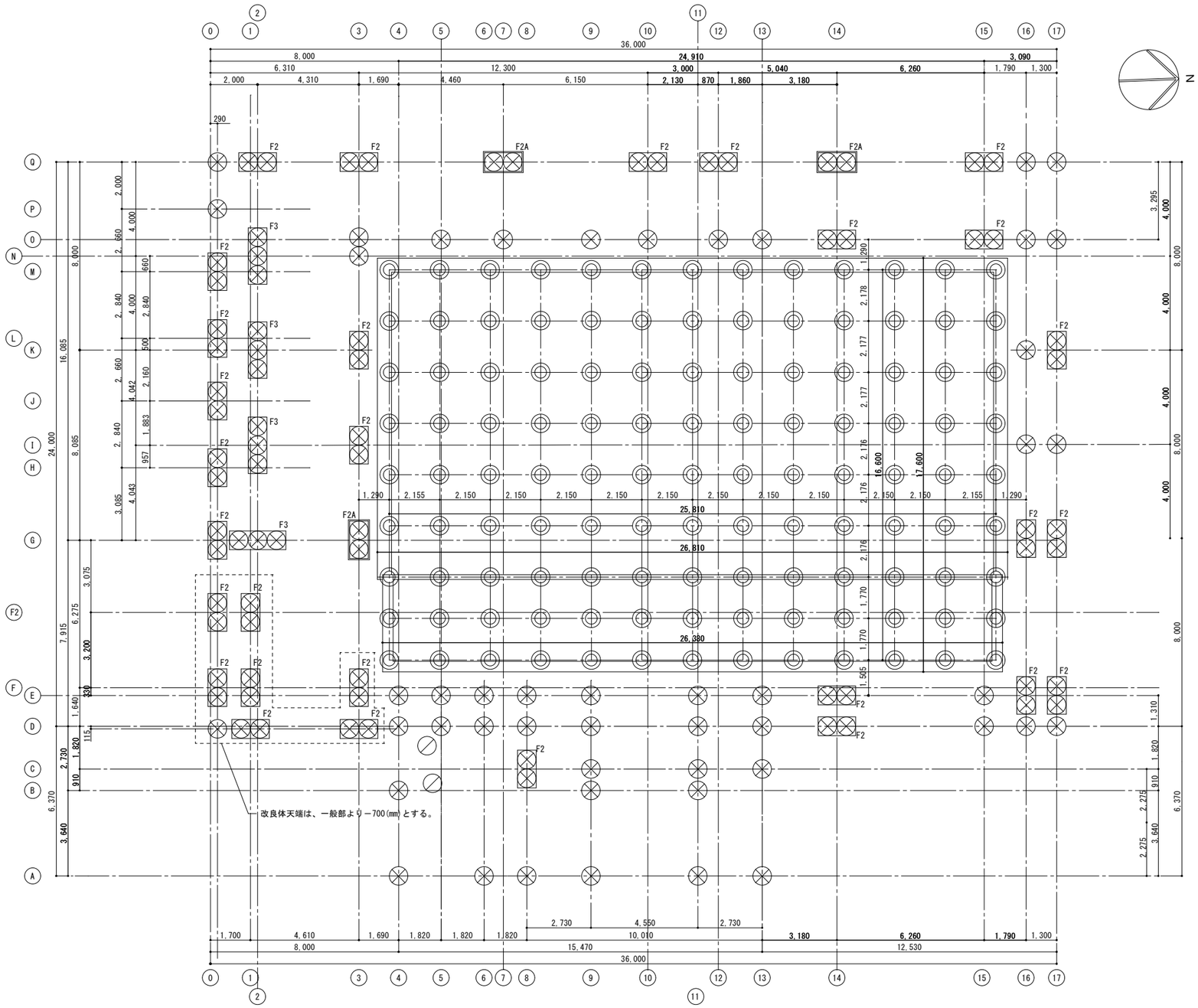
※地質調査報告書より、液状化の可能性があると判断される。
※液状化の検討条件：M=7.5,200gal
※液状化の危険性がある箇所：⊗

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.03.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 ボーリング柱状図 プール 縮尺 1：－(A1) 1：－(A3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-007
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

コラム数量表

位　　置	本体(ﾌﾟｰﾙｻｲﾄﾞ等)	プール底盤	設備基礎用
記　　号	⊗	◎	⊘
改良コラム径	φ800mm	φ800mm	φ800mm
設計基準強度	Fc=1000KN/m2	Fc=1000KN/m2	Fc=1000KN/m2
掘　削　長	3.60m	3.60m	3.69m
空　堀　長	0.42m	0.05m	現況地盤±0
設計コラム長	3.18m	3.55m	3.69m
本　　数	124本	117本	2本
固化材添加量	300kg/m3	300kg/m3	300kg/m3
備考		FS1,FS2	機械室

※捨てコンクリート厚　50mmとする。
支持地盤　：　砂礫
柱状改良工事施工前に試掘　4か所
地盤の確認



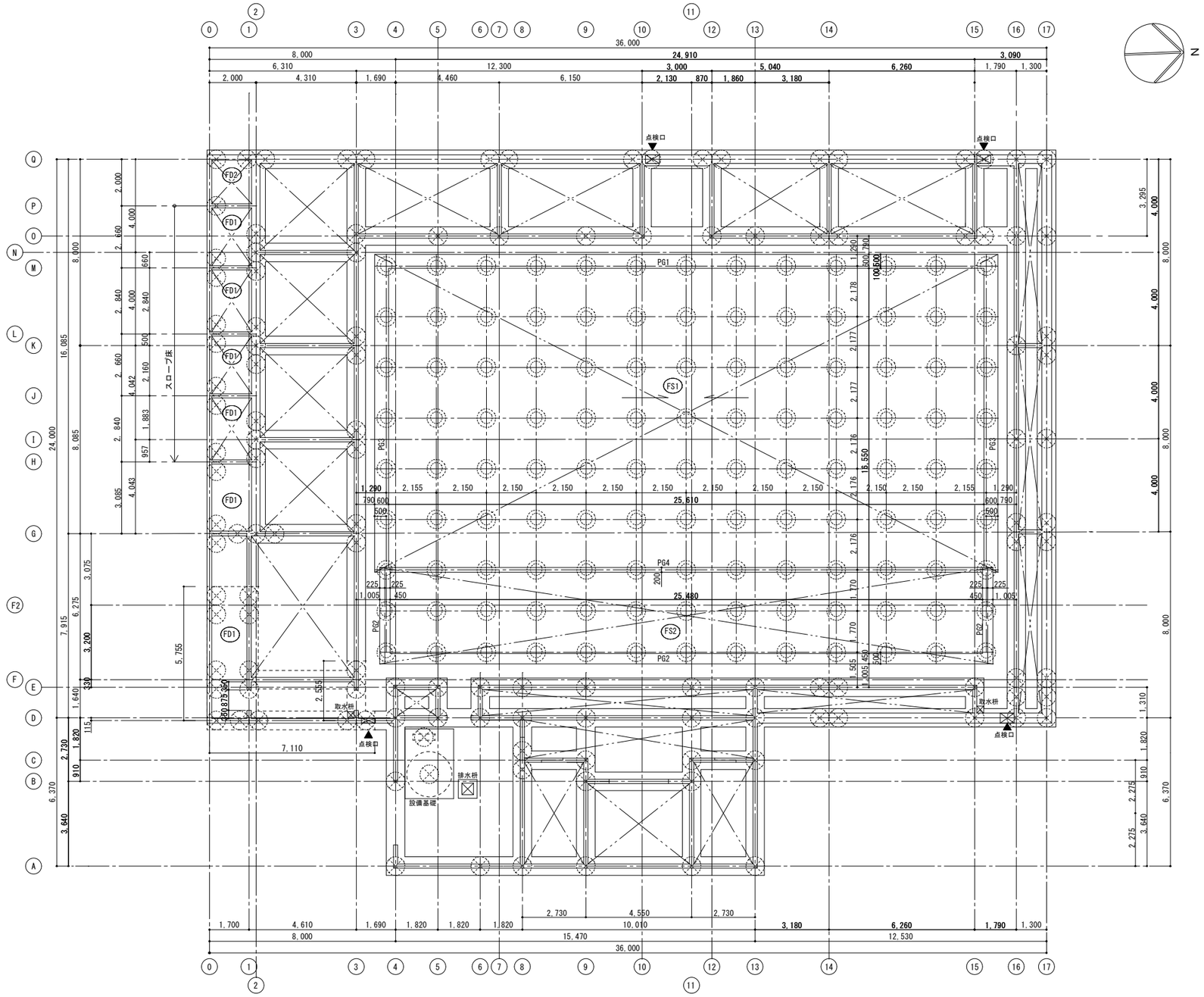
コラム伏図　S=1/100

1.特記なき符号は、F1とする。

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名	コラム伏図	縮尺	1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-008
													1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司

底盤リスト

符号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
FS1	250	上端筋	D13-@200	D13-@200	プールスラブ（水深：深い）
		下端筋	D13-@200	D13-@200	
FS2	250	上端筋	D13-@150	D13-@150	プールスラブ（水深：浅い）
		下端筋	D13-@150	D13-@150	
FD1	200	上端筋	D13-@200	D13-@200	スロープ下
		下端筋	D13-@200	D13-@200	
FD2	200	上端筋	D13-@200	D13-@200	スロープ下
		下端筋	D13-@200	D13-@200	



底盤伏図　S=1/100

・特記なき限り　下記による
基礎底　　設計GL － 350

特記事項

点検口　（600x600）　4ヶ所

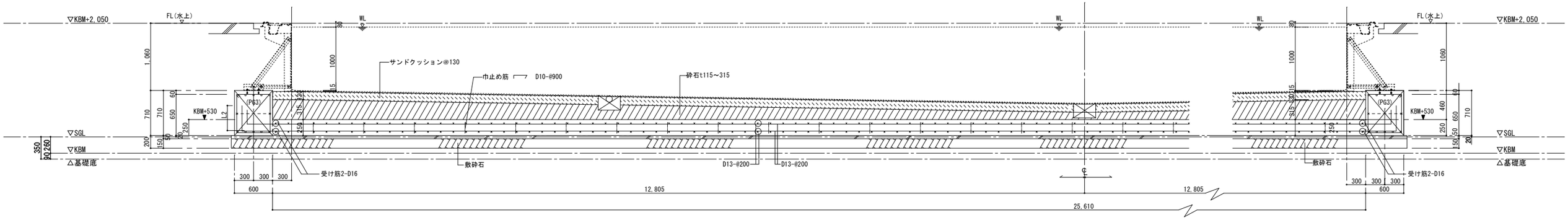
内部人通口（1200x600）　1ヶ所

山砂埋戻し箇所を示す。

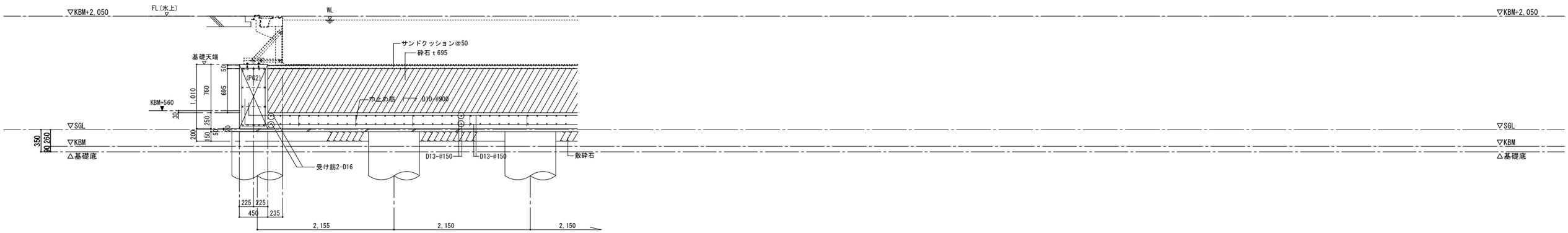
付記	令和4年3月15日	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
	鶴岡市建設部建築課							図面名	底盤伏図 縮尺 1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-009
												1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

マットスラブ配筋詳細図　S＝1/30

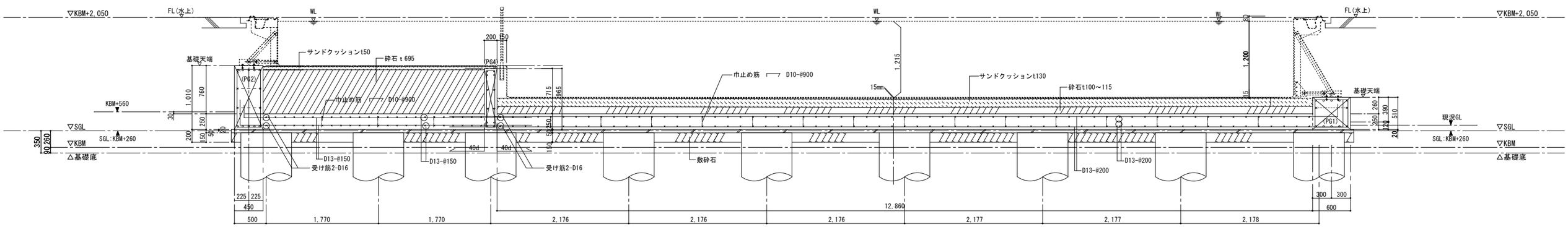
1）南北方向



2）南北方向



3）東西方向

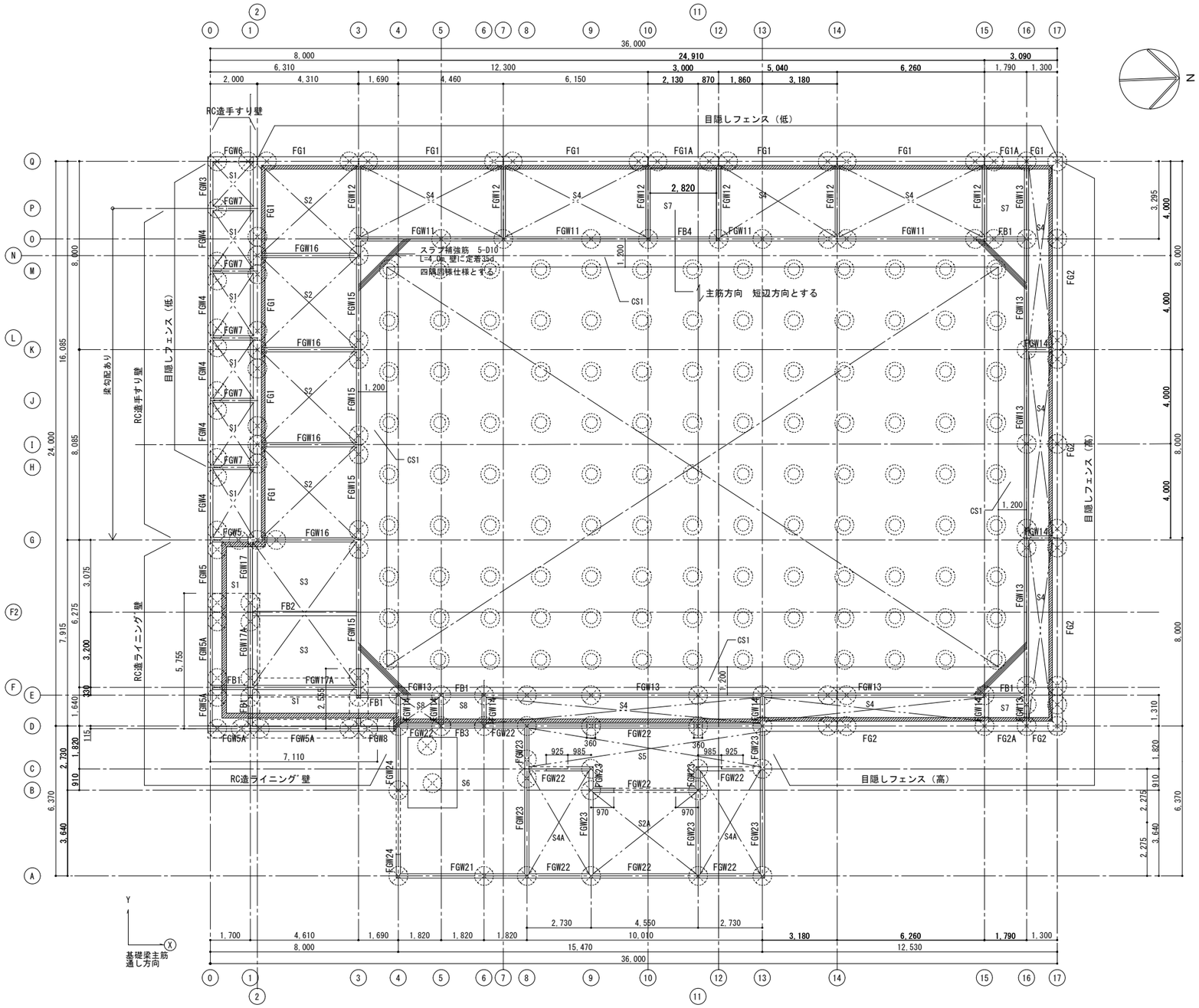


付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 マットスラブ詳細図	縮尺 1/30(A-1) 1/200(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	S-010
											1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

スラブ　リスト

短辺方向を主筋とし、上端配筋とする。

符号	版厚	位置	短辺方向 ※片持ちスラブは片持ち方向	長辺方向	備考
S1	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	スロープ
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
S2	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	プールサイド
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
S2A	150	上端筋	D10 - @150	D10 - @200	用具室・倉庫
		下端筋	D10 - @150	D10 - @200	
S3	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	プールサイド
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
S4	150	上端筋	D10 - @150	D10 - @200	プールサイド 目隠しフェンス外周部
		下端筋	D10 - @150	D10 - @200	
S4A	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	更衣室
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
S5	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	監視室
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
S6	150	上端筋	D10 - @100	D10 - @200	1FL 機械室
		下端筋	D10 - @100	D10 - @200	
S7	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	プールサイド
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
S8	150	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	プールサイド
		下端筋	D10 - @200	D10 - @200	
CS1	150	上端筋	D10+D13 - @150	D10 - @200	プールサイド（片持ち）
		下端筋	D10+D13 - @150	D10 - @200	
DS	120	上端筋	D10 - @200	D10 - @200	配管ピット土間コン ※範囲は意匠図参照



1階床伏図、1階梁伏図　S=1/100

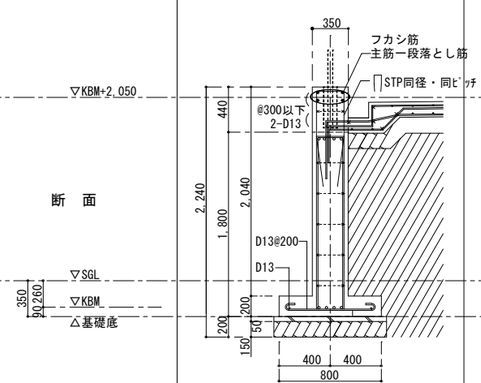
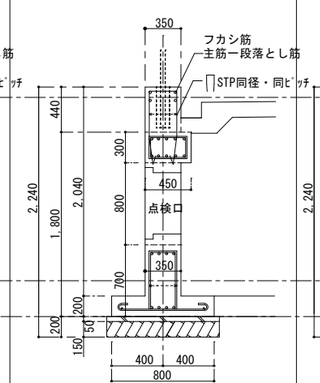
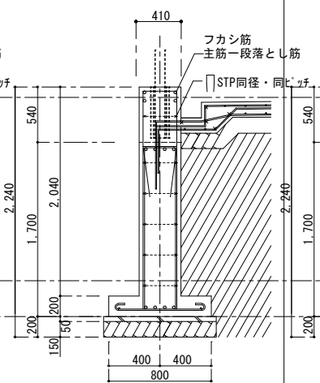
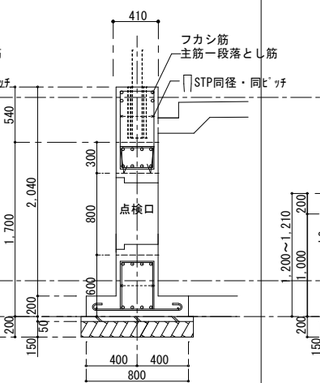
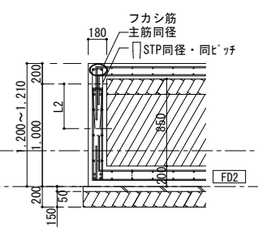
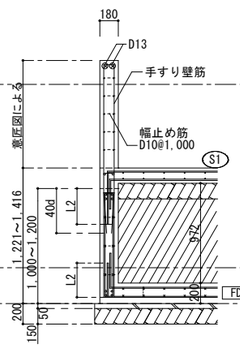
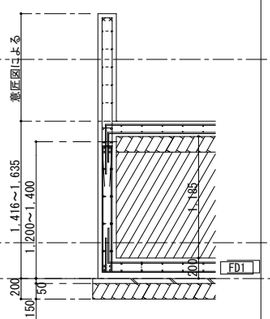
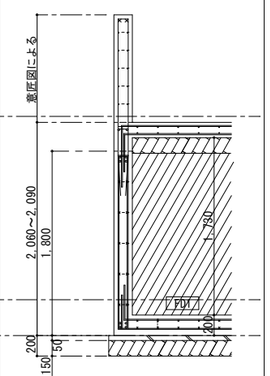
特記事項

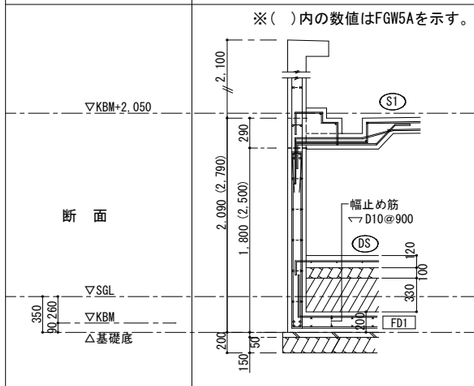
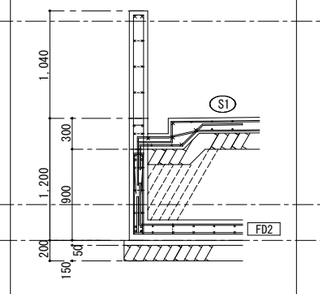
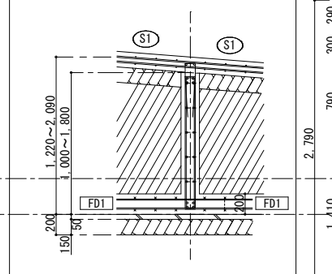
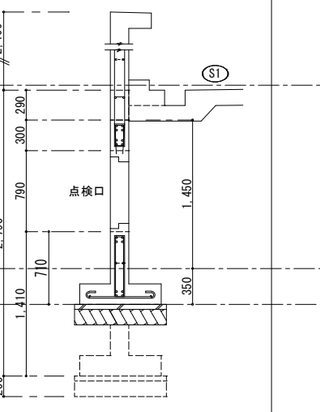
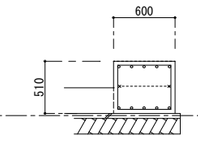
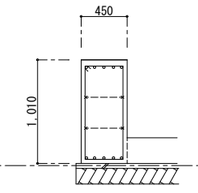
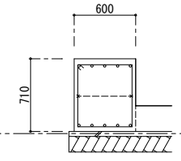
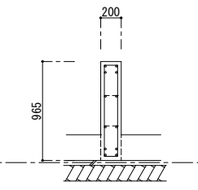
- 排水溝を示す
- 山砂埋戻し箇所を示す。
- スラブ勾配を有する梁材を示す。高低差50mm程度
- プールサイド床は微少の水勾配を有する。
- A ― H 梁部材断面算定位置
- イ ― ヘ 梁部材断面算定位置

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司 1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	図面番号
								図面名	1階床伏図、基礎梁伏図	縮尺	1/100(A-1) 1/200(A-3)	担当	PS-011

基礎梁リスト１　S=1/30

※（共通事項）布基礎部分の配筋：D13@200

符　号	FG1	FG1A（点検口付き）	FG2	FG2A（点検口付き）	FGW3	FGW4		
位　置	外周	外周	外周	外周	外部出入り スロープ入口	スロープ		
断　面								
B x D	350 x 1,800	450 x 300 ＋ 350 x 700	410 x 1,800	410 x 300 ＋ 410 x 600	180 x 1,000	180 x 1,000～1,200	180 x 1,200～1,400	180 x 1,400～1,800
上端筋	4-D22	5-D25　4-D25	4-D25	4-D25	2/2-D16	2/2-D16	同左	同左
下端筋	4-D22	5-D25　4-D25	4-D25	4-D25	2/2-D16	2/2-D16	同左	同左
スターラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	同左	同左
腹　筋	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	6-D13	6-D13	8-D13	10-D13
幅止め筋	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000

符　号	FGW5（FGW5A）	FGW6	FGW7	FGW8（点検口付き）	PG1	PG2	PG3	PG4
位　置	プールサイド ライニング壁有り	スロープ入口床、手すり壁	スロープ入口床	プールサイド ライニング壁有り	プールスラブ	プールスラブ	プールスラブ	プールスラブ
断　面	※(　)内の数値はFGW5Aを示す。 							
B x D	180 x 1,800（180 x 2,500）	180 x 900	180 x 1,000～1,800	180 x 300 ＋ 180 x 710	600 x 510	450 x 1,010	600 x 710	200 x 965
上端筋	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	5-D22	5-D22	5-D22	2/2-D16
下端筋	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	5-D22	5-D22	5-D22	2/2-D16
スターラップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@150
腹　筋	10-D13（18-D13）	8-D13	8-D13～ 10-D13	2-D13	2-D13	4-D13	2-D13	4-D16
幅止め筋	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000

付記

令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正

総・新穂・石川 設計共同企業体

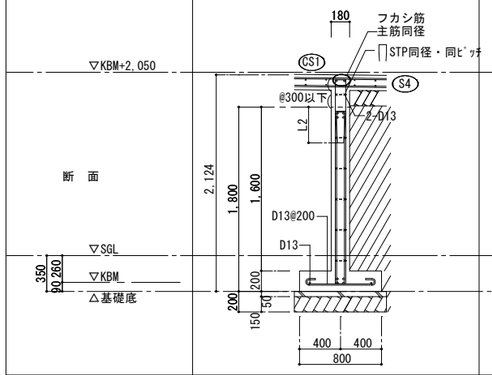
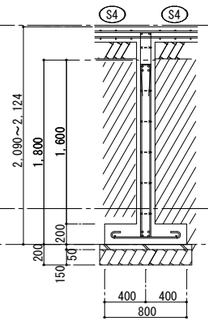
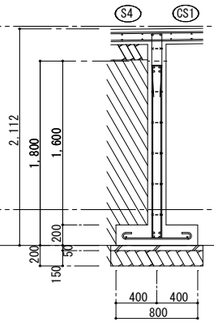
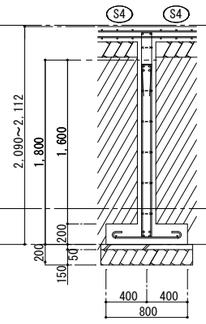
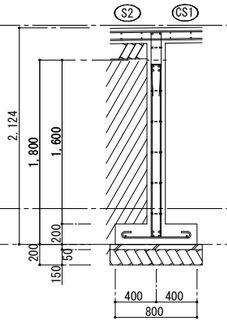
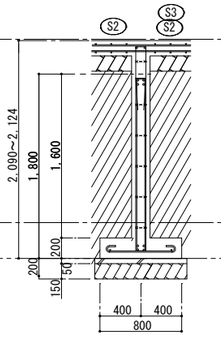
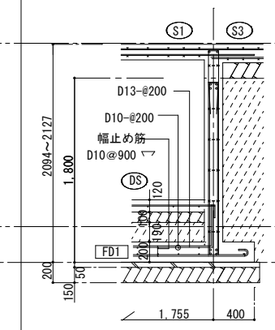
工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15
図面名	基礎梁リスト１　縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	担当	

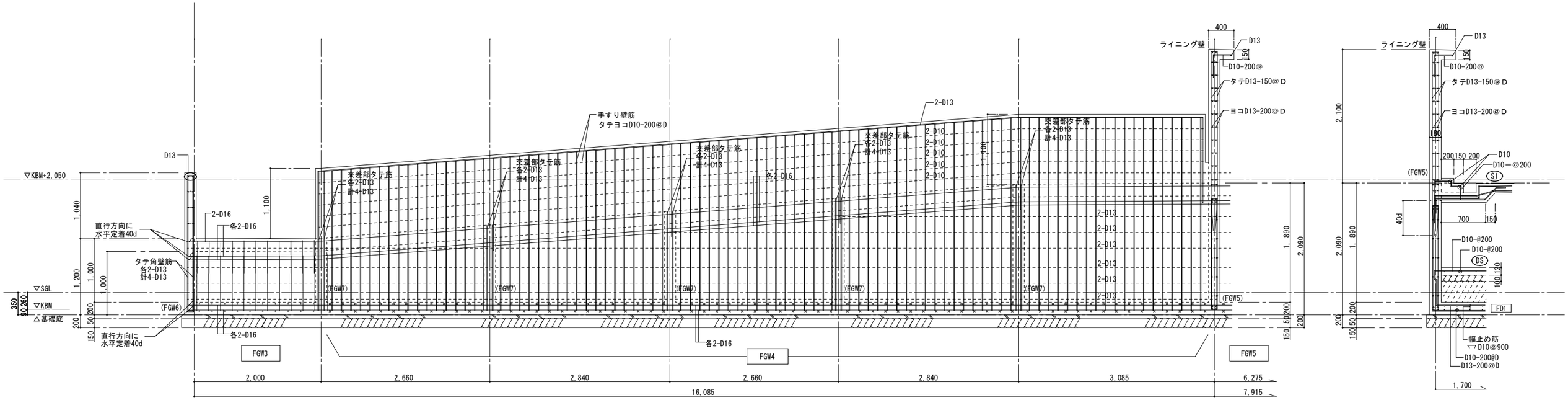
1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司
1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司
1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司

図面番号 PS-012

基礎梁リスト２　S=1/30

※（共通事項）布基礎部分の配筋：D13@200

符　号	FGW11	FGW12	FGW13	FGW14	FGW15	FGW16	FGW17（FGW17A）	
位　置	プールサイド床	プールサイド床	プールサイド床	プールサイド床	プールサイド床	プールサイド床	プールサイド床	
断　面							※(　)内の数値はFGW17Aを示す。 	
B x D	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800 (180 x 2,500)	
上端筋	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	
下端筋	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	
スターラップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	
腹　筋	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	
幅止め筋	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	



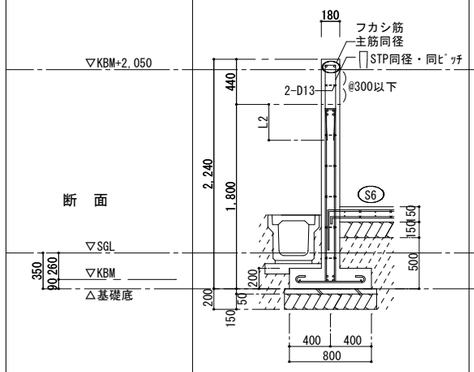
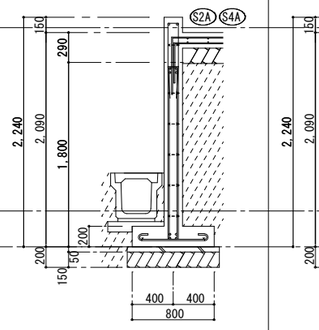
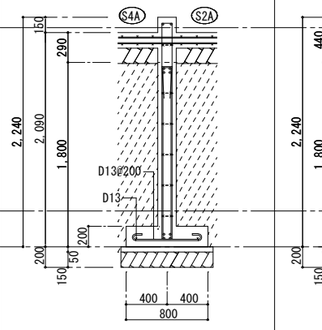
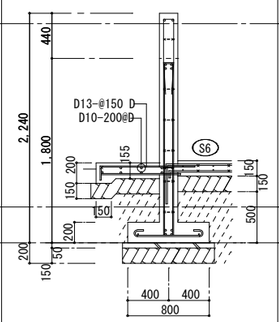
配筋詳細図　S=1/30

STP筋は記入なきは　D10-150@
ヨコ筋　（腹筋）は　D13
幅止め筋　は　D13

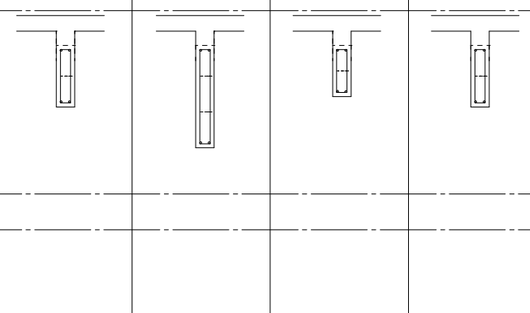
付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名	基礎梁リスト２　縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	担当		1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-013
												1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

基礎梁リスト３　S=1/30

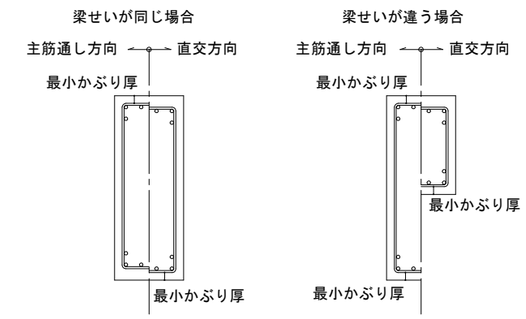
※（共通事項）布基礎部分の配筋：D13@200

符　号	FGW21	FGW22	FGW23	FGW24
位　置	機械室	更衣室、用具室 倉庫	更衣室、倉庫	機械室
断　面				
B x D	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800	180 x 1,800
上端筋	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16
下端筋	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16	2/2-D16
スターラップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹　筋	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13
幅止め筋	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000	D13@1,000

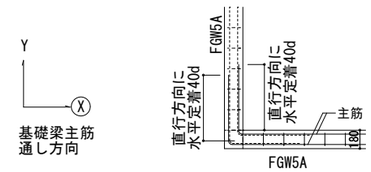
小梁リスト１　S=1/30

	FB1	FB2	FB3	FB4
符　号	FB1	FB2	FB3	FB4
位　置	プールサイド	プールサイド	プールサイド	プールサイド
断　面				
B x D	180 x 500	180 x 1,000	180 x 400	180 x 500
上端筋	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16
下端筋	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16
スターラップ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹　筋	2-D10	4-D10	2-D10	2-D10
幅止め筋	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000

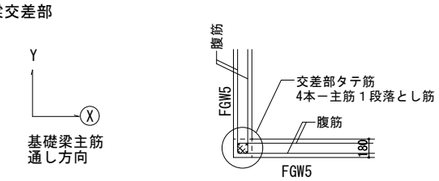
基礎梁・小梁　主筋位置



基礎梁・小梁主筋およびフカシ筋の定着



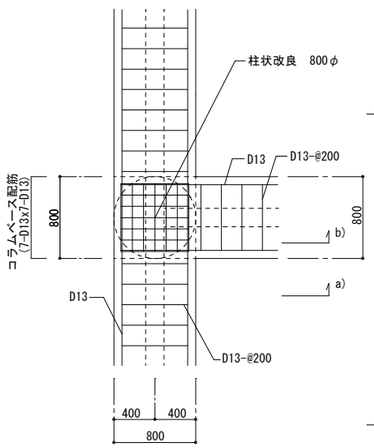
基礎梁交差部



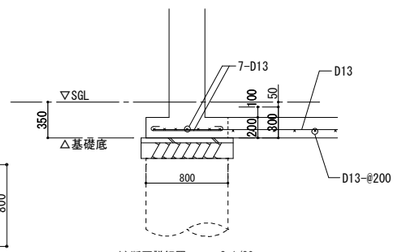
基礎フーチングリスト

柱状改良１本

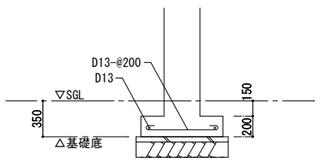
F1



基礎詳細図１　S=1/30



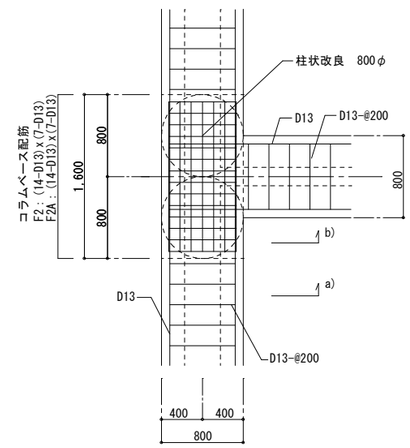
b)断面詳細図　S=1/30



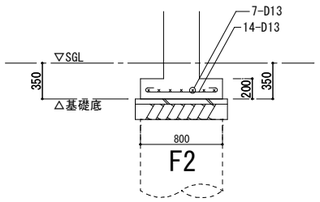
a)断面詳細図　S=1/30

柱状改良２本

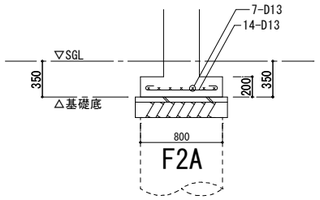
F2、F2A



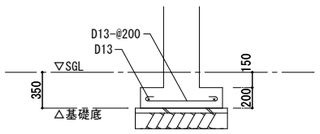
基礎詳細図２　S=1/30



b)F2断面詳細図　S=1/30



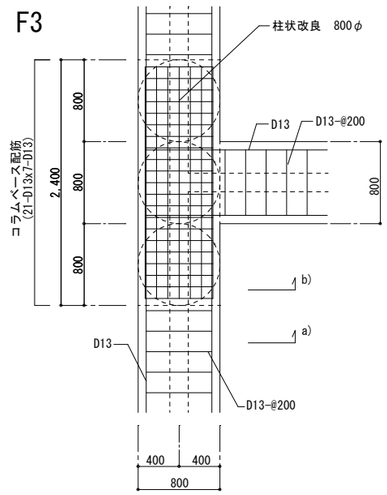
b)F2A断面詳細図　S=1/30
※３カ所



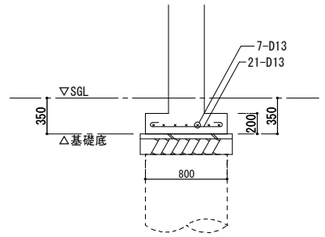
a)断面詳細図　S=1/30

柱状改良３本

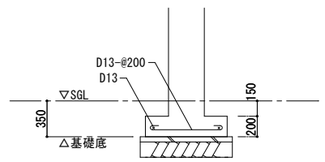
F3



基礎詳細図３　S=1/30

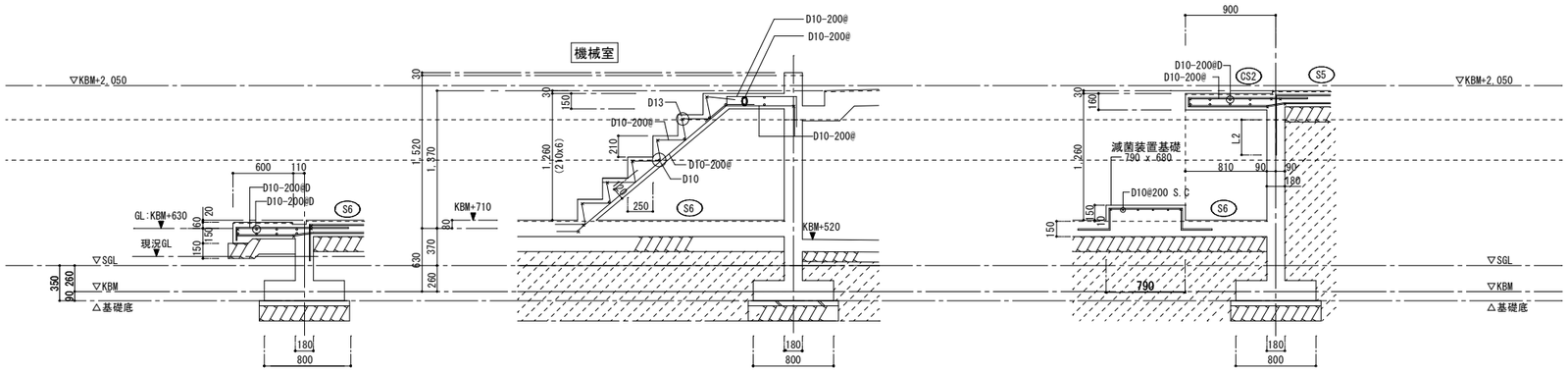


b)断面詳細図　S=1/30



a)断面詳細図　S=1/30

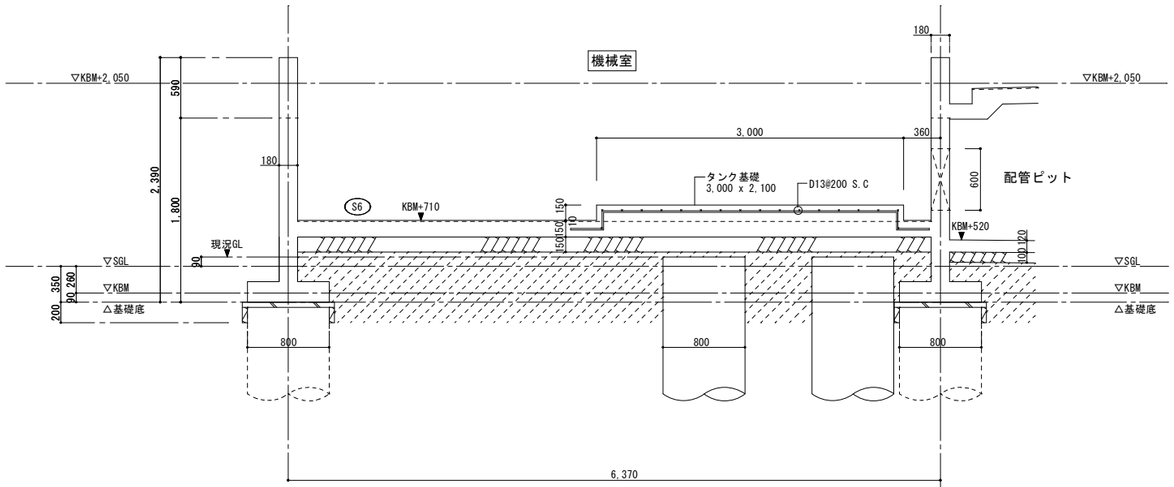
付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 基礎梁リスト３ 小梁リスト１ 縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司 1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	PS-014



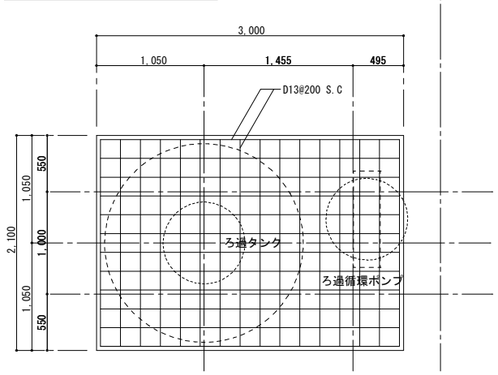
機械室出入口詳細図　S=1/30

機械室階段詳細図１　S=1/30

機械室階段詳細図２　S=1/30

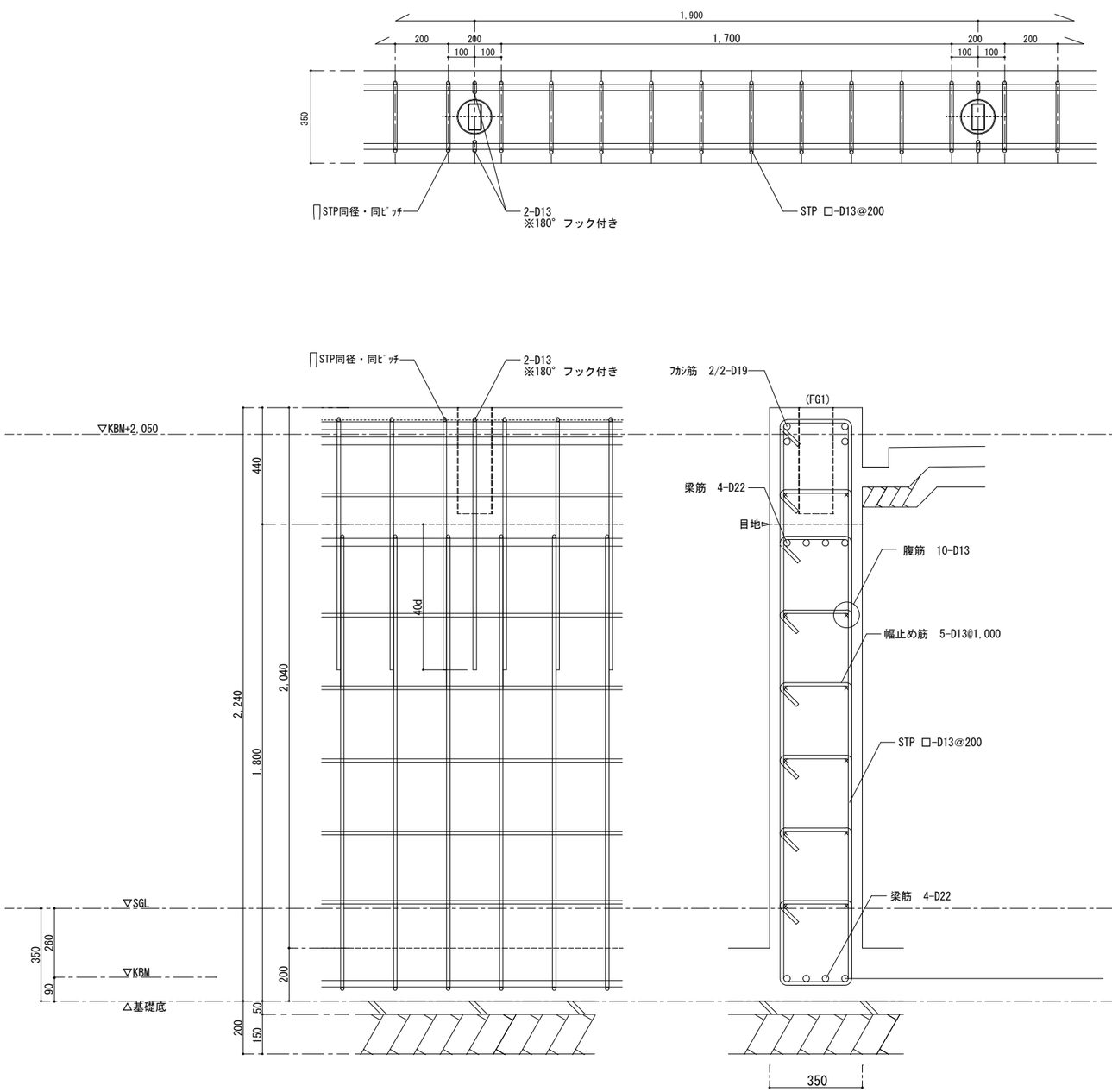


機械室タンク基礎細図　S=1/30

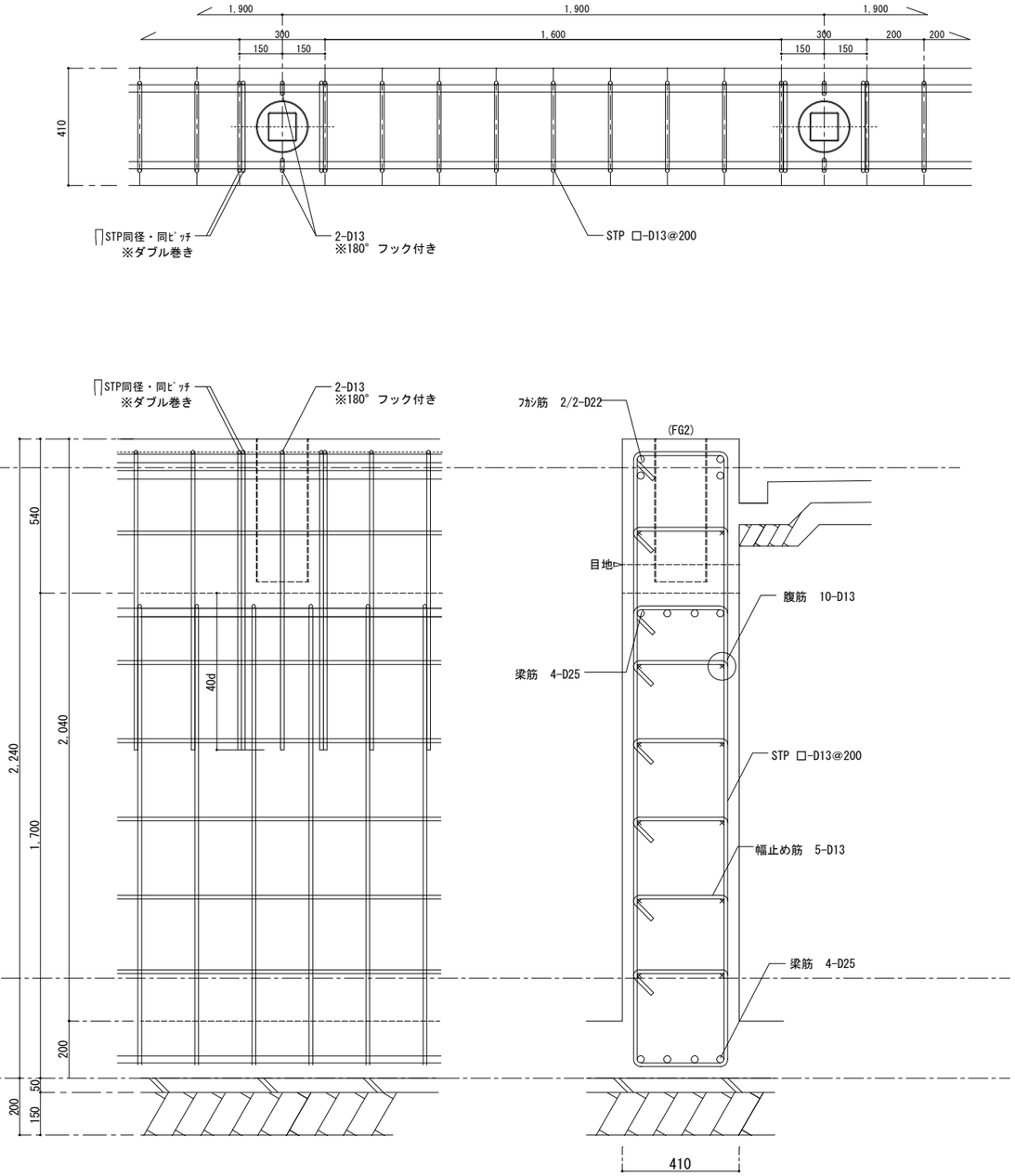


タンク基礎　平面詳細図　S=1/30

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 部分詳細図 縮尺 1/30(A-1) 1/60(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-015
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

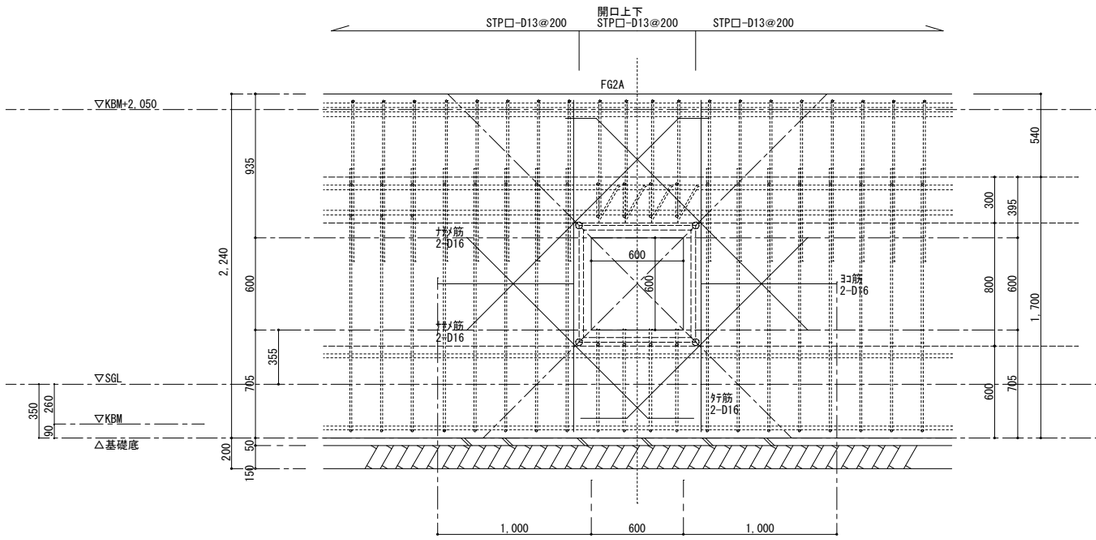


FG1フェンス部　詳細図　　S=10

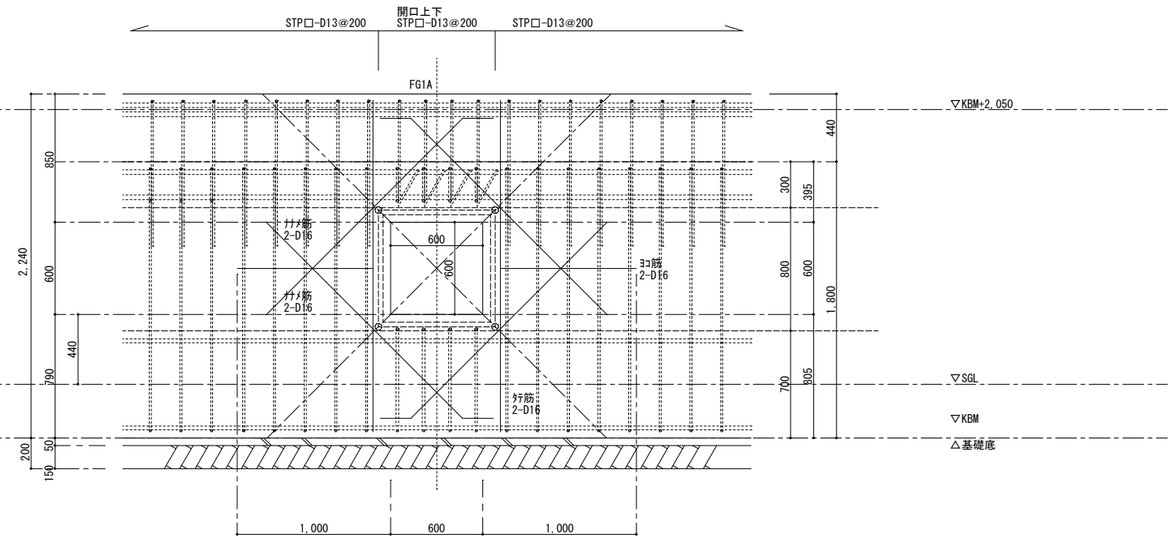


FG2フェンス部　詳細図　　S=10

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 フェンス部　詳細図　縮尺 1/10(A-1) 1/20(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-016
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	

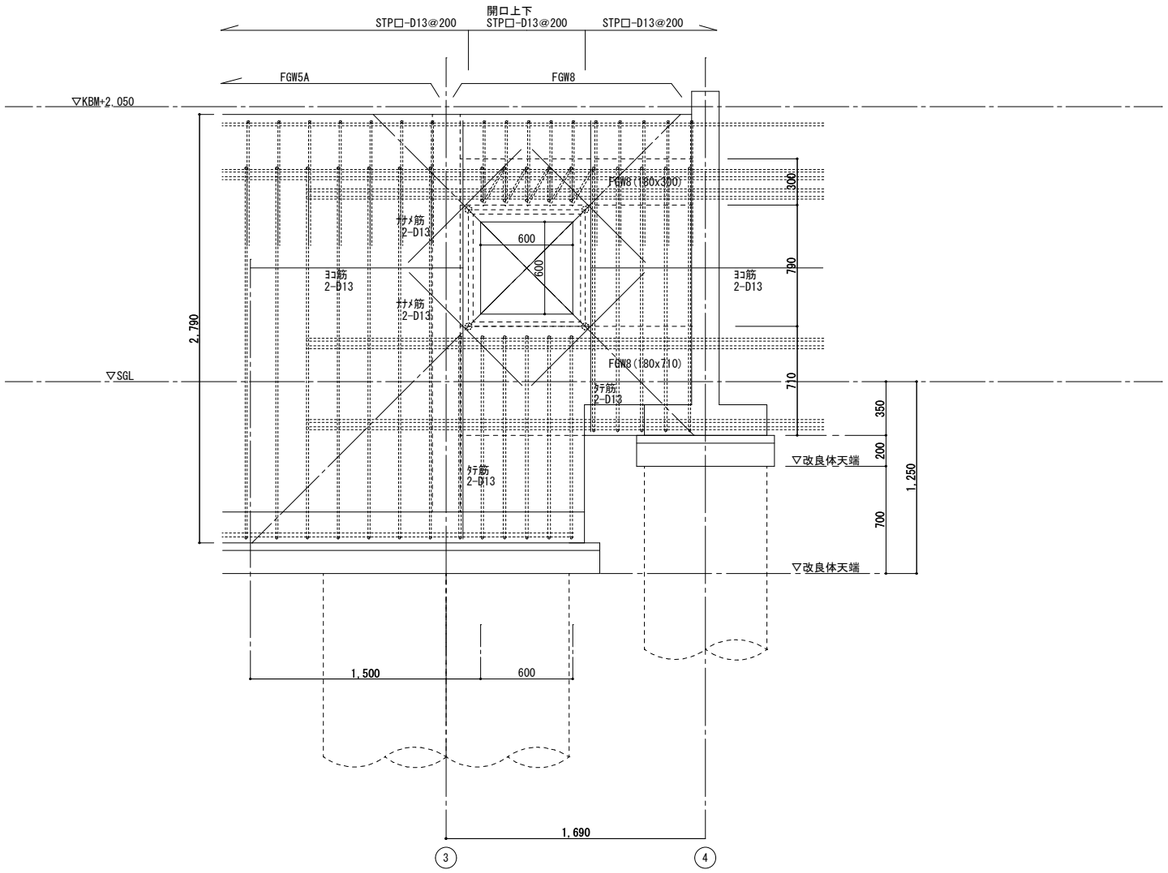


FG2A　躯体厚410mm　開口補強図　S=1/20



FG1A　躯体厚350mm　開口補強図　S=1/20

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名	鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付	2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号　小野寺　雄　司 1級建築士 登録番号 151570号　太　田　泰　司 1級建築士 登録番号 151567号　石　川　裕　司	図面番号
								図面名	部分断面詳細図　（点検口）　縮尺 1/20(A-1) 1/40(A-3)	担当			PS-017



躯体厚180㎜　開口補強図　S=1/20

付記	令和4年3月15日 鶴岡市建設部建築課	担当	係長	主査	課長	訂正	総・新穂・石川 設計共同企業体	工事名 鶴岡市立朝暘第五小学校改築プール整備工事	日付 2022.3.15	1級建築士 登録番号 169153号 小野寺 雄 司	図面番号
								図面名 部分断面詳細図２（点検口） 縮尺 1/20(A-1) 1/40(A-3)	担当	1級建築士 登録番号 151570号 太 田 泰 司	PS-018
										1級建築士 登録番号 151567号 石 川 裕 司	